

---

# 新潟県ヤングケアラー実態調査結果 報告書

---

令和4年6月

新潟県福祉保健部子ども家庭課



# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的 .....	1
2 調査方法 .....	1
3 調査対象 .....	1
<b>II. 中高生の生活実態に関するアンケート調査結果</b> .....	<b>3</b>
第1章 中高生アンケート調査 調査概要 .....	3
第2章 中高生アンケート調査 調査結果 .....	4
(1) 基本情報 .....	4
(2) ふだんの生活について .....	6
(3) 家庭や家族のことについて .....	9
(4) ヤングケアラーについて .....	27
第3章 『中高生アンケート調査』の追加分析について .....	31
(1) 世話をしている家族の有無別にみた生活等の状況 .....	31
(2) 性別による世話の状況の違い .....	34
(3) 家族構成による世話の状況の違い .....	39
(4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等 .....	44
(5) 世話を必要としている家族による世話の状況等 .....	50
(6) 世話をすることに感じているきつさによる世話の状況の違い .....	56
(7) ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い .....	62
(8) 世話に関しての相談の状況 .....	75
第4章 中高生アンケート調査 自由意見 .....	76
(1) 話を聞いてほしい、理解してほしい .....	76
(2) 要望、求める支援（世話をしている家族がいると回答した生徒の意見） .....	76
(3) ヤングケアラーに必要だと思う支援 .....	77
(4) ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと .....	79
<b>III. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート 調査結果</b> .....	<b>81</b>
第1章 学校調査 調査概要 .....	81
(1) 調査対象 .....	81
(2) 回答方法 .....	81

(3) 実施時期.....	81
(4) 回収状況.....	81
第2章 学校アンケート調査 調査結果.....	82
(1) 学校の概要.....	82
(2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応.....	84
(3) ヤングケアラーについて.....	94
(4) 個別の事例.....	111

#### IV. 事業所におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査結果 ..... 119

第1章 事業所調査 調査概要.....	119
(1) 調査対象.....	119
(2) 回答方法.....	119
(3) 実施時期.....	119
(4) 回収状況.....	119
第2章 事業所アンケート調査 調査結果.....	120
(1) 事業所の概要.....	120
(2) ヤングケアラーについて.....	121
(3) 個別の事例.....	132

#### V. 要保護児童対策地域協議会に関するアンケート調査結果 ..... 137

第1章 要保護児童対策地域協議会調査 調査概要.....	137
(1) 調査対象.....	137
(2) 回答方法.....	137
(3) 実施時期.....	137
(4) 回収状況.....	137
第2章 要保護児童対策地域協議会アンケート調査 調査結果.....	138
(1) 要保護児童対策協議会の概要.....	138
(2) ヤングケアラーについて.....	138
(3) 要保護児童対策地域協議会における要保護（要支援）児童への対応について....	142
(4) 要保護児童対策地域協議会を設置している市町村におけるヤングケアラーに関する取組について.....	149

<b>VI. 児童相談所に関するアンケート調査結果</b> .....	<b>163</b>
第1章 児童相談所調査 調査概要 .....	163
(1) 調査対象 .....	163
(2) 回答方法 .....	163
(3) 実施時期 .....	163
(4) 回収状況 .....	163
第2章 児童相談所アンケート調査 調査結果 .....	164
(1) 児童相談所の概要 .....	164
(2) ヤングケアラーについて .....	164
(3) 児童相談所におけるヤングケアラーに関する取組について .....	165
 <b>VII. ヤングケアラーへの対応に関するインタビュー調査結果</b> .....	 <b>173</b>
第1章 調査概要 .....	173
(1) 調査対象 .....	173
(2) 調査方法 .....	173
(3) 実施時期 .....	173
第2章 調査結果 .....	173
 <b>VIII. まとめ</b> .....	 <b>192</b>

## <調査票様式>

### ◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は、規正標本数を基に算出した百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
2. 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100％が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。



# I. 調査の概要

---

## 1 調査目的

新潟県におけるヤングケアラーの実態について、子どもの視点、支援者の視点の両面から捉えた、アンケート調査に加え、適宜インタビュー調査を実施することにより、様々な角度から多角的に把握し、支援等の検討の基礎資料とするため調査を実施した。

## 2 調査方法

- ・一次調査として、以下の調査対象者（機関）に対し、WEB及び書面にてアンケート調査を実施（調査期間：令和3年8月30日から10月8日まで）
- ・二次調査として、アンケート調査に回答のあった支援機関（市町村要対協、学校等、居宅介護事業所等）から抽出し、インタビュー調査を実施（調査期間：令和3年12月から4年3月まで）

## 3 調査対象

### （1）児童・生徒を対象とした調査

①県内の公立中学校2学年、及び全日制高校2学年等に在籍する児童・生徒

ア 中学2年生 17,259名（有効回答数 5,705名 回答率 33.1%）

イ 全日制高校2年生 12,936名（有効回答数 4,722名 回答率 36.5%）

参考 定時制高校、通信制高校2年生相当 回答数 576名

### （2）支援機関を対象とした調査

①県内の公立小・中学校、特別支援学校、及び全日制高校等

789校（有効回答数 750校 回答率 95.1%）

②県内の児童相談所、市町村要保護児童対策地域協議会（要対協）調整機関

ア 児童相談所 6カ所（有効回答数 6カ所 回答率 100.0%）

イ 市町村要対協 30カ所（有効回答数 30カ所 回答率 100.0%）

③県内の居宅介護支援事業所、障害者相談支援事業所等

ア 居宅介護支援事業所等 836カ所（有効回答数 503カ所 回答率 60.2%）

イ 障害者相談支援事業所等 167カ所（有効回答数 112カ所 回答率 67.1%）

※比較対象として使用している「全国調査」の出典は、以下のとおり

「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書 令和3年3月 三菱UFJリサーチ  
&コンサルティング（厚生労働省令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業）」

- ・市町村要対協へのアンケート調査（調査期間：令和3年1月～2月）
- ・中学校・高校へのアンケート調査（調査期間：令和2年12月～令和3年2月）
- ・中高生へのアンケート調査（調査期間：令和2年12月～令和3年2月）



## Ⅱ. 中高生の生活実態に関するアンケート調査結果

---

### 第1章 中高生アンケート調査 調査概要

#### (1) 調査対象

県内の公立中学校2学年、及び全日制高校2学年等に在籍する児童・生徒  
ア 中学2年生 17,259名（有効回答数 5,705名 回答率 33.1%）  
イ 全日制高校2年生 12,936名（有効回答数 4,722名 回答率 36.5%）  
参考 定時制高校、通信制高校2年生相当 回答数 576名

#### (2) 回答方法

WEBにてアンケート調査

#### (3) 実施時期

令和3年8月30日から10月8日まで

#### (4) 回収状況

各学校種別での回収状況は以下のとおり。

図表-1 回収状況

	有効回答数
中学2年生	5,705
全日制高校2年生	4,722
定時制高校2年生	553
通信制高校2年生	23

## 第2章 中高生アンケート調査 調査結果

### (1) 基本情報

#### ① 性別

回答者の性別は、以下のとおり。

図表－2 性別

	調査数 (n)	男性	女性	その他	無回答
中学2年生	5,705	48.8%	50.5%	0.8%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	45.8%	52.9%	1.3%	0.0%
定時制高校2年生	553	47.4%	49.7%	2.9%	0.0%
通信制高校2年生	23	43.5%	52.2%	4.3%	0.0%

#### ② 居住地

回答者の居住地は、以下のとおり。

図表－3 居住地

	調査数 (n)	下越地域	新潟地域	中越地域	魚沼地域	上越地域	佐渡地域	無回答
中学2年生	5,705	9.0%	51.3%	21.7%	3.7%	12.8%	1.5%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	3.9%	38.1%	33.5%	9.0%	11.6%	3.9%	0.0%
定時制高校2年生	553	3.8%	33.6%	36.2%	10.1%	12.8%	3.4%	0.0%
通信制高校2年生	23	0.0%	13.0%	47.8%	0.0%	30.4%	8.7%	0.0%

### ③ 同居家族

同居家族は、いずれの学校種でも「母親」が最も高く、次いで「父親」、「弟・妹」となっている。

定時制高校2年生相当、通信制高校生は他に比べ「父親」が低くなっている。

図表－4 同居家族（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答
中学2年生	5,705	97.7%	87.4%	29.0%	21.5%	46.3%	49.4%	6.3%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	95.7%	85.6%	34.9%	24.2%	32.5%	51.0%	5.8%	0.0%
定時制高校2年生	553	94.6%	79.9%	35.3%	24.6%	38.7%	48.1%	6.7%	0.0%
通信制高校2年生	23	100.0%	78.3%	26.1%	13.0%	26.1%	56.5%	4.3%	0.0%

### ④ 家族構成

家族構成は、いずれの学校種でも「二世帯世帯」が最も高くなっている。

全日制高校2年生、定時制高校2年生では「三世帯世帯」も他に比べ高くなっている。

図表－5 家族構成

	調査数 (n)	二世帯世帯	三世帯世帯	ひとり親家庭	一人暮らし・寮・施設	その他の世帯	無回答
中学2年生	5,705	59.9%	31.2%	8.3%	0.1%	0.6%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	51.9%	37.1%	9.5%	0.5%	1.0%	0.0%
定時制高校2年生	553	47.2%	38.3%	12.5%	0.7%	1.3%	0.0%
通信制高校2年生	23	56.5%	26.1%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%

### ⑤ 健康状態

健康状態は、いずれの学校種でも「よい」が最も高くなっている。通信制高校2年生では、「ふつう」、「あまりよくない」が他に比べ高くなっている。

図表－6 健康状態

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
中学2年生	5,705	58.9%	20.1%	16.8%	3.6%	0.7%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	50.0%	23.9%	21.1%	4.5%	0.6%	0.0%
定時制高校2年生	553	43.6%	27.1%	22.8%	4.5%	2.0%	0.0%
通信制高校2年生	23	43.5%	4.3%	30.4%	21.7%	0.0%	0.0%

## (2) ふだんの生活について

### ① 学校への通学状況：出席状況

学校の出席状況は、「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

定時制高校2年生、通信制高校2年生では、「たまに欠席する」、「よく欠席する」が他に比べ高くなっている。

図表－7 出席状況

	調査数 (n)	ほとんど 欠席しな い	たまに 欠席する	よく欠席 する	無回答
中学2年生	5,705	82.4%	9.7%	7.8%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	79.4%	11.8%	8.8%	0.0%
定時制高校2年生	553	71.2%	17.2%	11.6%	0.0%
通信制高校2年生	23	56.5%	26.1%	17.4%	0.0%

### ② 学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が最も高くなっている。

定時制高校2年生、通信制高校2年生では、「たまにする」が他に比べ高くなっている。

図表－8 遅刻や早退の状況

	調査数 (n)	ほとんど しない	たまに する	よくする	無回答
中学2年生	5,705	89.7%	8.9%	1.4%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	87.4%	11.1%	1.5%	0.0%
定時制高校2年生	553	78.3%	18.6%	3.1%	0.0%
通信制高校2年生	23	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%

### ③ 部活動への参加状況

部活動への参加状況は、中学2年生、全日制高校2年生では「部活動に参加している」が6割を超えているが、通信制高校2年生では、「部活動に参加している」の割合が低くなっている。

図表－9 部活動への参加状況

	調査数 (n)	部活動に 参加して いる	学校外で の活動に 参加して いる(習 い事を含 む)	部活動に も学校外 での活動 にも参加 している (習い事 を含む)	部活動に も学校外 での活動 にも参加 していない (習い事 を含む)	無回答
中学2年生	5,705	61.1%	7.7%	26.8%	4.4%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	65.6%	4.3%	8.2%	22.0%	0.0%
定時制高校2年生	553	59.0%	4.0%	5.8%	31.3%	0.0%
通信制高校2年生	23	30.4%	4.3%	13.0%	52.2%	0.0%

### ④ ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、中学2年生、全日制高校2年生、通信制高校2年生では「特にない」が最も高くなっている。定時制高校2年生は、「授業中に居眠りすることが多い」が最も高くなっている。通信制高校2年生は、「学校では1人で過ごすことが多い」、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が他に比べやや高くなっている。

図表－10 ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

	調査数 (n)	授業中に 居眠りす ることが 多い	宿題や課 題ができ ていない ことが多 い	持ち物の 忘れが多 い	部活動や 習い事を 休むこと が多い	提出しな ければい けない書 類などの 提出が遅 れること が多い	修学旅行 などの宿 泊行事を 欠席する (予定を 含む)	保健室で 過ごすこ とが多い	学校では 1人で過 すことが 多い	友達と遊 んだり、 おしゃべ りしたり する時間 が少ない	特にない	無回答
中学2年生	5,705	14.1%	16.3%	18.8%	4.5%	20.5%	0.4%	1.1%	4.6%	4.2%	59.1%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	41.4%	16.0%	13.3%	3.5%	16.6%	1.0%	1.1%	5.8%	5.7%	42.9%	0.0%
定時制高校2年生	553	42.3%	16.8%	15.2%	4.9%	18.6%	2.2%	1.3%	10.1%	9.9%	38.3%	0.0%
通信制高校2年生	23	21.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	4.3%	4.3%	26.1%	21.7%	47.8%	0.0%

## ⑤ 現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとについては、中学2年生は、「特にない」が最も高く、全日制高校2年生、定時制高校2年生、通信制高校2年生は、「進路のこと」が最も高くなっている。定時制高校2年生、通信制高校2年生は、「家庭の経済的状況のこと」が他に比べやや高くなっている。

図表－11 現在の悩みや困りごと（複数回答）

	調査数 (n)	友人との 関係	学業成績 のこと	進路のこ と	部活動の こと	学費（授 業料）な ど学校生 活に必要な お金の こと	塾（通信 含む）や 習い事が できない	家庭の経 済的状況 のこと
中学2年生	5,705	13.3%	30.6%	32.4%	14.3%	2.3%	1.2%	2.9%
全日制高校2年生	4,722	9.3%	38.8%	48.8%	10.8%	4.8%	0.8%	4.1%
定時制高校2年生	553	12.3%	34.2%	44.7%	10.8%	4.3%	1.4%	7.6%
通信制高校2年生	23	8.7%	26.1%	43.5%	13.0%	8.7%	8.7%	8.7%

	調査数 (n)	自分と家 族との関 係のこと	家族内の 人間関係 のこと (両親の 仲が良く ないなど)	病気や障 がいのある 家族のこ と	自分のた めに使え る時間が 少ない	その他	特にない	無回答
中学2年生	5,705	4.5%	3.7%	1.2%	4.3%	3.0%	48.6%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	4.2%	3.7%	1.0%	5.0%	2.2%	35.1%	0.0%
定時制高校2年生	553	6.5%	5.4%	2.0%	5.4%	2.0%	38.5%	0.0%
通信制高校2年生	23	8.7%	4.3%	8.7%	4.3%	13.0%	39.1%	0.0%

## ⑥ 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、いずれの学校種でも「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が過半数を超え最も高くなっているが、通信制高校2年生は、「相談や話はしたくない」が、他に比べ高くなっている。

図表－12 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

	調査数 (n)	相談相手 や話を聞 いてくれ る人がい る	相談相手 や話を聞 いてくれ ない人が いる	相談や話 はしたく ない	無回答
中学2年生	2,935	69.6%	4.7%	25.7%	0.0%
全日制高校2年生	3,065	78.8%	3.8%	17.4%	0.0%
定時制高校2年生	340	70.6%	7.1%	22.4%	0.0%
通信制高校2年生	14	57.1%	7.1%	35.7%	0.0%

### (3) 家庭や家族のことについて

#### ① 世話をしている家族の有無

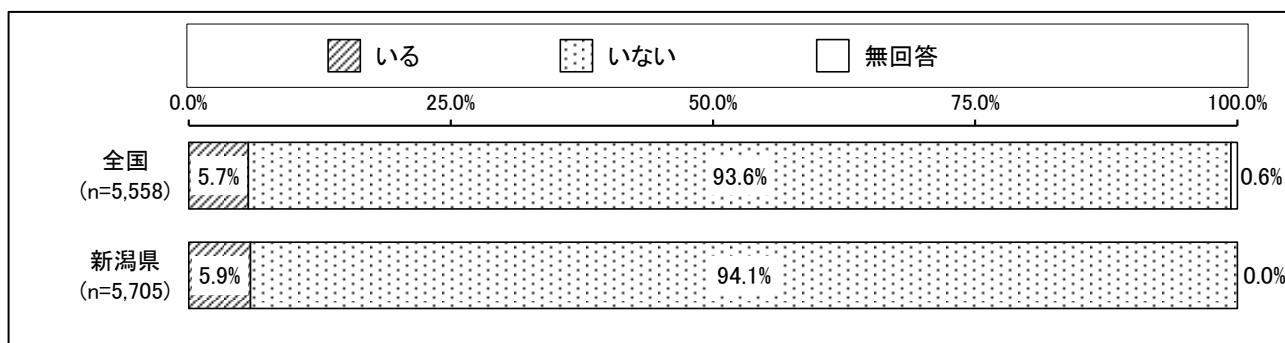
世話をしている家族の有無については、以下のとおり。

図表-13 世話をしている家族の有無

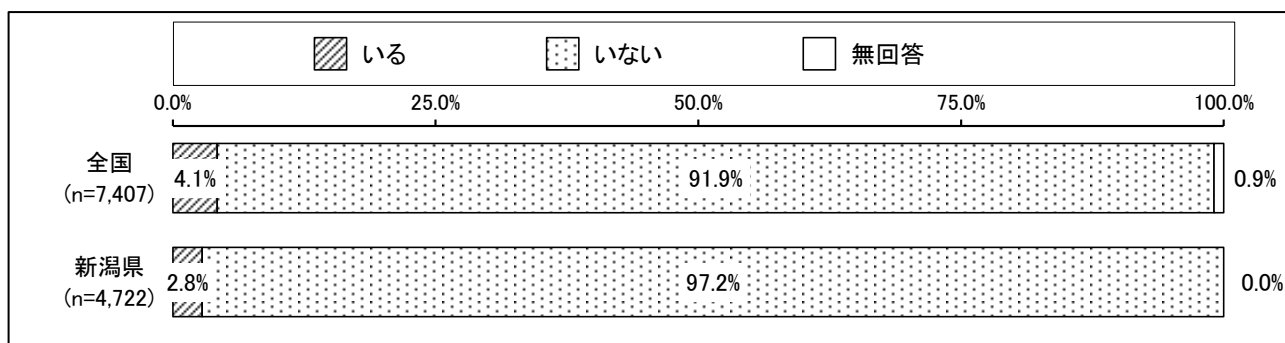
	調査数 (n)	いる	いない	無回答
中学2年生	5,705	5.9%	94.1%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	2.8%	97.2%	0.0%
定時制高校2年生	553	5.2%	94.8%	0.0%
通信制高校2年生	23	0.0%	100.0%	0.0%

世話をしている家族が「いる」と回答した中学2年生では全国値を上回り、全日制高校2年生では下回っている。

#### 中学2年生



#### 全日制高校2年生



## ② 世話を必要としている家族

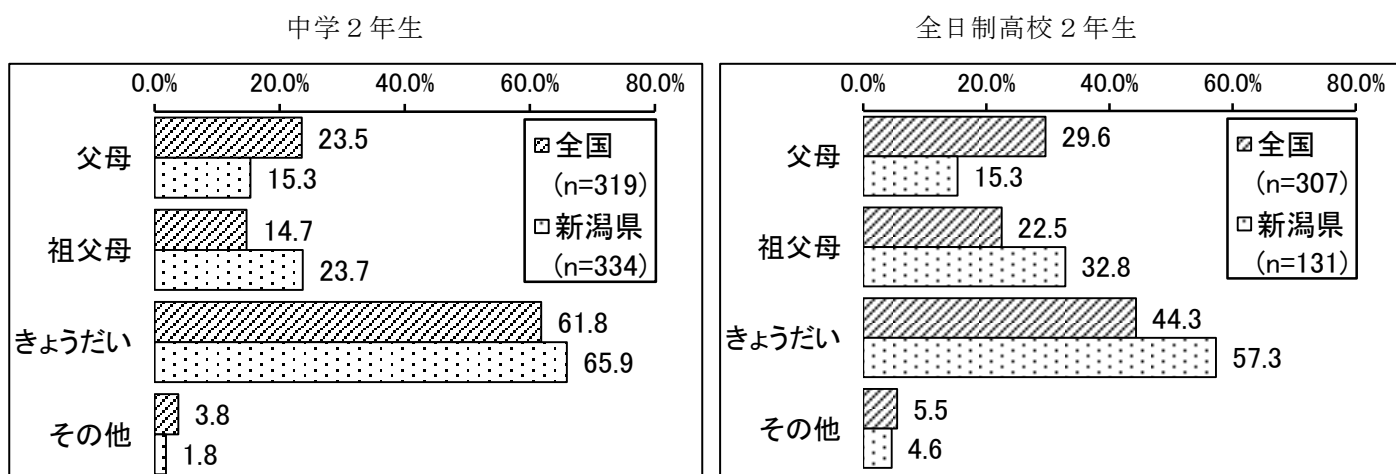
世話を必要としている家族については、中学校2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生では「きょうだい」が最も高くなっている。特に、中学2年生は、「きょうだい」の割合が他に比べ高くなっている。

図表-14 世話を必要としている家族（複数回答）

	調査数 (n)	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
中学2年生	334	15.3%	23.7%	65.9%	1.8%	0.0%
全日制高校2年生	131	15.3%	32.8%	57.3%	4.6%	0.0%
定時制高校2年生	29	31.0%	31.0%	55.2%	0.0%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

世話を必要としている家族については、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「きょうだい」の割合が最も高く、全国と同様の傾向となっている。

新潟県では「祖父母」の割合が、全国との比較で高い傾向が見られる。



### ③ 父母の状況、父母への世話の内容

世話を必要としている家族として「父母」と回答した人に、父母の状況を聞いたところ、中学2年生、全日制高校2年生は「その他」が最も高くなっている。

図表-15 父母の状況（複数回答）

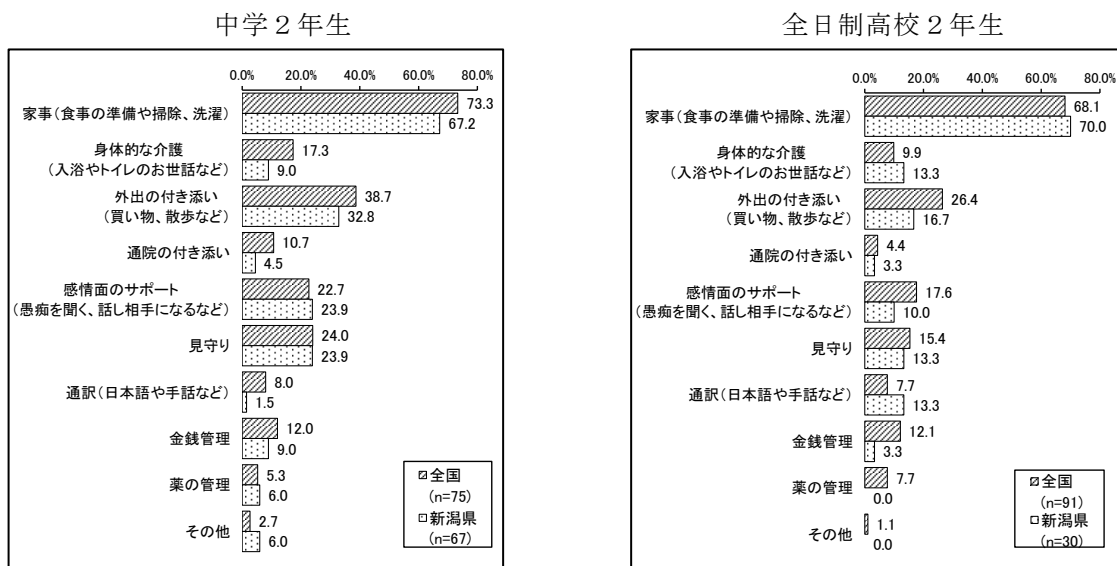
	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症 など) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病 気	その他	無回答
中学2年生	67	10.4%	0.0%	1.5%	0.0%	4.5%	1.5%	1.5%	7.5%	1.5%	50.7%	22.4%
全日制高校2年生	30	20.0%	0.0%	3.3%	3.3%	6.7%	3.3%	10.0%	6.7%	3.3%	30.0%	20.0%
定時制高校2年生	13	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	53.8%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

世話を必要としている家族として「父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、いずれの学校種でも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高くなっている。

図表-16 父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイレ のお世話 など）	外出の付 き添い （買い物、 散歩など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手にな るなど）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	67	67.2%	13.4%	9.0%	32.8%	4.5%	23.9%	23.9%	1.5%	9.0%	6.0%	6.0%	0.0%
全日制高校2年生	30	70.0%	20.0%	13.3%	16.7%	3.3%	10.0%	13.3%	13.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
定時制高校2年生	13	76.9%	0.0%	7.7%	30.8%	7.7%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

行っている世話の内容は、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」の順に割合が高く、全国と同様の傾向となっている。



#### ④ 祖父母の状況、祖父母への世話の内容

世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した人に、祖父母の状況を聞いたところ、いずれの学校種でも「高齢（65歳以上）」が最も高く、次いで「認知症」、「要介護（介護が必要な状態）」となっている。

図表－17 祖父母の状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症 など) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病 気	その他	無回答
中学2年生	95	83.2%	0.0%	11.6%	11.6%	11.6%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	10.5%	2.1%
全日制高校2年生	48	89.6%	0.0%	25.0%	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%	4.2%	6.3%	0.0%	2.1%
定時制高校2年生	12	83.3%	0.0%	8.3%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

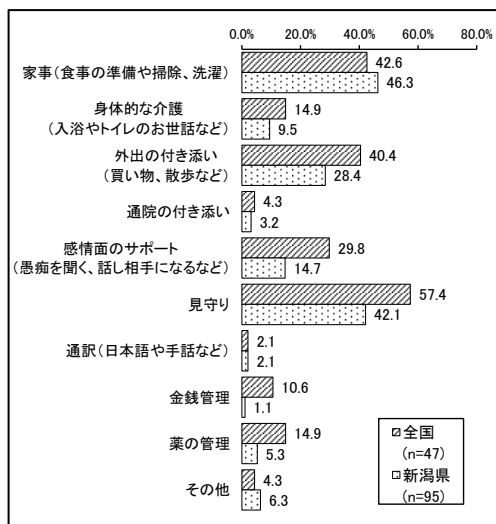
世話を必要としている家族として「祖父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高く、次いで「見守り」が高くなっている。

図表－18 祖父母への世話の内容（複数回答）

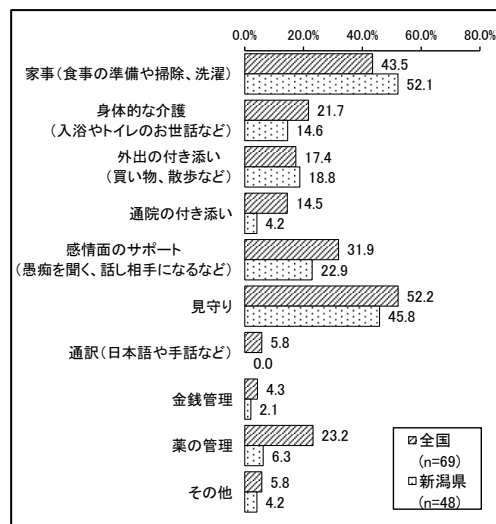
	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイレ のお世話 など）	外出の付 き添い （買い物、 散歩 など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手 になる など）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	95	46.3%	4.2%	9.5%	28.4%	3.2%	14.7%	42.1%	2.1%	1.1%	5.3%	6.3%	0.0%
全日制高校2年生	48	52.1%	4.2%	14.6%	18.8%	4.2%	22.9%	45.8%	0.0%	2.1%	6.3%	4.2%	0.0%
定時制高校2年生	12	58.3%	8.3%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

行っている世話の内容は、全国では、「見守り」の割合が最も高く、新潟県では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。

中学2年生



全日制高校2年生



⑤ きょうだいの状況、きょうだいへの世話の内容

世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、きょうだいの状況を聞いたところ、いずれの学校種でも「若い」が最も高くなっている。

図表-19 きょうだいの状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症等) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病 気	その他	無回答
中学2年生	220	0.0%	85.5%	1.4%	0.0%	2.3%	2.7%	0.0%	0.9%	0.5%	12.7%	0.0%
全日制高校2年生	75	0.0%	85.3%	0.0%	0.0%	1.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	1.3%
定時制高校2年生	16	0.0%	81.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	6.3%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

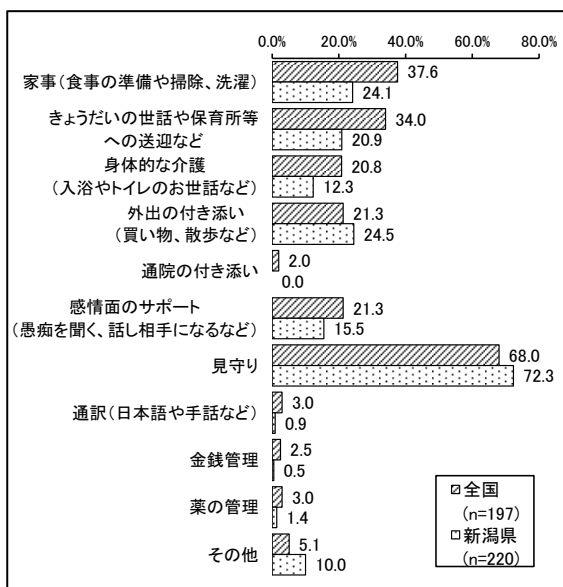
世話を必要としている家族として「きょうだい」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、いずれの学校種でも「見守り」が最も高くなっている。定時制高校2年生では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が他に比べ高くなっている。

図表-20 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

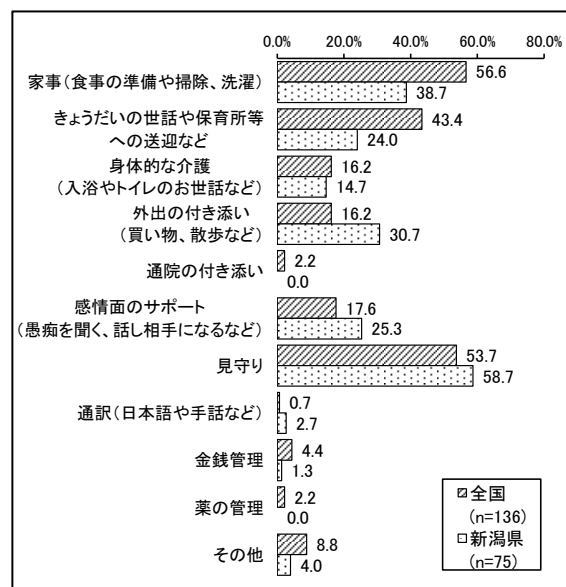
	調査数 (n)	家事(食 事の準備 や掃除、 洗濯)	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護(入 浴やトイレ のお世話 など)	外出の付 き添い (買い物、 散歩 など)	通院の付 き添い	感情面の サポート (愚痴を 聞く、話 し相手 になる など)	見守り	通訳(日 本語や手 話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
中学2年生	220	24.1%	20.9%	12.3%	24.5%	0.0%	15.5%	72.3%	0.9%	0.5%	1.4%	10.0%	0.0%
全日制高校2年生	75	38.7%	24.0%	14.7%	30.7%	0.0%	25.3%	58.7%	2.7%	1.3%	0.0%	4.0%	0.0%
定時制高校2年生	16	43.8%	43.8%	6.3%	18.8%	0.0%	6.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

全国との比較で、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「見守り」、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」などの割合が高く、一方で、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」などの割合は低くなっている。

中学2年生



全日制高校2年生



## ⑥ 世話を一緒にしている人

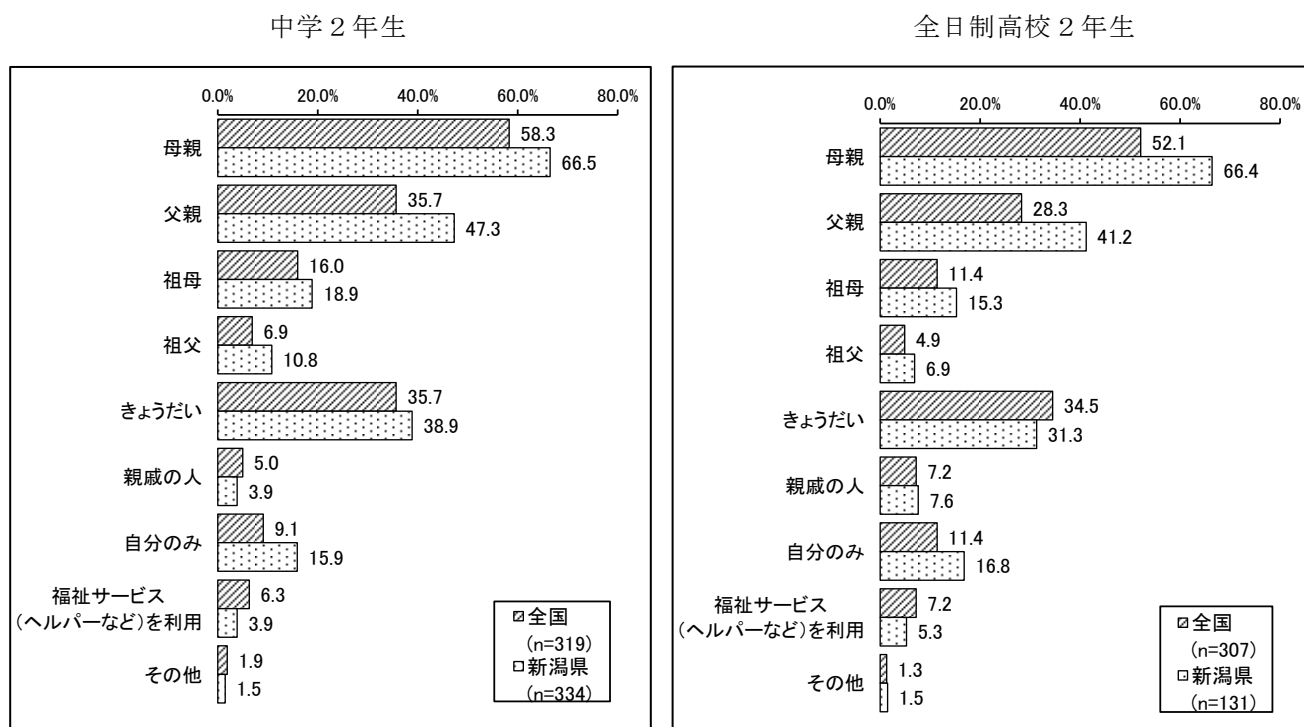
世話を一緒にしている人については、いずれの学校種でも「母親」が最も高くなっている。また、定時制高校2年生では、「父親」、「祖母」、「祖父」、「きょうだい」が他に比べ高くなっている。

図表-21 世話を一緒にしている人（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
中学2年生	334	66.5%	47.3%	18.9%	10.8%	38.9%	3.9%	15.9%	3.9%	1.5%	0.0%
全日制高校2年生	131	66.4%	41.2%	15.3%	6.9%	31.3%	7.6%	16.8%	5.3%	1.5%	0.0%
定時制高校2年生	29	69.0%	51.7%	34.5%	17.2%	41.4%	3.4%	17.2%	10.3%	3.4%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

世話を一緒にしている人については、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「母親」が最も割合が高く、全国と同様の傾向となっている。新潟県では次いで「父親」となっている（全国では次いで「きょうだい」となっている）。

一方で、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「自分のみ」との回答が、約1割となっている。



## ⑦ 世話を始めた年齢

世話を始めた年齢については、中学2年生は平均 9.3 歳、全日制高校2年生は 11.4 歳となっている。

世話を始めた年齢をカテゴリー化すると、中学2年生は「小学生（高学年）」が最も高く、全日制高校2年生、定時制高校2年生は、「中学生以降」が最も高くなっている。

図表－22 世話を始めた年齢

	調査数 (n)	就学前	小学生 (低学 年)	小学生 (高学 年)	中学生以 後	無回答
中学2年生	319	17.6%	17.2%	55.8%	9.4%	0.0%
全日制高校2年生	127	14.2%	7.9%	33.1%	44.9%	0.0%
定時制高校2年生	28	17.9%	10.7%	21.4%	50.0%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ⑧ 世話をしている頻度

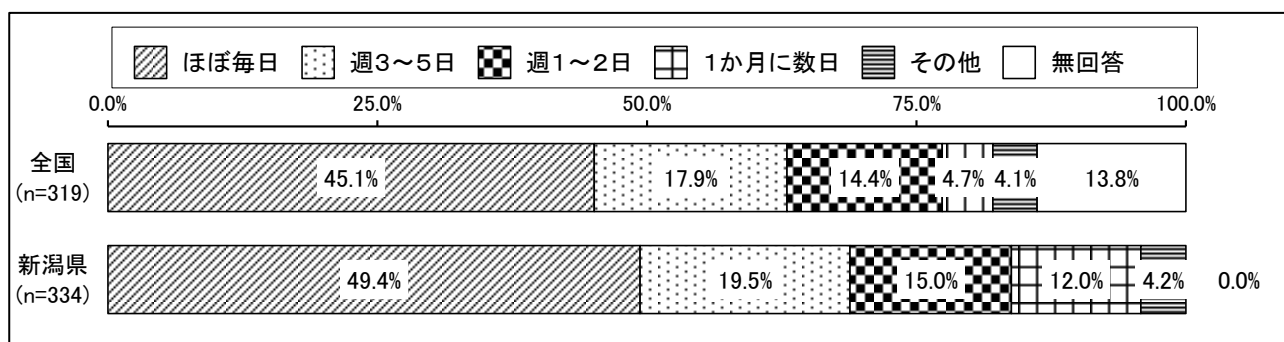
世話をしている頻度については、いずれの学校種でも「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

図表-23 世話をしている頻度

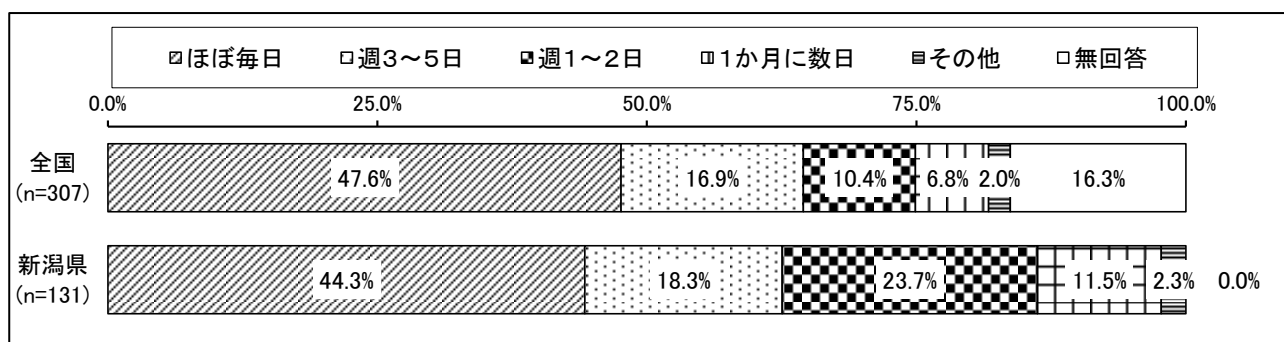
	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
中学2年生	334	49.4%	19.5%	15.0%	12.0%	4.2%	0.0%
全日制高校2年生	131	44.3%	18.3%	23.7%	11.5%	2.3%	0.0%
定時制高校2年生	29	48.3%	20.7%	13.8%	17.2%	0.0%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

世話をしている頻度については、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「ほぼ毎日」が5割弱、「週3～5日」が2割弱、全国と同様の傾向となっている。

### 中学2年生



### 全日制高校2年生



### ⑨ 平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間については、中学2年生は平均3.0時間、全日制高校2年生は平均2.7時間、定時制高校2年生は平均3.2時間となっている。

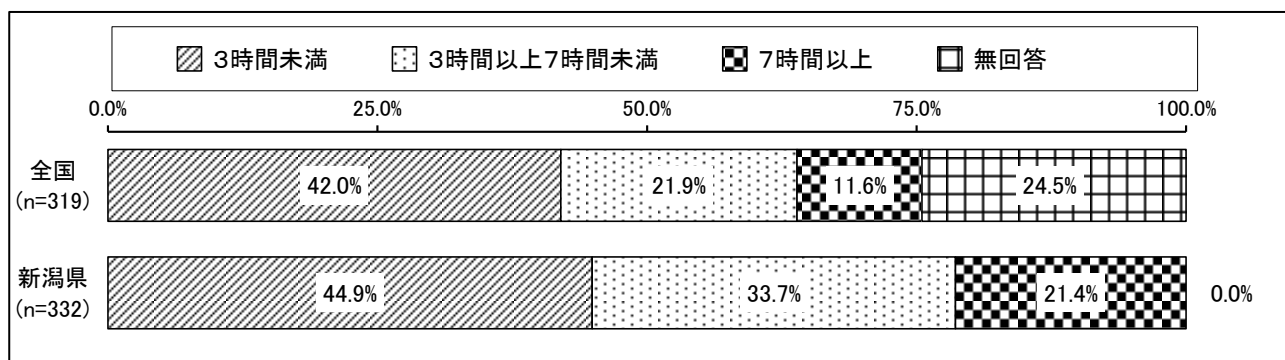
平日1日あたりに世話に費やす時間をカテゴリー化すると、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生では「3時間未満」が最も高くなっている。

図表-24 世話に費やす時間（平日1日あたり）

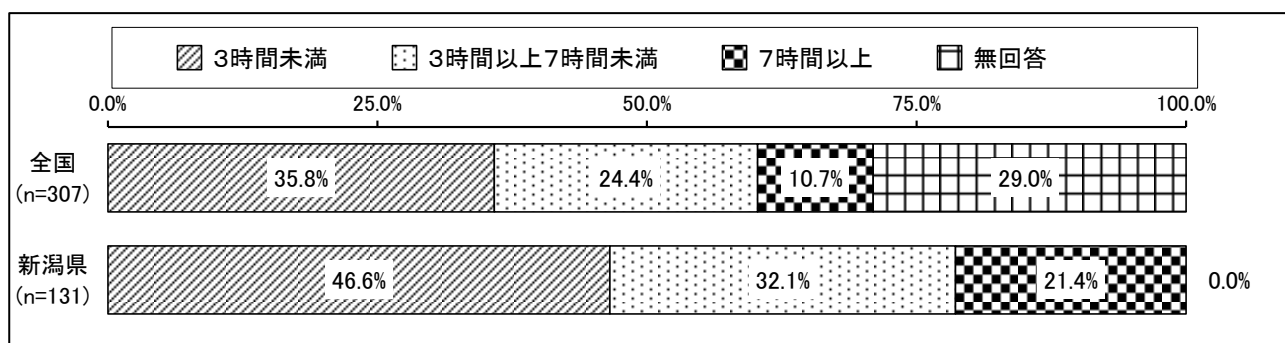
	調査数 (n)	3時間未 満	3～7時 間未満	7時間以 上	無回答
中学2年生	332	44.9%	33.7%	21.4%	0.0%
全日制高校2年生	131	46.6%	32.1%	21.4%	0.0%
定時制高校2年生	29	51.7%	27.6%	20.7%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「世話に費やす時間」は、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「3時間未満」との回答割合が最も多く、次いで「3時間以上7時間未満」、「7時間以上」の順に割合が高く、全国と同様の傾向となっている。

#### 中学2年生



#### 全日制高校2年生



⑩ 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについては、いずれの学校種でも「特にない」が最も高くなっているが、その他では、「自分の時間が取れない」が最も高くなっている。

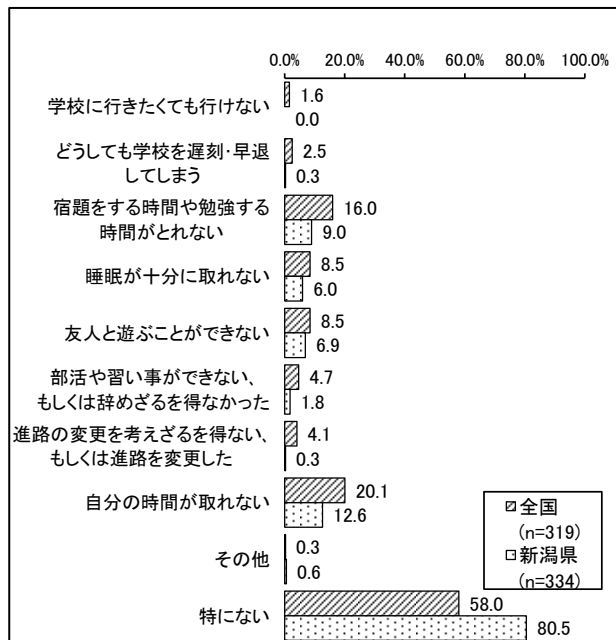
図表-25 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間がとれない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
中学2年生	334	0.0%	0.3%	9.0%	6.0%	6.9%	1.8%	0.3%	12.6%	0.6%	80.5%	0.0%
全日制高校2年生	131	4.6%	2.3%	4.6%	6.9%	8.4%	1.5%	3.1%	9.9%	0.8%	72.5%	0.0%
定時制高校2年生	29	3.4%	0.0%	6.9%	17.2%	10.3%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%	75.9%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

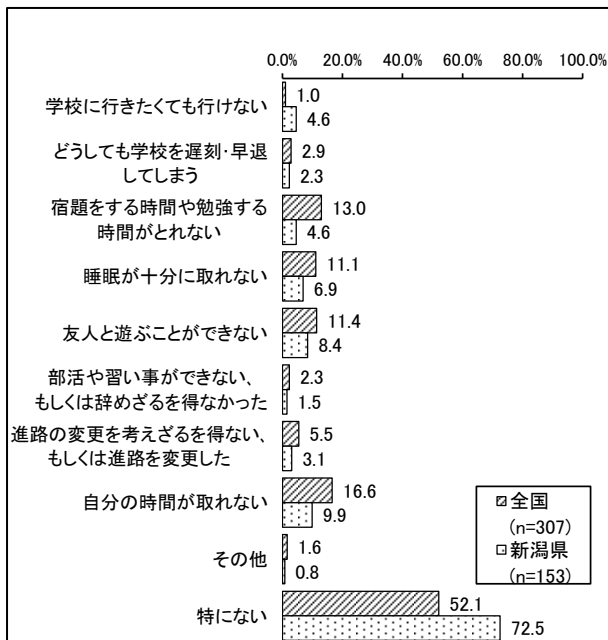
世話をしているために、やりたいけれどできないことについては、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「特にない」が最も多く、全国と同様の傾向となっている。新潟県では全国に比べると約2割高くなっている。

一方で、全国に比べると「自分の時間が取れない」の回答が低くなっている。

中学2年生



全日制高校2年生



## ⑪ 世話のきつき

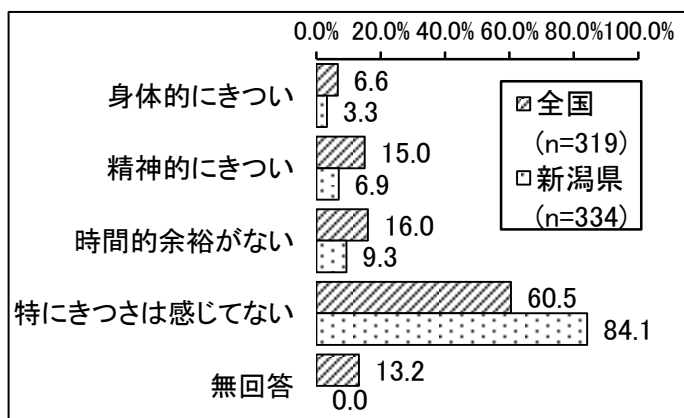
世話をすることに感じているきつきについては、いずれの学校種でも「特にきつきは感じていない」が最も高くなっているが、その他では、中学2年生は「時間的余裕がない」が最も高く、全日制高校2年生、定時制高校2年生は「精神的にきつい」が最も高くなっている。

図表－26 世話をすることに感じているきつき（複数回答）

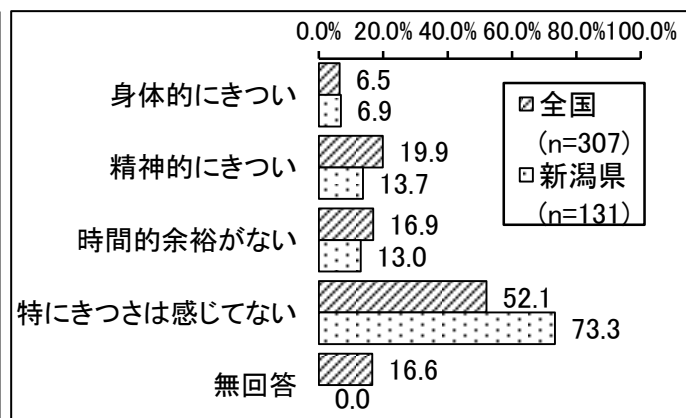
	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
中学2年生	334	3.3%	6.9%	9.3%	84.1%	0.0%
全日制高校2年生	131	6.9%	13.7%	13.0%	73.3%	0.0%
定時制高校2年生	29	3.4%	10.3%	6.9%	82.8%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

世話をすることに感じているきつきについては、中学2年生・全日制高校2年生ともに、「特にきつきは感じていない」が最も多く、全国と同様の傾向となっている。全国的に全国との比較で、「きつき」を感じている割合は低くなっている。

中学2年生



全日制高校2年生



⑫ 世話について相談した経験

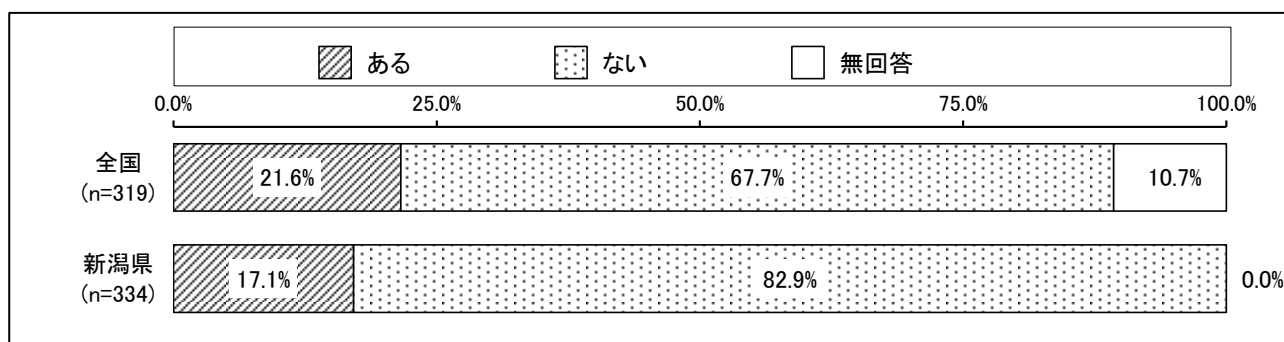
世話について相談した経験は、「ある」が1～2割、「ない」が8割前後となっている。

図表-27 世話について相談した経験

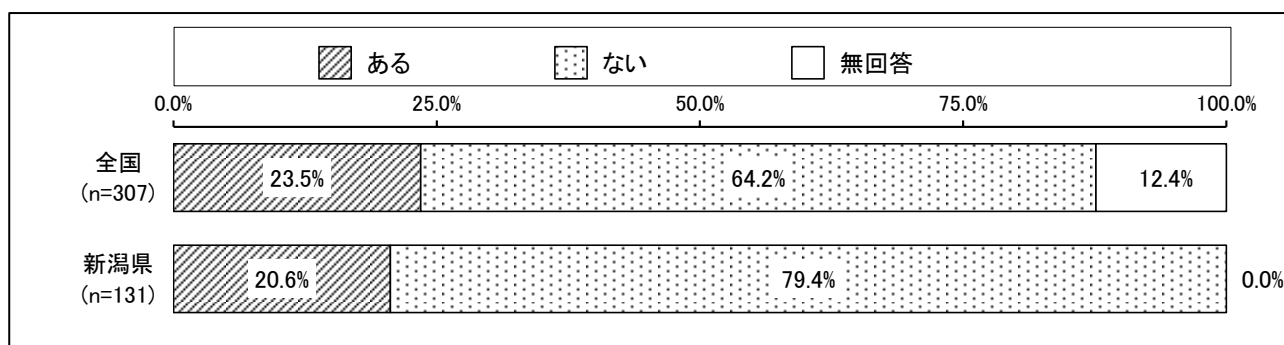
	調査数 (n)	ある	ない	無回答
中学2年生	334	17.1%	82.9%	0.0%
全日制高校2年生	131	20.6%	79.4%	0.0%
定時制高校2年生	29	20.7%	79.3%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%

世話について相談した経験は、中学2年生・全日制高校2年生は全国に比べると割合がやや低くなっている。

中学2年生



全日制高校2年生



### ⑬ 世話についての相談相手

世話についての相談相手は、いずれの学校種でも「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高く、次いで「友人」となっている。

図表－28 世話についての相談相手（複数回答）

	調査数 (n)	家族 (父、 母、祖 父、祖 母、きよ うだい)	親戚(お じ、おば など)	友人	学校の先生 (保健 室の先生 以外)	保健室の 先生	スクー ル・カウ ンセラー	スクール ソーシャル ワーカー
中学2年生	57	77.2%	5.3%	63.2%	10.5%	7.0%	1.8%	0.0%
全日制高校2年生	27	48.1%	11.1%	40.7%	14.8%	7.4%	7.4%	0.0%
定時制高校2年生	6	66.7%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	調査数 (n)	医師や看 護師、そ の他病院 の人	ヘルパー やケアマ ネ、福祉 のサービ スの人	役所の人	近所の人	SNS上で の知り合 い	その他	無回答
中学2年生	57	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%
全日制高校2年生	27	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%
定時制高校2年生	6	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### ⑭ 世話について相談したことがない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、いずれの学校種でも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。次いで、「家族外の人に相談するような悩みではない」が高くなっている。

図表－29 世話について相談したことがない理由（複数回答）

##### -1 誰かに相談するほどの悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	69.0%	13.7%	7.2%	10.1%	0.0%	82.7%	17.3%
全日制高校2年生	104	65.4%	15.4%	9.6%	9.6%	0.0%	80.8%	19.2%
定時制高校2年生	23	47.8%	30.4%	8.7%	13.0%	0.0%	78.3%	21.7%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

##### -2 家族外の人に相談するような悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	65.0%	14.4%	6.5%	14.1%	0.0%	79.4%	20.6%
全日制高校2年生	104	63.5%	17.3%	8.7%	10.6%	0.0%	80.8%	19.2%
定時制高校2年生	23	56.5%	17.4%	4.3%	21.7%	0.0%	73.9%	26.1%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

##### -3 誰に相談するのがよいかわからない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	16.2%	10.5%	12.3%	61.0%	0.0%	26.7%	73.3%
全日制高校2年生	104	28.8%	10.6%	16.3%	44.2%	0.0%	39.4%	60.6%
定時制高校2年生	23	30.4%	8.7%	13.0%	47.8%	0.0%	39.1%	60.9%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

##### -4 相談できる人が身近にいない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	9.7%	8.3%	11.9%	70.0%	0.0%	18.1%	81.9%
全日制高校2年生	104	18.3%	5.8%	19.2%	56.7%	0.0%	24.0%	76.0%
定時制高校2年生	23	21.7%	4.3%	8.7%	65.2%	0.0%	26.1%	73.9%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-5 家族のここのため話しにくい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	15.5%	9.4%	12.3%	62.8%	0.0%	24.9%	75.1%
全日制高校2年生	104	19.2%	19.2%	14.4%	47.1%	0.0%	38.5%	61.5%
定時制高校2年生	23	17.4%	17.4%	17.4%	47.8%	0.0%	34.8%	65.2%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-6 家族のことを知られたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	13.0%	10.8%	13.0%	63.2%	0.0%	23.8%	76.2%
全日制高校2年生	104	21.2%	17.3%	20.2%	41.3%	0.0%	38.5%	61.5%
定時制高校2年生	23	17.4%	13.0%	30.4%	39.1%	0.0%	30.4%	69.6%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-7 家族に対して偏見を持たれたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	22.4%	13.7%	9.4%	54.5%	0.0%	36.1%	63.9%
全日制高校2年生	104	26.0%	9.6%	16.3%	48.1%	0.0%	35.6%	64.4%
定時制高校2年生	23	30.4%	0.0%	8.7%	60.9%	0.0%	30.4%	69.6%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-8 相談しても状況が変わるとは思わない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	277	20.9%	13.4%	13.0%	52.7%	0.0%	34.3%	65.7%
全日制高校2年生	104	33.7%	9.6%	22.1%	34.6%	0.0%	43.3%	56.7%
定時制高校2年生	23	21.7%	17.4%	17.4%	43.5%	0.0%	39.1%	60.9%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### ⑮ 世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を聞いたところ、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生は約7～8割が「いる」と回答している。

図表-30 世話について話を聞いてくれる人の有無

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
中学2年生	277	74.7%	25.3%	0.0%
全日制高校2年生	104	75.0%	25.0%	0.0%
定時制高校2年生	23	82.6%	17.4%	0.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%

### ⑯ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、全日制高校2年生、定時制高校2年生では「自由に使える時間がほしい」が最も高く、中学2年生では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が最も高くなっている。定時制高校2年生は、すべての項目が他に比べやや高い傾向にある。

図表-31 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

#### -1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	11.4%	13.2%	15.0%	60.5%	0.0%	24.6%	75.4%
全日制高校2年生	131	16.8%	17.6%	23.7%	42.0%	0.0%	34.4%	65.6%
定時制高校2年生	29	20.7%	20.7%	17.2%	41.4%	0.0%	41.4%	58.6%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### -2 家族のお世話について相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	6.9%	5.4%	12.9%	74.9%	0.0%	12.3%	87.7%
全日制高校2年生	131	13.0%	8.4%	24.4%	54.2%	0.0%	21.4%	78.6%
定時制高校2年生	29	10.3%	13.8%	6.9%	69.0%	0.0%	24.1%	75.9%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	5.1%	8.4%	11.7%	74.9%	0.0%	13.5%	86.5%
全日制高校2年生	131	15.3%	12.2%	18.3%	54.2%	0.0%	27.5%	72.5%
定時制高校2年生	29	17.2%	10.3%	13.8%	58.6%	0.0%	27.6%	72.4%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	3.0%	4.2%	13.8%	79.0%	0.0%	7.2%	92.8%
全日制高校2年生	131	9.9%	7.6%	20.6%	61.8%	0.0%	17.6%	82.4%
定時制高校2年生	29	13.8%	13.8%	20.7%	51.7%	0.0%	27.6%	72.4%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	5.4%	9.6%	9.0%	76.0%	0.0%	15.0%	85.0%
全日制高校2年生	131	13.0%	9.2%	19.1%	58.8%	0.0%	22.1%	77.9%
定時制高校2年生	29	17.2%	13.8%	17.2%	51.7%	0.0%	31.0%	69.0%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-6 自由に使える時間がほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	23.7%	18.3%	13.8%	44.3%	0.0%	41.9%	58.1%
全日制高校2年生	131	32.8%	20.6%	9.9%	36.6%	0.0%	53.4%	46.6%
定時制高校2年生	29	34.5%	27.6%	6.9%	31.0%	0.0%	62.1%	37.9%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-7 進路や就職など将来の相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	16.2%	18.9%	14.7%	50.3%	0.0%	35.0%	65.0%
全日制高校2年生	131	22.1%	24.4%	14.5%	38.9%	0.0%	46.6%	53.4%
定時制高校2年生	29	31.0%	20.7%	13.8%	34.5%	0.0%	51.7%	48.3%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-8 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	24.3%	18.9%	10.2%	46.7%	0.0%	43.1%	56.9%
全日制高校2年生	131	22.1%	18.3%	17.6%	42.0%	0.0%	40.5%	59.5%
定時制高校2年生	29	27.6%	17.2%	13.8%	41.4%	0.0%	44.8%	55.2%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

-9 家庭への経済的な支援

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
中学2年生	334	10.8%	11.1%	13.5%	64.7%	0.0%	21.9%	78.1%
全日制高校2年生	131	21.4%	14.5%	14.5%	49.6%	0.0%	35.9%	64.1%
定時制高校2年生	29	24.1%	27.6%	6.9%	41.4%	0.0%	51.7%	48.3%
通信制高校2年生	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### (4) ヤングケアラーについて

##### ① ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた『あてはまる』計の割合は、いずれの学校種でも1割未満となっている。定時制高校2年生は、「わからない」が他に比べやや高い傾向にある。

家族の世話の有無別にみると、中学2年生、全日制高校2年生、通信制高校2年生では家族の世話をしていると回答した人のうち、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』計の割合は約8割となっている。また、定時制高校2年生では、約7割となっており、中学2年生、全日制高校2年生、通信制高校2年生に比べて低くなっている。

図表-32 自分はヤングケアラーにあてはまると思うか

	調査数 (n)	あてはまる	どちらか という あてはまる	あまりあ てはまら ない	あてはま らない	わからな い	無回答
中学2年生	5,705	0.7%	1.6%	4.9%	75.0%	17.8%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	0.9%	2.4%	7.0%	71.8%	17.9%	0.0%
定時制高校2年生	553	0.5%	3.8%	8.3%	62.4%	25.0%	0.0%
通信制高校2年生	23	0.0%	0.0%	8.7%	69.6%	21.7%	0.0%

##### 中学2年生

	調査数 (n)	あてはまる	どちらか という あてはまる	あまりあ てはまら ない	あてはま らない	わからな い	無回答
中学2年生	5,705	0.7%	1.6%	4.9%	75.0%	17.8%	0.0%
世話をしている家族がいる	334	2.7%	7.5%	11.7%	40.7%	37.4%	0.0%
世話をしている家族がいない	5,371	0.6%	1.3%	4.4%	77.1%	16.6%	0.0%

##### 全日制高校2年生

	調査数 (n)	あてはまる	どちらか という あてはまる	あまりあ てはまら ない	あてはま らない	わからな い	無回答
全日制高校2年生	4,722	0.9%	2.4%	7.0%	71.8%	17.9%	0.0%
世話をしている家族がいる	131	5.3%	13.0%	10.7%	29.0%	42.0%	0.0%
世話をしている家族がいない	4,591	0.8%	2.1%	6.9%	73.1%	17.2%	0.0%

定時制高校2年生

	調査数 (n)	あてはま る	どちらか という とあてはま る	あまりあ てはまら ない	あてはま らない	わからな い	無回答
定時制高校2年生	553	0.5%	3.8%	8.3%	62.4%	25.0%	0.0%
世話をしている家族がいる	29	0.0%	17.2%	6.9%	20.7%	55.2%	0.0%
世話をしている家族がいない	524	0.6%	3.1%	8.4%	64.7%	23.3%	0.0%

通信制高校生

	調査数 (n)	あてはま る	どちらか という とあてはま る	あまりあ てはまら ない	あてはま らない	わからな い	無回答
通信制高校2年生	23	0.0%	0.0%	8.7%	69.6%	21.7%	0.0%
世話をしている家族がいる	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
世話をしている家族がいない	23	0.0%	0.0%	8.7%	69.6%	21.7%	0.0%

## ② ヤングケアラーの認知度

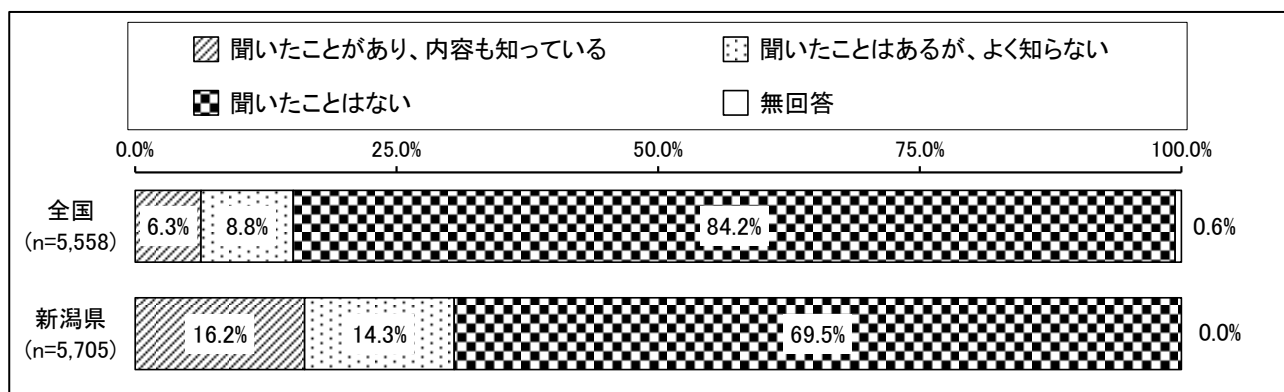
ヤングケアラーの認知度については、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生では「聞いたことはない」が7割前後を占め、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」がどちらも1割強となっている。

図表-33 ヤングケアラーの認知度

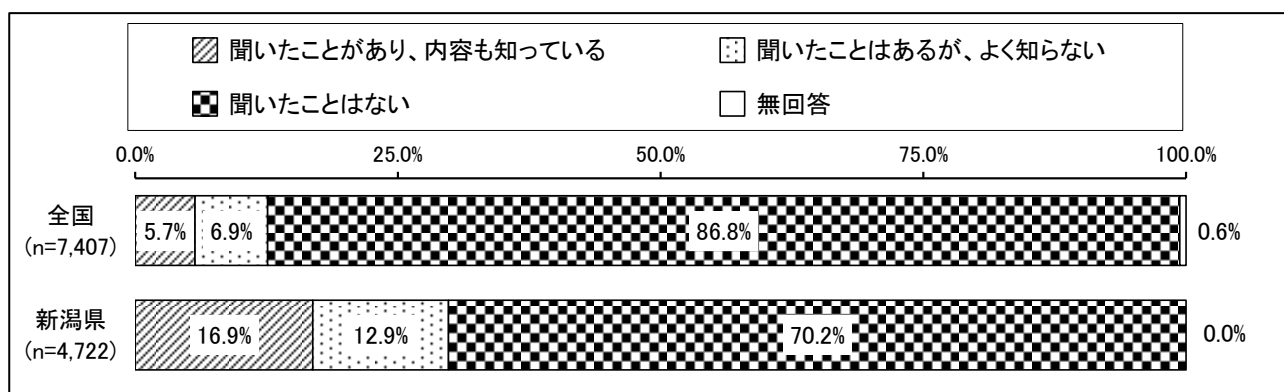
	調査数 (n)	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
中学2年生	5,705	16.2%	14.3%	69.5%	0.0%
全日制高校2年生	4,722	16.9%	12.9%	70.2%	0.0%
定時制高校2年生	553	12.5%	14.1%	73.4%	0.0%
通信制高校2年生	23	30.4%	26.1%	43.5%	0.0%

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、よく知らない」を合わせた『聞いたことがある』の割合は、中学2年生が30.5%で、全国との比較で15.3ポイント高い割合（全国15.2%）となって、全日制高校2年生においては29.8%と、17.2ポイント（全国12.6%）高くなっている。

### 中学2年生



### 全日制高校2年生



### ③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、いずれの学校種でも「テレビや新聞、ラジオ」が最も高くなっている。その他、通信制高校生では「SNSやインターネット」が4割弱、「学校」が約3割、中学2年生、全日制高校2年生、定時制高校2年生では「SNSやインターネット」が2割前後、「学校」が2割弱を占めている。

図表-34 ヤングケアラーについて知ったきっかけ（複数回答）

	調査数 (n)	テレビや 新聞、ラ ジオ	雑誌や本	SNSやイ ンター ネット	広報やチ ラシ、掲 示物	イベント や交流会	学校	友人・知 人から聞 いた	その他	無回答
中学2年生	1,742	71.8%	6.1%	15.6%	3.0%	0.7%	15.7%	3.9%	3.7%	0.0%
全日制高校2年生	1,405	71.6%	5.1%	20.1%	2.4%	0.4%	18.4%	3.2%	2.1%	0.0%
定時制高校2年生	147	67.3%	2.7%	24.5%	3.4%	0.0%	16.3%	4.1%	4.8%	0.0%
通信制高校2年生	13	76.9%	7.7%	38.5%	7.7%	7.7%	30.8%	7.7%	7.7%	0.0%

### 第3章 『中高生アンケート調査』の追加分析について

#### (1) 世話をしている家族の有無別にみた生活等の状況

##### ① 家族構成

世話をしている家族がいる層（以降、本章においては広義の意味合いで『ケアギバー層』と表記する）は、世話をしている家族がいない層と比較して、「三世代世帯」や「ひとり親家庭」の割合が高くなっている。特に「三世代世帯」は4割弱を占めている。

※なお、本章においてケアギバー層の比較対象は、世話をしている家族がいない層（以降、本章においては『いない層』と表記する）のみのため、『いない層』に関する記述や分析は割愛する場合もある。

図表－35 家族構成

	調査数 (n)	二世帯世帯	三世代世帯	ひとり親家庭	一人暮らし・寮・施設	その他の世帯	無回答
世話をしている家族がいる	498	49.2%	38.0%	10.6%	0.0%	2.2%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	56.0%	33.4%	9.0%	0.3%	1.2%	0.0%

##### ② 回答者の健康状態

ケアギバー層は、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』の割合が約5ポイント高くなっている（ケアギバー層＝9.4%、いない層＝4.5%）。

図表－36 回答者の健康状態

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
世話をしている家族がいる	498	49.0%	20.3%	21.3%	7.2%	2.2%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	54.5%	22.1%	18.9%	3.9%	0.6%	0.0%

### ③ 出席状況

ケアギバー層は、「たまに欠席する」と「よく欠席する」を合わせた『欠席する』の割合が7ポイント以上高くなっている（ケアギバー層＝26.7%、いない層＝19.2%）。

図表－37 出席状況

	調査数 (n)	ほとんど 欠席しない	たまに欠 席する	よく欠席 する	無回答
世話をしている家族がいる	498	73.3%	16.5%	10.2%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	80.8%	10.8%	8.3%	0.0%

### ④ 遅刻や早退の状況

ケアギバー層は、「たまにする」と「よくする」を合わせた『遅刻や早退をする』の割合が6ポイント以上高くなっている（ケアギバー層＝17.9%、いない層＝11.6%）。

図表－38 遅刻や早退の状況

	調査数 (n)	ほとん どしない	たまにす る	よくする	無回答
世話をしている家族がいる	498	82.1%	15.1%	2.8%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	88.4%	10.2%	1.5%	0.0%

### ⑤ 学校生活等であてはまること

ケアギバー層はすべてのケース（項目）であてはまる割合が『いない層』よりも高くなっている。特に両者間の割合差が高いのは、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い（+9.6ポイント）」、「持ち物の忘れが多い（+8.7ポイント）」となっている。一方で、「特にない」は『いない層』の過半数に対してケアギバー層は4割程度にとどまる。

図表－39 学校生活等であてはまること（複数回答）

	調査数 (n)	授業中に 居眠りす ることが 多い	宿題や課 題ができ ていない ことが多 い	持ち物の 忘れが多 い	部活動や 習い事を 休むこと が多い	提出しな ければい けない書 類などの 提出が遅 れること が多い	修学旅行 などの宿 泊行事を 欠席する (予定を 含む)	保健室で 過ごすこ とが多い	学校では 1人で過 ごすこと が多い	友達と遊 んだり、 おしゃべ りしたり する時間 が少ない	特にない	無回答
世話をしている家族がいる	498	28.7%	20.7%	24.5%	6.8%	27.9%	2.0%	2.6%	8.2%	8.2%	42.4%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	27.2%	15.9%	15.8%	4.0%	18.3%	0.7%	1.1%	5.4%	5.0%	51.5%	0.0%

## ⑥ 現在の悩みや困りごと

ケアギバー層は「進路のこと」以外の項目の割合が『いない層』よりも高くなっている。特に両者間の割合差が高いのは、「学業成績のこと (+6.4 ポイント)」となっている。

図表-40 現在の悩みや困りごと（複数回答）

	調査数 (n)	友人との 関係	学業成績 のこと	進路のこ と	部活動の こと	学費（授 業料）な ど学校生 活に必要な お金の こと	塾（通信 含む）や 習い事が できない	家庭の経 済的状況 のこと
世話をしている家族がいる	498	15.7%	40.4%	39.6%	14.5%	4.8%	1.6%	7.4%
世話をしている家族がいない	10,544	11.3%	34.0%	40.1%	12.5%	3.5%	1.1%	3.5%

	調査数 (n)	自分と家 族との関 係のこと	家族内の 人間関係 のこと （両親の 仲が良く ないなど）	病気や障 がいのある 家族のこ と	自分のた めに使える 時間が少 ない	その他	特にな い	無回答
世話をしている家族がいる	498	7.8%	6.2%	4.2%	7.4%	5.0%	37.1%	0.0%
世話をしている家族がいない	10,544	4.3%	3.6%	1.0%	4.6%	2.5%	42.5%	0.0%

## ⑦ 相談相手の有無

世話をしている家族の有無による大きな差はみられない。

図表-41 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

	調査数 (n)	相談相手 や話を聞 いてくれ る人がい る	相談相手 や話を聞 いてくれ る人がい ない	相談や話 はしたく ない	無回答
世話をしている家族がいる	313	76.0%	7.0%	16.9%	0.0%
世話をしている家族がいない	6,062	74.0%	4.3%	21.8%	0.0%

## (2) 性別による世話の状況の違い

### ① 家族の世話の有無

世話をしている家族の有無については、性別による大きな差はみられない。

図表－42 世話をしている家族の有無

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
男性	5,241	4.7%	95.3%	0.0%
女性	5,676	4.4%	95.6%	0.0%

### ② 世話の内容

世話の内容については、世話を必要としている家族が父母、きょうだいの場合に、女性では、男性に比べ、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が高くなっている。また、きょうだいの場合、女性では、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」や「見守り」が男性に比べて高くなっている。

図表－43 父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
男性	71	63.4%	15.5%	8.5%	23.9%	4.2%	11.3%	19.7%	4.2%	8.5%	4.2%	2.8%	0.0%
女性	40	80.0%	10.0%	12.5%	30.0%	2.5%	27.5%	22.5%	7.5%	2.5%	5.0%	7.5%	0.0%

図表－44 祖父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
男性	89	49.4%	5.6%	12.4%	27.0%	4.5%	16.9%	39.3%	2.2%	2.2%	3.4%	5.6%	0.0%
女性	65	47.7%	3.1%	9.2%	21.5%	1.5%	21.5%	49.2%	0.0%	0.0%	7.7%	6.2%	0.0%

図表－45 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
男性	137	22.6%	18.2%	10.2%	21.2%	0.7%	8.8%	64.2%	0.7%	0.0%	0.7%	9.5%	0.0%
女性	173	32.4%	26.6%	13.9%	28.9%	0.0%	24.3%	70.5%	1.2%	1.2%	1.2%	6.9%	0.0%

### ③ 世話の開始時期

世話を始めた年齢については、男性は平均 9.7 歳、女性は平均 10.3 歳となっている。性別による大きな差はみられない

図表－46 世話を始めた年齢

	調査数 (n)	就学前	小学生 (低学 年)	小学生 (高学 年)	中学生	無回答
男性	228	19.7%	14.0%	46.5%	19.7%	0.0%
女性	245	14.3%	14.7%	48.2%	22.9%	0.0%

### ④ 世話の頻度

世話の頻度については、女性は男性に比べて、「ほぼ毎日」、「週に 3～5 日」の割合が高くなっている。

図表－47 世話の頻度

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週 3～5 日	週 1～2 日	1 か月に 数日	その他	無回答
男性	244	43.9%	17.6%	21.3%	13.5%	3.7%	0.0%
女性	250	51.2%	20.8%	14.0%	11.2%	2.8%	0.0%

### ⑤ 世話に費やす時間

世話に費やす時間については、男性は平均 3.0 時間、女性は平均 2.8 時間となっている。性別で見ると、女性は男性に比べ「3～7 時間未満」の割合が高くなっている。

図表－48 世話に費やす時間（平日 1 日あたり）

	調査数 (n)	3 時間未 満	3～7 時 間未満	7 時間以 上	無回答
男性	244	49.2%	30.3%	20.5%	0.0%
女性	248	42.3%	35.5%	22.2%	0.0%

## ⑥ 世話のきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、女性は、男性に比べ、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」の割合が高くなっている。

図表－49 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
男性	244	5.3%	7.0%	6.6%	84.8%	0.0%
女性	250	2.8%	10.8%	12.8%	78.4%	0.0%

## ⑦ 世話について相談した経験

世話について相談した経験の有無では、女性は男性に比べ「ある」の割合がやや高くなっている。

図表－50 世話について相談した経験

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
男性	244	16.0%	84.0%	0.0%
女性	250	20.8%	79.2%	0.0%

## ⑧ 世話についての相談相手

世話についての相談相手では、男性、女性ともに、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も高くなっているが、女性は男性に比べ「友人」の割合が 20 ポイント以上高くなっている。

図表－51 世話についての相談相手（複数回答）

	調査数 (n)	家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクール・カウンセラー	スクールソーシャルワーカー
男性	39	69.2%	7.7%	43.6%	12.8%	2.6%	5.1%	0.0%
女性	52	67.3%	7.7%	67.3%	9.6%	9.6%	3.8%	0.0%

	調査数 (n)	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉のサービスの人	役所の人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
男性	39	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%
女性	52	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%

## ⑨ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、男性は女性に比べ、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」の割合が高くなっている。

図表－52 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

### -1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	「そう思う」計	「そう思わない」計
男性	244	12.7%	13.9%	14.8%	58.6%	0.0%	26.6%	73.4%
女性	250	13.6%	16.0%	19.2%	51.2%	0.0%	29.6%	70.4%

### -2 家族のお世話について相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	「そう思う」計	「そう思わない」計
男性	244	9.8%	8.2%	12.7%	69.3%	0.0%	18.0%	82.0%
女性	250	7.6%	4.8%	18.0%	69.6%	0.0%	12.4%	87.6%

-3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	8.2%	13.1%	12.3%	66.4%	0.0%	21.3%	78.7%
女性	250	8.4%	6.4%	14.4%	70.8%	0.0%	14.8%	85.2%

-4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	6.6%	7.4%	17.2%	68.9%	0.0%	13.9%	86.1%
女性	250	4.4%	4.4%	14.4%	76.8%	0.0%	8.8%	91.2%

-5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	9.8%	9.8%	11.9%	68.4%	0.0%	19.7%	80.3%
女性	250	6.4%	10.0%	11.6%	72.0%	0.0%	16.4%	83.6%

-6 自由に使える時間がほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	26.2%	20.5%	10.7%	42.6%	0.0%	46.7%	53.3%
女性	250	26.8%	18.8%	13.2%	41.2%	0.0%	45.6%	54.4%

-7 進路や就職など将来の相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	16.0%	23.0%	13.9%	47.1%	0.0%	38.9%	61.1%
女性	250	21.2%	18.4%	14.4%	46.0%	0.0%	39.6%	60.4%

-8 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	23.4%	18.4%	11.1%	47.1%	0.0%	41.8%	58.2%
女性	250	23.6%	19.2%	13.6%	43.6%	0.0%	42.8%	57.2%

-9 家庭への経済的な支援

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
男性	244	13.9%	12.7%	14.3%	59.0%	0.0%	26.6%	73.4%
女性	250	14.0%	13.6%	12.4%	60.0%	0.0%	27.6%	72.4%

### (3) 家族構成による世話の状況の違い

#### ① 世話を必要としている家族

二世帯世帯、ひとり親家庭では、世話を必要としている家族は「きょうだい」が最も高く、三世帯世帯では「祖父母」が最も高くなっている。

図表－53 世話を必要としている家族（複数回答）

	調査数 (n)	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
二世帯世帯	245	26.5%	13.5%	74.7%	1.2%	0.0%
三世帯世帯	189	17.5%	61.9%	46.0%	2.6%	0.0%
ひとり親家庭	53	24.5%	7.5%	69.8%	1.9%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	18.2%	9.1%	54.5%	36.4%	0.0%

#### ② 世話の内容

父母への世話の内容では、三世帯世帯では、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が高く、ひとり親家庭では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」の割合が高くなっている。祖父母への世話の内容では、三世帯世帯の場合、「見守り」が他に比べ高くなっている。きょうだいへの世話の内容では、ひとり親家庭では、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－54 父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
二世帯世帯	65	67.7%	9.2%	7.7%	27.7%	1.5%	15.4%	20.0%	7.7%	3.1%	1.5%	3.1%	0.0%
三世帯世帯	33	63.6%	24.2%	12.1%	27.3%	9.1%	18.2%	24.2%	3.0%	12.1%	9.1%	6.1%	0.0%
ひとり親家庭	13	92.3%	7.7%	15.4%	30.8%	7.7%	38.5%	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%

図表－55 祖父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
二世帯世帯	33	51.5%	9.1%	3.0%	24.2%	6.1%	15.2%	39.4%	0.0%	0.0%	3.0%	9.1%	0.0%
三世帯世帯	117	49.6%	3.4%	13.7%	23.9%	2.6%	18.8%	46.2%	1.7%	1.7%	5.1%	5.1%	0.0%
ひとり親家庭	4	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%

図表－56 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイレ のお世 話など）	外出の付 き添い （買い 物、散歩 など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手にな るなど）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
二世帯世帯	183	27.9%	21.3%	12.0%	24.0%	0.0%	19.1%	67.8%	0.5%	1.1%	1.1%	7.7%	0.0%
三世帯世帯	87	25.3%	19.5%	14.9%	29.9%	0.0%	16.1%	72.4%	3.4%	0.0%	1.1%	8.0%	0.0%
ひとり親家庭	37	37.8%	32.4%	10.8%	24.3%	2.7%	13.5%	51.4%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%	0.0%

### ③ 世話を一緒にする人

ひとり親家庭、その他の世帯、一人暮らし等では、世話をする人が「自分のみ」の割合が他に比べ高くなっている。三世帯世帯、その他の世帯、一人暮らし等では、「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－57 世話を一緒にしている人（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだ い	親戚の人	自分のみ	福祉サー ビス（ヘル パーなど） を利用	その他	無回答
二世帯世帯	245	70.2%	56.7%	10.6%	7.3%	37.1%	2.4%	16.3%	1.2%	0.8%	0.0%
三世帯世帯	189	64.6%	44.4%	32.8%	14.3%	39.7%	6.3%	13.8%	10.6%	2.1%	0.0%
ひとり親家庭	53	60.4%	5.7%	3.8%	7.5%	28.3%	7.5%	22.6%	0.0%	1.9%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	45.5%	18.2%	36.4%	18.2%	27.3%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%

### ④ 世話の頻度

ひとり親家庭では、「週1～2日」の割合が他に比べ高く、その他の世帯、一人暮らし等では、「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－58 世話をしている頻度

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
二世帯世帯	245	47.8%	20.8%	16.7%	12.7%	2.0%	0.0%
三世帯世帯	189	48.7%	17.5%	16.9%	12.2%	4.8%	0.0%
ひとり親家庭	53	39.6%	22.6%	24.5%	9.4%	3.8%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	63.6%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%

## ⑤ 世話に費やす時間

世話に費やす時間については、二世帯世帯では平均 2.8 時間、三世帯世帯では平均 3.2 時間、ひとり親家庭では平均 2.7 時間となっている。その他の世帯、一人暮らし等では、「3～7時間未満」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－59 世話に費やす時間（平日1日あたり）

	調査数 (n)	3時間未 満	3～7時 間未 満	7時間以 上	無回答
二世帯世帯	245	43.7%	36.3%	20.0%	0.0%
三世帯世帯	187	47.6%	28.3%	24.1%	0.0%
ひとり親家庭	53	49.1%	32.1%	18.9%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	45.5%	36.4%	18.2%	0.0%

## ⑥ 世話による制約

ひとり親家庭では、世話による制約として「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－60 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間がとれない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
二世帯世帯	245	2.0%	1.6%	7.8%	6.1%	6.9%	1.6%	0.4%	9.0%	0.4%	81.2%	0.0%
三世帯世帯	189	1.1%	0.0%	7.4%	7.4%	6.9%	1.1%	0.5%	12.2%	0.5%	78.8%	0.0%
ひとり親家庭	53	0.0%	0.0%	9.4%	7.5%	13.2%	5.7%	3.8%	20.8%	1.9%	62.3%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%

## ⑦ 世話をすることに感じているきつさ

世話をすることに感じているきつさについては、ひとり親家庭では、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－61 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
二世帯世帯	245	4.1%	5.3%	8.6%	86.1%	0.0%
三世帯世帯	189	5.3%	12.2%	11.1%	75.7%	0.0%
ひとり親家庭	53	1.9%	15.1%	15.1%	75.5%	0.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

## ⑧ 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、いずれの世帯でも「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が高くなっている。世帯別による大きな差はみられない。

図表-62 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

### -1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世帯世帯	245	14.3%	11.4%	14.3%	60.0%	0.0%	25.7%	74.3%
三世帯世帯	189	12.7%	18.0%	20.6%	48.7%	0.0%	30.7%	69.3%
ひとり親家庭	53	13.2%	20.8%	17.0%	49.1%	0.0%	34.0%	66.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	9.1%	27.3%	54.5%	0.0%	18.2%	81.8%

### -2 家族のお世話について相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世帯世帯	245	9.0%	6.9%	13.5%	70.6%	0.0%	15.9%	84.1%
三世帯世帯	189	7.4%	7.9%	17.5%	67.2%	0.0%	15.3%	84.7%
ひとり親家庭	53	13.2%	1.9%	18.9%	66.0%	0.0%	15.1%	84.9%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	0.0%	18.2%	72.7%	0.0%	9.1%	90.9%

### -3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世帯世帯	245	7.3%	8.6%	13.9%	70.2%	0.0%	15.9%	84.1%
三世帯世帯	189	9.5%	12.2%	14.8%	63.5%	0.0%	21.7%	78.3%
ひとり親家庭	53	11.3%	5.7%	7.5%	75.5%	0.0%	17.0%	83.0%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	9.1%	9.1%	72.7%	0.0%	18.2%	81.8%

### -4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世帯世帯	245	6.1%	4.1%	14.3%	75.5%	0.0%	10.2%	89.8%
三世帯世帯	189	4.2%	10.1%	17.5%	68.3%	0.0%	14.3%	85.7%
ひとり親家庭	53	7.5%	0.0%	17.0%	75.5%	0.0%	7.5%	92.5%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	0.0%	18.2%	72.7%	0.0%	9.1%	90.9%

-5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世代会帯	245	7.3%	9.4%	10.6%	72.7%	0.0%	16.7%	83.3%
三世代会帯	189	9.0%	12.2%	13.2%	65.6%	0.0%	21.2%	78.8%
ひとり親家庭	53	9.4%	5.7%	13.2%	71.7%	0.0%	15.1%	84.9%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	0.0%	18.2%	72.7%	0.0%	9.1%	90.9%

-6 自由に使える時間がほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世代会帯	245	25.7%	16.7%	13.5%	44.1%	0.0%	42.4%	57.6%
三世代会帯	189	25.4%	22.8%	10.1%	41.8%	0.0%	48.1%	51.9%
ひとり親家庭	53	35.8%	22.6%	11.3%	30.2%	0.0%	58.5%	41.5%
その他の世帯、一人暮らし等	11	27.3%	9.1%	27.3%	36.4%	0.0%	36.4%	63.6%

-7 進路や就職など将来の相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世代会帯	245	19.6%	18.4%	13.9%	48.2%	0.0%	38.0%	62.0%
三世代会帯	189	16.4%	24.9%	14.8%	43.9%	0.0%	41.3%	58.7%
ひとり親家庭	53	24.5%	15.1%	15.1%	45.3%	0.0%	39.6%	60.4%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	18.2%	18.2%	54.5%	0.0%	27.3%	72.7%

-8 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世代会帯	245	26.1%	17.6%	10.2%	46.1%	0.0%	43.7%	56.3%
三世代会帯	189	18.5%	22.8%	15.3%	43.4%	0.0%	41.3%	58.7%
ひとり親家庭	53	32.1%	9.4%	9.4%	49.1%	0.0%	41.5%	58.5%
その他の世帯、一人暮らし等	11	18.2%	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	45.5%	54.5%

-9 家庭への経済的な支援

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
二世代会帯	245	13.5%	10.6%	11.8%	64.1%	0.0%	24.1%	75.9%
三世代会帯	189	12.2%	17.5%	16.9%	53.4%	0.0%	29.6%	70.4%
ひとり親家庭	53	28.3%	9.4%	7.5%	54.7%	0.0%	37.7%	62.3%
その他の世帯、一人暮らし等	11	9.1%	9.1%	9.1%	72.7%	0.0%	18.2%	81.8%

#### (4) 平日1日あたりの世話に費やす時間による生活状況等

##### ① 健康状態

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べ、健康状態が「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』計の割合が5ポイント以上高くなっている。

図表-63 健康状態

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
3時間未満	227	49.8%	22.0%	21.1%	4.8%	2.2%	0.0%
3～7時間未満	163	44.8%	20.2%	25.8%	8.6%	0.6%	0.0%
7時間以上	106	53.8%	16.0%	15.1%	10.4%	4.7%	0.0%

##### ② 欠席の状況

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べ、「たまに欠席する」の割合が5ポイント以上高くなっている。

図表-64 欠席の状況

	調査数 (n)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
3時間未満	227	75.8%	14.5%	9.7%	0.0%
3～7時間未満	163	74.2%	15.3%	10.4%	0.0%
7時間以上	106	67.0%	21.7%	11.3%	0.0%

##### ③ 遅刻や早退の状況

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べ、遅刻や早退を「たまにする」の割合が高くなっている。

図表-65 遅刻や早退の状況

	調査数 (n)	ほとんどのらない	たまにする	よくする	無回答
3時間未満	227	84.1%	13.2%	2.6%	0.0%
3～7時間未満	163	82.8%	16.0%	1.2%	0.0%
7時間以上	106	77.4%	17.9%	4.7%	0.0%

#### ④ 学校生活等であてはまること

学校生活等であてはまることについて、世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べ、「宿題や課題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」の割合が高くなっている。また、世話に費やす時間が1日3時間以上の場合、1日3時間未満に比べ「宿題や課題ができていないことが多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の割合がやや高くなっている。

図表-66 ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

	調査数 (n)	授業中に 居眠りする ことが多い	宿題や課 題ができて いないこと が多い	持ち物の 忘れが多 い	部活動や 習い事を 休むこと が多い	提出しな ければい けない書 類などの 提出が遅 れること が多い	修学旅行 などの宿 泊行事を 欠席する (予定を 含む)	保健室で 過ごすこ とが多い	学校では 1人で過 ごすこと が多い	友達と遊 んだり、 おしゃべ りしたり する時間 が少ない	特にな い	無回答
3時間未満	227	29.5%	19.4%	25.6%	7.0%	26.4%	0.4%	2.2%	9.3%	9.3%	42.3%	0.0%
3～7時間未満	163	28.2%	20.9%	19.6%	6.1%	28.8%	3.1%	1.8%	7.4%	6.1%	42.3%	0.0%
7時間以上	106	28.3%	23.6%	29.2%	7.5%	30.2%	3.8%	4.7%	7.5%	9.4%	42.5%	0.0%

#### ⑤ 現在の悩みや困りごと

世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、7時間未満に比べて「家庭の経済的状況のこと」の割合が高くなっている。また、「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」、「病気や障がいのある家族のこと」、「自分のために使える時間が少ない」の割合がやや高くなっている。

図表-67 現在の悩みや困りごと（複数回答）

	調査数 (n)	友人との 関係	学業成績 のこと	進路のこ と	部活動の こと	学費（授 業料）な ど学校生 活に必要な お金のこ と	塾（通信 含む）や 習い事が できない	家庭の経 済的状況 のこと
3時間未満	227	14.1%	38.8%	39.2%	15.4%	5.3%	1.3%	5.7%
3～7時間未満	163	17.2%	41.7%	39.3%	12.9%	2.5%	1.8%	6.1%
7時間以上	106	17.0%	42.5%	40.6%	15.1%	7.5%	1.9%	13.2%

	調査数 (n)	自分と家 族との関 係のこと	家族内の 人間関係 のこと (両親の 仲が良く ないなど)	病気や障 がいのあ る家族の こと	自分のた めに使え る時間が 少ない	その他	特にな い	無回答
3時間未満	227	7.5%	3.5%	3.5%	7.5%	4.4%	40.1%	0.0%
3～7時間未満	163	8.0%	8.0%	3.7%	5.5%	4.3%	35.6%	0.0%
7時間以上	106	8.5%	9.4%	6.6%	10.4%	7.5%	33.0%	0.0%

## ⑥ 世話をすることに感じるきつさ

世화에費やす時間が1日3～7時間未満の場合及び1日7時間以上の場合、「身体的にきつい」、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」のすべてにおいて、3時間未満に比べて割合が高くなっている。

図表－68 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
3時間未満	275	1.5%	6.2%	5.8%	88.0%	0.0%
3～7時間未満	180	5.6%	10.0%	11.1%	78.3%	0.0%
7時間以上	116	6.0%	11.2%	12.1%	78.4%	0.0%

## ⑦ 世話に関する相談の経験

世화에費やす時間が1日3時間以上の場合、3時間未満に比べて、世話について相談した経験が「ある」の割合が高くなっている。

図表－69 世話について相談した経験

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
3時間未満	227	14.1%	85.9%	0.0%
3～7時間未満	163	20.2%	79.8%	0.0%
7時間以上	106	23.6%	76.4%	0.0%

## ⑧ 世話に関する相談相手

世話についての相談相手については、世話に費やす時間が長くなるほど、「SNS 上での知り合い」の割合がやや高くなっている。

図表－70 世話についての相談相手（複数回答）

	調査数 (n)	家族 (父、 母、祖 父、祖 母、きよ うだい)	親戚(お じ、おば など)	友人	学校の先 生(保健 室の先生 以外)	保健室の 先生	スケー ル・カウ ンセラー	スケー ルソーシ ヤルワー カー
3時間未満	32	59.4%	9.4%	65.6%	18.8%	6.3%	3.1%	0.0%
3～7時間未満	33	78.8%	12.1%	57.6%	6.1%	12.1%	6.1%	0.0%
7時間以上	25	68.0%	0.0%	48.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%

	調査数 (n)	医師や看 護師、そ の他病院 の人	ヘルパー やケアマ ネ、福祉 のサービ スの人	役所の人	近所の人	SNS上 での知り 合い	その他	無回答
3時間未満	32	3.1%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3～7時間未満	33	6.1%	3.0%	0.0%	3.0%	6.1%	0.0%	0.0%
7時間以上	25	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%

## ⑨ 世話に関する相談したことがない理由

世話に関する相談をしたことがない理由について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、いずれの世話に費やす時間でも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高く、次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」となっている。世話に費やす時間が1日7時間以上の場合、3時間未満に比べて、大きな差はみられない。

図表－71 世話について相談したことがない理由（複数回答）

### -1 誰かに相談するほどの悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	68.7%	13.3%	7.7%	10.3%	0.0%	82.1%	17.9%
3～7時間未満	130	68.5%	15.4%	6.9%	9.2%	0.0%	83.8%	16.2%
7時間以上	81	59.3%	18.5%	9.9%	12.3%	0.0%	77.8%	22.2%

-2 家族外の人に相談するような悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	63.6%	15.9%	6.2%	14.4%	0.0%	79.5%	20.5%
3～7時間未満	130	66.2%	16.2%	6.9%	10.8%	0.0%	82.3%	17.7%
7時間以上	81	60.5%	13.6%	8.6%	17.3%	0.0%	74.1%	25.9%

-3 誰に相談するのがよいかわからない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	18.5%	9.2%	15.4%	56.9%	0.0%	27.7%	72.3%
3～7時間未満	130	22.3%	10.8%	15.4%	51.5%	0.0%	33.1%	66.9%
7時間以上	81	23.5%	12.3%	6.2%	58.0%	0.0%	35.8%	64.2%

-4 相談できる人が身近にいない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	10.8%	7.2%	12.3%	69.7%	0.0%	17.9%	82.1%
3～7時間未満	130	16.2%	6.2%	17.7%	60.0%	0.0%	22.3%	77.7%
7時間以上	81	13.6%	9.9%	11.1%	65.4%	0.0%	23.5%	76.5%

-5 家族のここのため話しにくい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	12.8%	13.3%	11.3%	62.6%	0.0%	26.2%	73.8%
3～7時間未満	130	22.3%	11.5%	16.2%	50.0%	0.0%	33.8%	66.2%
7時間以上	81	17.3%	12.3%	12.3%	58.0%	0.0%	29.6%	70.4%

-6 家族のことを知られたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	15.4%	14.9%	15.4%	54.4%	0.0%	30.3%	69.7%
3～7時間未満	130	17.7%	9.2%	16.9%	56.2%	0.0%	26.9%	73.1%
7時間以上	81	13.6%	13.6%	14.8%	58.0%	0.0%	27.2%	72.8%

-7 家族に対して偏見を持たれたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	21.5%	12.3%	11.8%	54.4%	0.0%	33.8%	66.2%
3～7時間未満	130	29.2%	11.5%	10.0%	49.2%	0.0%	40.8%	59.2%
7時間以上	81	21.0%	12.3%	11.1%	55.6%	0.0%	33.3%	66.7%

-8 相談しても状況が変わるとは思わない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
3時間未満	195	22.1%	14.9%	15.4%	47.7%	0.0%	36.9%	63.1%
3～7時間未満	130	28.5%	10.0%	15.4%	46.2%	0.0%	38.5%	61.5%
7時間以上	81	23.5%	12.3%	16.0%	48.1%	0.0%	35.8%	64.2%

## (5) 世話を必要としている家族による世話の状況等

### ① (回答者の) 性別

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、父母、祖父母に比べ「女性」が高くなっている。

図表－72 回答者の性別

	調査数 (n)	男性	女性	その他	無回答
父母	82	59.8%	37.8%	2.4%	0.0%
祖父母	131	58.0%	41.2%	0.8%	0.0%
きょうだい	313	43.8%	55.6%	0.6%	0.0%
その他	13	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%

### ② 世話を一緒にする人

世話を必要としている家族が父母の場合、「自分のみ」の割合が他に比べ高くなっている。一方、世話を必要としている家族が祖父母の場合、「福祉サービス（ヘルパーなど）を利用」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－73 世話を一緒にしている人（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス（ヘルパーなど）を利用	その他	無回答
父母	82	45.1%	32.9%	17.1%	8.5%	36.6%	3.7%	23.2%	2.4%	6.1%	0.0%
祖父母	131	61.8%	32.8%	17.6%	8.4%	36.6%	6.9%	11.5%	14.5%	2.3%	0.0%
きょうだい	313	73.2%	53.0%	20.4%	12.1%	36.7%	2.9%	17.6%	1.0%	1.3%	0.0%
その他	13	53.8%	30.8%	30.8%	7.7%	46.2%	30.8%	15.4%	15.4%	0.0%	0.0%

### ③ 世話を始めた年齢

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、他に比べ、「小学生（低学年）」、「小学生（高学年）」の割合が高くなっている。

図表－74 世話を始めた年齢

	調査数 (n)	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生	無回答
父母	78	21.8%	11.5%	39.7%	26.9%	0.0%
祖父母	116	7.8%	11.2%	40.5%	40.5%	0.0%
きょうだい	311	21.5%	15.8%	50.8%	11.9%	0.0%
その他	12	25.0%	8.3%	41.7%	25.0%	0.0%

#### ④ 世話の頻度

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「ほぼ毎日」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－75 世話をしている頻度

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
父母	82	41.5%	25.6%	11.0%	14.6%	7.3%	0.0%
祖父母	131	38.2%	16.0%	24.4%	17.6%	3.8%	0.0%
きょうだい	313	53.0%	20.4%	14.7%	8.9%	2.9%	0.0%
その他	13	53.8%	0.0%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%

#### 中学2年生

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
父母	51	35.3%	29.4%	7.8%	17.6%	9.8%	0.0%
祖父母	79	36.7%	15.2%	25.3%	19.0%	3.8%	0.0%
きょうだい	220	55.5%	20.5%	11.4%	9.1%	3.6%	0.0%
その他	6	66.7%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%

#### 全日制高校2年生

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
父母	20	60.0%	20.0%	5.0%	10.0%	5.0%	0.0%
祖父母	43	37.2%	20.9%	23.3%	14.0%	4.7%	0.0%
きょうだい	75	46.7%	18.7%	25.3%	8.0%	1.3%	0.0%
その他	6	50.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%

## ⑤ 世話に費やす時間

世話に費やす時間については、世話を必要としている家族が父母の場合、平均 3.0 時間、祖父母の場合では平均 3.3 時間、きょうだいの場合では平均 3.1 時間となっている。世話を必要としている家族がきょうだいの場合、「3～7 時間未満」の割合が他に比べ高くなっている。

図表－76 世話に費やす時間（平日 1 日あたり）

	調査数 (n)	3 時間未 満	3～7 時 間未満	7 時間以 上	無回答
父母	82	48.8%	30.5%	20.7%	0.0%
祖父母	129	50.4%	27.1%	22.5%	0.0%
きょうだい	313	40.9%	36.4%	22.7%	0.0%
その他	13	38.5%	23.1%	38.5%	0.0%

### 中学 2 年生

	調査数 (n)	3 時間未 満	3～7 時 間未満	7 時間以 上	無回答
父母	51	49.0%	33.3%	17.6%	0.0%
祖父母	77	48.1%	28.6%	23.4%	0.0%
きょうだい	220	42.7%	35.5%	21.8%	0.0%
その他	6	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%

### 全日制高校 2 年生

	調査数 (n)	3 時間未 満	3～7 時 間未満	7 時間以 上	無回答
父母	20	45.0%	25.0%	30.0%	0.0%
祖父母	43	53.5%	25.6%	20.9%	0.0%
きょうだい	75	37.3%	41.3%	21.3%	0.0%
その他	6	16.7%	16.7%	66.7%	0.0%

## ⑥ 世話をすることに感じているきつさ

世話を必要としている家族が祖父母の場合、「精神的にきつい」が他に比べ高く、「特にきつさは感じていない」の割合が他に比べ低くなっている。

図表－77 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
父母	82	12.2%	11.0%	15.9%	73.2%	0.0%
祖父母	131	8.4%	16.0%	15.3%	67.2%	0.0%
きょうだい	313	2.9%	6.1%	8.0%	86.3%	0.0%
その他	13	7.7%	0.0%	0.0%	92.3%	0.0%

## ⑦ 世話に関する相談の経験

世話を必要としている家族がきょうだいの場合、世話について相談した経験が「ない」の回答が、世話を必要としている家族が父母や祖父母の場合よりも高くなっている。

図表－78 世話について相談した経験

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
父母	82	26.8%	73.2%	0.0%
祖父母	131	22.9%	77.1%	0.0%
きょうだい	313	16.6%	83.4%	0.0%
その他	13	7.7%	92.3%	0.0%

## ⑧ 世話について相談したことがない理由

世話について相談したことがない理由について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、世話を必要としている家族が父母の場合、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のここのため話しにくい」、「家族のことを知られたくない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が高くなっている。また世話を必要としている家族がきょうだいの場合には、「誰かに相談するほどの悩みではない」、「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合も高くなっている。

図表-79 世話について相談したことがない理由（複数回答）

### -1 誰かに相談するほどの悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	53.3%	13.3%	15.0%	18.3%	0.0%	66.7%	33.3%
祖父母	101	59.4%	20.8%	7.9%	11.9%	0.0%	80.2%	19.8%
きょうだい	261	70.1%	14.9%	5.7%	9.2%	0.0%	85.1%	14.9%
その他	12	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%	91.7%	8.3%

### -2 家族外の人に相談するような悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	55.0%	15.0%	10.0%	20.0%	0.0%	70.0%	30.0%
祖父母	101	54.5%	21.8%	8.9%	14.9%	0.0%	76.2%	23.8%
きょうだい	261	67.4%	14.6%	5.4%	12.6%	0.0%	82.0%	18.0%
その他	12	58.3%	16.7%	16.7%	8.3%	0.0%	75.0%	25.0%

### -3 誰に相談するのがよいかわからない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	31.7%	15.0%	8.3%	45.0%	0.0%	46.7%	53.3%
祖父母	101	18.8%	9.9%	17.8%	53.5%	0.0%	28.7%	71.3%
きょうだい	261	19.2%	10.7%	12.6%	57.5%	0.0%	29.9%	70.1%
その他	12	25.0%	8.3%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	66.7%

-4 相談できる人が身近にいない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	28.3%	13.3%	11.7%	46.7%	0.0%	41.7%	58.3%
祖父母	101	13.9%	9.9%	12.9%	63.4%	0.0%	23.8%	76.2%
きょうだい	261	10.0%	5.7%	13.8%	70.5%	0.0%	15.7%	84.3%
その他	12	25.0%	8.3%	25.0%	41.7%	0.0%	33.3%	66.7%

-5 家族のここのため話しにくい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	31.7%	13.3%	13.3%	41.7%	0.0%	45.0%	55.0%
祖父母	101	18.8%	12.9%	17.8%	50.5%	0.0%	31.7%	68.3%
きょうだい	261	13.8%	11.9%	11.5%	62.8%	0.0%	25.7%	74.3%
その他	12	16.7%	16.7%	8.3%	58.3%	0.0%	33.3%	66.7%

-6 家族のことを知られたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	28.3%	16.7%	15.0%	40.0%	0.0%	45.0%	55.0%
祖父母	101	18.8%	16.8%	20.8%	43.6%	0.0%	35.6%	64.4%
きょうだい	261	12.6%	10.7%	13.8%	62.8%	0.0%	23.4%	76.6%
その他	12	16.7%	16.7%	25.0%	41.7%	0.0%	33.3%	66.7%

-7 家族に対して偏見を持たれたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	35.0%	11.7%	11.7%	41.7%	0.0%	46.7%	53.3%
祖父母	101	22.8%	12.9%	15.8%	48.5%	0.0%	35.6%	64.4%
きょうだい	261	22.6%	12.3%	9.6%	55.6%	0.0%	34.9%	65.1%
その他	12	25.0%	8.3%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	66.7%

-8 相談しても状況が変わると思わない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
父母	60	31.7%	18.3%	11.7%	38.3%	0.0%	50.0%	50.0%
祖父母	101	24.8%	16.8%	20.8%	37.6%	0.0%	41.6%	58.4%
きょうだい	261	23.0%	10.7%	14.2%	52.1%	0.0%	33.7%	66.3%
その他	12	41.7%	8.3%	8.3%	41.7%	0.0%	50.0%	50.0%

## (6) 世話をすることを感じているきつさによる世話の状況の違い

### ① 世話対象の状況

世話を必要としている家族が父母の場合、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」のいずれにおいても、父母の状況が「その他」の割合が最も高くなっている。

図表－80 父母の状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症 など) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病気	その他	無回答
身体的にきつい	12	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	25.0%	16.7%
精神的にきつい	12	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	25.0%	16.7%	0.0%	41.7%	0.0%
時間的余裕がない	17	17.6%	0.0%	5.9%	11.8%	5.9%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%	29.4%	17.6%
特にきつさは感じてない	84	10.7%	0.0%	1.2%	0.0%	6.0%	2.4%	0.0%	4.8%	2.4%	44.0%	31.0%

図表－81 祖父母の状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症 など) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病気	その他	無回答
身体的にきつい	14	85.7%	0.0%	28.6%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	7.1%	14.3%
精神的にきつい	23	82.6%	0.0%	34.8%	56.5%	4.3%	0.0%	0.0%	8.7%	8.7%	0.0%	4.3%
時間的余裕がない	23	82.6%	0.0%	17.4%	21.7%	13.0%	4.3%	0.0%	4.3%	4.3%	4.3%	13.0%
特にきつさは感じてない	105	84.8%	0.0%	11.4%	11.4%	11.4%	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	8.6%	1.0%

図表－82 きょうだいの状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (アル コール依 存症、 ギャン ブル依 存症 など) (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病気	その他	無回答
身体的にきつい	9	0.0%	44.4%	11.1%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
精神的にきつい	19	0.0%	68.4%	5.3%	0.0%	5.3%	15.8%	0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	0.0%
時間的余裕がない	25	0.0%	88.0%	4.0%	0.0%	8.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	270	0.0%	86.3%	0.7%	0.0%	1.5%	2.6%	0.0%	0.7%	0.7%	11.5%	0.7%

## ② 世話内容

父母の世話の内容では、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」と回答した場合、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高くなっている。きょうだいへの世話の内容では、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」と回答した場合、「見守り」の割合が最も高くなっている。

図表－83 父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイ レのお世 話など）	外出の付 き添い （買い 物、散歩 など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手な るなど）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	12	66.7%	8.3%	25.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%
精神的にきつい	12	66.7%	16.7%	25.0%	33.3%	8.3%	33.3%	58.3%	0.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%
時間的余裕がない	17	64.7%	0.0%	29.4%	47.1%	11.8%	17.6%	23.5%	0.0%	17.6%	11.8%	0.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	84	70.2%	14.3%	6.0%	25.0%	3.6%	16.7%	15.5%	7.1%	4.8%	3.6%	6.0%	0.0%

図表－84 祖父母への世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイ レのお世 話など）	外出の付 き添い （買い 物、散歩 など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手な るなど）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	14	78.6%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
精神的にきつい	23	47.8%	4.3%	13.0%	13.0%	4.3%	30.4%	69.6%	0.0%	0.0%	13.0%	4.3%	0.0%
時間的余裕がない	23	52.2%	4.3%	21.7%	21.7%	13.0%	13.0%	39.1%	0.0%	0.0%	13.0%	0.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	105	46.7%	3.8%	10.5%	29.5%	1.0%	18.1%	40.0%	1.9%	1.9%	1.9%	7.6%	0.0%

図表－85 きょうだいへの世話の内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事（食 事の準備 や掃除、 洗濯）	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護（入 浴やトイ レのお世 話など）	外出の付 き添い （買い 物、散歩 など）	通院の付 き添い	感情面の サポート （愚痴を 聞く、話 し相手な るなど）	見守り	通訳（日 本語や手 話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
身体的にきつい	9	77.8%	33.3%	66.7%	44.4%	0.0%	11.1%	66.7%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
精神的にきつい	19	57.9%	31.6%	26.3%	21.1%	0.0%	42.1%	68.4%	5.3%	0.0%	0.0%	15.8%	0.0%
時間的余裕がない	25	48.0%	32.0%	28.0%	48.0%	0.0%	40.0%	80.0%	8.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	270	24.8%	21.9%	10.0%	23.7%	0.4%	14.4%	67.0%	0.7%	0.4%	1.1%	7.8%	0.0%

### ③ 世話による制約

世話をしているために、やりたいけれどできていないことについては、「身体的にきつい」と回答した場合、「学校に行きたくても行けない」、「どうしても学校を遅刻・早退してしまう」、「友人と遊ぶことができない」、「部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった」が他に比べ高くなっている。「時間的余裕がない」と回答した場合、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」が他に比べ高くなっている。

図表－86 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間がとれない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
身体的にきつい	21	14.3%	9.5%	33.3%	28.6%	47.6%	14.3%	4.8%	47.6%	0.0%	19.0%	0.0%
精神的にきつい	44	4.5%	0.0%	18.2%	22.7%	29.5%	4.5%	0.0%	34.1%	4.5%	40.9%	0.0%
時間的余裕がない	50	2.0%	2.0%	44.0%	32.0%	34.0%	6.0%	4.0%	48.0%	0.0%	28.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	405	0.5%	0.5%	3.0%	2.5%	2.7%	1.2%	0.7%	5.2%	0.2%	88.1%	0.0%

### ④ 世話に関する相談経験の有無

「時間的余裕がない」と回答した場合、世話について相談した経験が「ない」との回答が6割を超えている。

図表－87 世話について相談した経験

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
身体的にきつい	21	47.6%	52.4%	0.0%
精神的にきつい	44	40.9%	59.1%	0.0%
時間的余裕がない	50	34.0%	66.0%	0.0%
特にきつさは感じてない	405	13.1%	86.9%	0.0%

## ⑤ 世話について相談をしたことがない理由

世話について相談をしたことがない理由については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合は、「身体的にきつい」と回答した場合、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のこのため話しにくい」、「家族のことを知られたくない」、「家族に対して偏見を持たれたくない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が他に比べ高くなっている。「時間的に余裕がない」と回答した場合、「誰に相談するのがよいかわからない」、「家族外の人に相談するような悩みではない」の割合が他に比べ高くなっている。

図表-88 世話について相談したことがない理由（複数回答）

### -1 誰かに相談するほどの悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	18.2%	36.4%	18.2%	27.3%	0.0%	54.5%	45.5%
精神的にきつい	26	34.6%	23.1%	30.8%	11.5%	0.0%	57.7%	42.3%
時間的余裕がない	33	33.3%	48.5%	15.2%	3.0%	0.0%	81.8%	18.2%
特にきつさは感じてない	352	71.6%	11.6%	6.0%	10.8%	0.0%	83.2%	16.8%

### -2 家族外の人に相談するような悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	36.4%	18.2%	36.4%	9.1%	0.0%	54.5%	45.5%
精神的にきつい	26	34.6%	26.9%	26.9%	11.5%	0.0%	61.5%	38.5%
時間的余裕がない	33	36.4%	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%	72.7%	27.3%
特にきつさは感じてない	352	67.9%	12.8%	4.8%	14.5%	0.0%	80.7%	19.3%

### -3 誰に相談するのがよいかわからない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%	90.9%	9.1%
精神的にきつい	26	34.6%	26.9%	15.4%	23.1%	0.0%	61.5%	38.5%
時間的余裕がない	33	30.3%	27.3%	21.2%	21.2%	0.0%	57.6%	42.4%
特にきつさは感じてない	352	18.8%	8.2%	12.5%	60.5%	0.0%	27.0%	73.0%

-4 相談できる人が身近にいない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%	0.0%	63.6%	36.4%
精神的にきつい	26	30.8%	11.5%	23.1%	34.6%	0.0%	42.3%	57.7%
時間的余裕がない	33	18.2%	24.2%	27.3%	30.3%	0.0%	42.4%	57.6%
特にきつさは感じてない	352	11.4%	6.0%	11.9%	70.7%	0.0%	17.3%	82.7%

-5 家族のここのため話しにくい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	63.6%	9.1%	0.0%	27.3%	0.0%	72.7%	27.3%
精神的にきつい	26	30.8%	19.2%	26.9%	23.1%	0.0%	50.0%	50.0%
時間的余裕がない	33	33.3%	12.1%	27.3%	27.3%	0.0%	45.5%	54.5%
特にきつさは感じてない	352	14.8%	12.2%	10.8%	62.2%	0.0%	27.0%	73.0%

-6 家族のことを知られたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	81.8%	18.2%
精神的にきつい	26	26.9%	7.7%	38.5%	26.9%	0.0%	34.6%	65.4%
時間的余裕がない	33	24.2%	27.3%	21.2%	27.3%	0.0%	51.5%	48.5%
特にきつさは感じてない	352	14.5%	11.9%	13.6%	59.9%	0.0%	26.4%	73.6%

-7 家族に対して偏見を持たれたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	81.8%	18.2%
精神的にきつい	26	38.5%	15.4%	19.2%	26.9%	0.0%	53.8%	46.2%
時間的余裕がない	33	36.4%	24.2%	15.2%	24.2%	0.0%	60.6%	39.4%
特にきつさは感じてない	352	22.4%	10.5%	10.2%	56.8%	0.0%	33.0%	67.0%

-8 相談しても状況が変わると思わない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
身体的にきつい	11	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	81.8%	18.2%
精神的にきつい	26	50.0%	15.4%	15.4%	19.2%	0.0%	65.4%	34.6%
時間的余裕がない	33	45.5%	18.2%	30.3%	6.1%	0.0%	63.6%	36.4%
特にきつさは感じてない	352	21.6%	11.9%	14.2%	52.3%	0.0%	33.5%	66.5%

## ⑥ 世話の悩みについて聞いてくれる人の有無

世話の悩みについて聞いてくれる人の有無について、「身体的にきつい」と回答した場合、「いる」は「いない」に比べ低く、1割を下回っている。

図表－89 世話の悩みについて聞いてくれる人の有無

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
身体的にきつい	11	9.1%	90.9%	0.0%
精神的にきつい	26	34.6%	65.4%	0.0%
時間的余裕がない	33	48.5%	51.5%	0.0%
特にきつさは感じてない	352	80.1%	19.9%	0.0%

## (7) ヤングケアラーの自己認識による生活状況、世話の状況の違い

### ① 健康状態

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、健康状態について「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』の割合が高くなっている。

図表－90 健康状態

	調査数 (n)	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
あてはまる	86	61.6%	15.1%	14.0%	7.0%	2.3%	0.0%
どちらかというにあてはまる	230	41.3%	24.3%	22.2%	11.3%	0.9%	0.0%
あまりあてはまらない	656	41.5%	29.3%	23.2%	5.0%	1.1%	0.0%
あてはまらない	8,058	56.0%	21.8%	18.1%	3.6%	0.4%	0.0%
わからない	2,012	52.7%	20.3%	20.9%	4.5%	1.6%	0.0%

### ② 出席状況

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答した場合に比べ、「たまに欠席する」と「よく欠席する」を合わせた『欠席する』の割合が高くなっている。

図表－91 出席状況

	調査数 (n)	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
あてはまる	86	70.9%	16.3%	12.8%	0.0%
どちらかというにあてはまる	230	70.9%	17.8%	11.3%	0.0%
あまりあてはまらない	656	77.4%	13.7%	8.8%	0.0%
あてはまらない	8,058	82.3%	9.7%	7.9%	0.0%
わからない	2,012	75.6%	14.6%	9.7%	0.0%

### ③ 遅刻や早退の状況

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の場合に比べ、「たまにする」と「よくする」を合わせた『遅刻や早退をする』の割合が高くなっている。

図表－92 遅刻や早退の状況

	調査数 (n)	ほとん どしな い	たまに する	よくす る	無回答
あてはまる	86	77.9%	22.1%	0.0%	0.0%
どちらかという あてはまる	230	82.2%	14.8%	3.0%	0.0%
あまりあてはまらない	656	84.8%	13.6%	1.7%	0.0%
あてはまらない	8,058	89.8%	8.8%	1.4%	0.0%
わからない	2,012	83.6%	14.5%	1.9%	0.0%

### ④ 学校生活等であてはまること

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」、「あまりあてはまらない」と回答した場合、「あてはまらない」の場合に比べ、全体的に回答割合が高くなっているが、特に「授業中に居眠りすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い」の割合が高くなっている。

図表－93 ふだんの学校生活等であてはまること（複数回答）

	調査数 (n)	授業中に 居眠りす ることが 多い	宿題や課 題ができ ていない ことが多 い	持ち物の 忘れが多 い	部活動や 習い事を 休むこと が多い	提出しな ければい けない書 類などの 提出が遅 れること が多い	修学旅行 などの宿 泊行事を 欠席する (予定を 含む)	保健室で 過ごすこ とが多い	学校では 1人で過 ごすこと が多い	友達と遊 んだり、 おしゃべ りしたり する時間 が少ない	特にな い	無回答
あてはまる	86	32.6%	18.6%	17.4%	0.0%	18.6%	0.0%	3.5%	5.8%	4.7%	46.5%	0.0%
どちらかという あてはまる	230	31.3%	18.3%	16.1%	6.5%	21.3%	1.3%	0.9%	6.5%	8.3%	42.6%	0.0%
あまりあてはまらない	656	32.8%	23.3%	21.0%	3.5%	23.3%	0.3%	1.4%	6.4%	5.0%	39.3%	0.0%
あてはまらない	8,058	25.9%	14.6%	15.0%	3.9%	17.4%	0.7%	0.9%	5.5%	5.2%	53.5%	0.0%
わからない	2,012	30.2%	19.7%	19.4%	4.9%	22.0%	1.1%	1.8%	5.1%	5.0%	46.5%	0.0%

## ⑤ 現在の悩みや困りごと

ヤングケアラーかどうかに対して「どちらかというとあてはまる」、「あまりあてはまらない」と回答した場合、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、全体的に回答割合が高くなっているが、特に「学業成績のこと」、「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「家族内の人間関係のこと（両親の仲がよくないなど）」の割合が高くなっている。

図表－94 現在の悩みや困りごと（複数回答）

	調査数 (n)	友人との 関係	学業成績 のこと	進路のこ と	部活動の こと	学費（授 業料）な ど学校生 活に必要な お金のこ と	塾（通信 含む）や 習い事が できない	家庭の経 済的状況 のこと
あてはまる	86	14.0%	29.1%	38.4%	9.3%	2.3%	0.0%	8.1%
どちらかという とあてはまる	230	17.0%	45.2%	45.2%	17.8%	8.3%	0.4%	10.4%
あまりあてはまらない	656	15.5%	44.1%	47.9%	15.5%	5.6%	1.8%	7.3%
あてはまらない	8,058	11.2%	33.8%	40.7%	12.5%	3.1%	1.0%	2.9%
わからない	2,012	10.7%	32.3%	34.7%	11.5%	4.0%	1.4%	4.5%

	調査数 (n)	自分と家 族との関 係のこと	家族内の 人間関係 のこと （両親の 仲が良く ないなど）	病気や障 がいのある 家族のこ と	自分のた めに使える 時間が少 ない	その他	特にな い	無回答
あてはまる	86	3.5%	3.5%	3.5%	5.8%	5.8%	40.7%	0.0%
どちらかという とあてはまる	230	11.3%	13.0%	7.4%	10.0%	6.5%	29.1%	0.0%
あまりあてはまらない	656	7.0%	5.5%	2.1%	8.8%	2.1%	31.1%	0.0%
あてはまらない	8,058	3.8%	3.2%	0.8%	4.1%	2.6%	42.1%	0.0%
わからない	2,012	5.3%	4.2%	1.4%	5.0%	2.4%	48.0%	0.0%

## ⑥ 世話を一緒にする人

ヤングケアラーかどうかに対して「どちらかというとあてはまる」、「わからない」と回答した場合は、「あてはまらない」と回答した場合に比べ、「自分のみ」の割合が高くなっている。

図表－95 世話を一緒にしている人（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス（ヘルパーなど）を利用	その他	無回答
あてはまる	17	76.5%	47.1%	11.8%	17.6%	23.5%	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	59.6%	40.4%	21.3%	8.5%	42.6%	8.5%	23.4%	14.9%	4.3%	0.0%
あまりあてはまらない	55	70.9%	43.6%	16.4%	12.7%	43.6%	9.1%	10.9%	12.7%	1.8%	0.0%
あてはまらない	181	74.6%	55.2%	21.0%	11.6%	38.7%	5.0%	10.5%	2.2%	1.1%	0.0%
わからない	198	58.6%	38.9%	17.7%	8.1%	33.3%	3.0%	22.7%	2.0%	1.0%	0.0%

## ⑦ 世話の頻度

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというとあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、世話の頻度について「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。

図表－96 世話をしている頻度

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
あてはまる	17	58.8%	17.6%	5.9%	5.9%	11.8%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	57.4%	12.8%	17.0%	10.6%	2.1%	0.0%
あまりあてはまらない	55	43.6%	21.8%	25.5%	9.1%	0.0%	0.0%
あてはまらない	181	49.2%	22.1%	13.8%	11.0%	3.9%	0.0%
わからない	198	43.9%	17.7%	19.7%	15.2%	3.5%	0.0%

## ⑧ 世話に費やす時間

世話に費やす時間については、ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」と回答した場合は、平均 3.1 時間、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は平均 3.0 時間、「あまりあてはまらない」と回答した場合は平均 3.4 時間、「あてはまらない」と回答した場合は平均 2.6 時間、「わからない」と回答した場合は平均 3.1 時間となっている。ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、3～7 時間未満の割合が高くなっている。

図表-97 世話に費やす時間（平日 1 日あたり）

	調査数 (n)	3 時間未 満	3～7 時 間未満	7 時間以 上	無回答
あてはまる	17	17.6%	47.1%	35.3%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	34.0%	42.6%	23.4%	0.0%
あまりあてはまらない	55	50.9%	21.8%	27.3%	0.0%
あてはまらない	180	46.7%	36.1%	17.2%	0.0%
わからない	197	48.7%	29.4%	21.8%	0.0%

## ⑨ 世話による制約

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」、「あまりあてはまらない」と回答した場合は、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、全体的に回答割合が高くなっているが、特に「学校に行きたくても行けない」、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表-98 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

	調査数 (n)	学校に行 きたくも 行けな い	どうし ても学 校を遅 刻・早 退して しま う	宿題を する時 間や勉 強する 時間が とれな い	睡眠が 十分に 取れな い	友人と 遊ぶこ とがで きな い	部活や 習い事 がで きな い、も しくは 辞めざ るを得 なかつ た	進路の変 更を考え ざるを得 ない、も しくは 進路を 変更し た	自分の時 間が取 れない	その他	特にな い	無回答
あてはまる	17	11.8%	0.0%	17.6%	11.8%	11.8%	11.8%	0.0%	35.3%	0.0%	47.1%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	0.0%	0.0%	12.8%	17.0%	21.3%	2.1%	4.3%	27.7%	0.0%	61.7%	0.0%
あまりあてはまらない	55	0.0%	0.0%	16.4%	12.7%	9.1%	3.6%	0.0%	16.4%	0.0%	67.3%	0.0%
あてはまらない	181	1.7%	2.2%	3.9%	2.8%	2.8%	0.6%	0.6%	5.5%	0.6%	87.3%	0.0%
わからない	198	1.0%	0.0%	6.6%	6.1%	7.6%	1.5%	1.0%	9.6%	1.0%	79.3%	0.0%

## ⑩ 世話をすることに感じているきつさ

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「身体的にきつい」、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」のいずれの項目も割合が高くなっているが、特に「身体的にきつい」の割合が高くなっている。

図表－99 世話をすることに感じているきつさ（複数回答）

	調査数 (n)	身体的に きつい	精神的に きつい	時間的余 裕がない	特にきつ さは感じ てない	無回答
あてはまる	17	35.3%	29.4%	29.4%	41.2%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	8.5%	27.7%	14.9%	61.7%	0.0%
あまりあてはまらない	55	3.6%	5.5%	27.3%	65.5%	0.0%
あてはまらない	181	1.1%	6.6%	6.1%	87.8%	0.0%
わからない	198	3.5%	5.6%	6.1%	87.9%	0.0%

## ⑪ 世話に関する相談の有無

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」、「あまりあてはまらない」と回答した場合は、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、世話について相談したことが「ある」との割合が高くなっている。一方、ヤングケアラーかどうかに対して「わからない」と回答した場合、世話について相談したことが「ない」との割合が最も高く、9割弱となっている。

図表－100 世話に関する相談の有無

	調査数 (n)	ある	ない	無回答
あてはまる	17	47.1%	52.9%	0.0%
どちらかという あてはまる	47	21.3%	78.7%	0.0%
あまりあてはまらない	55	32.7%	67.3%	0.0%
あてはまらない	181	15.5%	84.5%	0.0%
わからない	198	13.6%	86.4%	0.0%

## ⑫ 世話に関する相談相手

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」、「医師や看護師、その他病院の人」の割合が高くなっている。

図表－101 世話についての相談相手（複数回答）

	調査数 (n)	家族 (父、 母、祖 父、祖 母、き ょうだ い)	親戚（お じ、お ば など）	友人	学校の先 生（保健 室の先生 以外）	保健室の 先生	スクー ル・カウ ンセラー	スクール ソーシャル ワーカー
あてはまる	8	75.0%	25.0%	50.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%
どちらかという あてはまる	10	80.0%	0.0%	80.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
あまりあてはまらない	18	66.7%	5.6%	50.0%	16.7%	11.1%	5.6%	0.0%
あてはまらない	28	64.3%	3.6%	53.6%	10.7%	7.1%	0.0%	0.0%
わからない	27	66.7%	11.1%	59.3%	11.1%	3.7%	7.4%	0.0%

	調査数 (n)	医師や看 護師、そ の他病院 の人	ヘルパー やケアマ ネ、福祉 のサービ スの人	役所の人	近所の人	SNS上 での知り 合い	その他	無回答
あてはまる	8	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
どちらかという あてはまる	10	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
あまりあてはまらない	18	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
あてはまらない	28	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%
わからない	27	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%

### ⑬ 相談したことがない理由

ヤングケアラーかどうかに対して、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のここのため話しにくい」、「相談しても状況が変わるとは思わない」に対して「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の割合が高くなっている。

図表-102 世話について相談したことがない理由（複数回答）

#### -1 誰かに相談するほどの悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	88.9%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	88.9%	11.1%
どちらかという あてはまる	37	45.9%	35.1%	13.5%	5.4%	0.0%	81.1%	18.9%
あまりあてはまらない	37	56.8%	27.0%	13.5%	2.7%	0.0%	83.8%	16.2%
あてはまらない	153	75.8%	9.8%	5.9%	8.5%	0.0%	85.6%	14.4%
わからない	171	63.7%	14.0%	7.6%	14.6%	0.0%	77.8%	22.2%

#### -2 家族外の人に相談するような悩みではない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	77.8%	22.2%
どちらかという あてはまる	37	59.5%	18.9%	13.5%	8.1%	0.0%	78.4%	21.6%
あまりあてはまらない	37	48.6%	29.7%	18.9%	2.7%	0.0%	78.4%	21.6%
あてはまらない	153	69.3%	12.4%	4.6%	13.7%	0.0%	81.7%	18.3%
わからない	171	63.2%	14.6%	4.7%	17.5%	0.0%	77.8%	22.2%

#### -3 誰に相談するのがよいかわからない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	33.3%	11.1%	0.0%	55.6%	0.0%	44.4%	55.6%
どちらかという あてはまる	37	21.6%	18.9%	16.2%	43.2%	0.0%	40.5%	59.5%
あまりあてはまらない	37	8.1%	24.3%	16.2%	51.4%	0.0%	32.4%	67.6%
あてはまらない	153	16.3%	5.9%	12.4%	65.4%	0.0%	22.2%	77.8%
わからない	171	26.3%	9.4%	14.0%	50.3%	0.0%	35.7%	64.3%

-4 相談できる人が身近にいない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	22.2%	11.1%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%
どちらかという とあてはまる	37	24.3%	8.1%	21.6%	45.9%	0.0%	32.4%	67.6%
あまりあてはまらない	37	8.1%	13.5%	21.6%	56.8%	0.0%	21.6%	78.4%
あてはまらない	153	5.2%	4.6%	13.1%	77.1%	0.0%	9.8%	90.2%
わからない	171	18.1%	8.2%	11.7%	62.0%	0.0%	26.3%	73.7%

-5 家族のこのため話しにくい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	33.3%	11.1%	0.0%	55.6%	0.0%	44.4%	55.6%
どちらかという とあてはまる	37	29.7%	18.9%	21.6%	29.7%	0.0%	48.6%	51.4%
あまりあてはまらない	37	8.1%	18.9%	27.0%	45.9%	0.0%	27.0%	73.0%
あてはまらない	153	10.5%	7.8%	8.5%	73.2%	0.0%	18.3%	81.7%
わからない	171	20.5%	14.0%	12.9%	52.6%	0.0%	34.5%	65.5%

-6 家族のことを知られたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	33.3%	0.0%	11.1%	55.6%	0.0%	33.3%	66.7%
どちらかという とあてはまる	37	18.9%	21.6%	18.9%	40.5%	0.0%	40.5%	59.5%
あまりあてはまらない	37	8.1%	16.2%	29.7%	45.9%	0.0%	24.3%	75.7%
あてはまらない	153	9.2%	7.2%	14.4%	69.3%	0.0%	16.3%	83.7%
わからない	171	21.6%	15.8%	13.5%	49.1%	0.0%	37.4%	62.6%

-7 家族に対して偏見を持たれたくない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	44.4%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	44.4%	55.6%
どちらかという とあてはまる	37	27.0%	8.1%	16.2%	48.6%	0.0%	35.1%	64.9%
あまりあてはまらない	37	21.6%	13.5%	21.6%	43.2%	0.0%	35.1%	64.9%
あてはまらない	153	20.9%	11.8%	8.5%	58.8%	0.0%	32.7%	67.3%
わからない	171	25.1%	13.5%	10.5%	50.9%	0.0%	38.6%	61.4%

-8 相談しても状況が変わるとは思わない

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	9	44.4%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	44.4%	55.6%
どちらかという とあてはまる	37	32.4%	13.5%	18.9%	35.1%	0.0%	45.9%	54.1%
あまりあてはまらない	37	8.1%	18.9%	32.4%	40.5%	0.0%	27.0%	73.0%
あてはまらない	153	20.3%	11.8%	12.4%	55.6%	0.0%	32.0%	68.0%
わからない	171	29.2%	12.9%	14.6%	43.3%	0.0%	42.1%	57.9%

⑭ 世話について話を聞いてくれる人の有無

ヤングケアラーかどうかに対して「あてはまる」と回答した場合は、「どちらかという  
とあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した  
場合に比べ、世話について話を聞いてくれる人が「いる」との割合が低く、「いない」の  
割合が高くなっている。

図表-103 世話について話を聞いてくれる人の有無

	調査数 (n)	いる	いない	無回答
あてはまる	9	55.6%	44.4%	0.0%
どちらかという とあてはまる	37	64.9%	35.1%	0.0%
あまりあてはまらない	37	62.2%	37.8%	0.0%
あてはまらない	153	87.6%	12.4%	0.0%
わからない	171	69.6%	30.4%	0.0%

## ⑮ 学校や大人に助けてほしいこと

ヤングケアラーかどうかに対して、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した場合は、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」、「わからない」と回答した場合に比べ、全体的に「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』計の回答割合が高くなっている。特に「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」、「自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい」の割合が高くなっている。

図表－104 学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援（複数回答）

### -1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	29.4%	23.5%	5.9%	41.2%	0.0%	52.9%	47.1%
どちらかという あてはまる	47	17.0%	25.5%	34.0%	23.4%	0.0%	42.6%	57.4%
あまりあてはまらない	55	9.1%	21.8%	25.5%	43.6%	0.0%	30.9%	69.1%
あてはまらない	181	11.0%	12.2%	17.1%	59.7%	0.0%	23.2%	76.8%
わからない	198	14.6%	12.1%	12.1%	61.1%	0.0%	26.8%	73.2%

### -2 家族のお世話について相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	35.3%	5.9%	11.8%	47.1%	0.0%	41.2%	58.8%
どちらかという あてはまる	47	8.5%	14.9%	23.4%	53.2%	0.0%	23.4%	76.6%
あまりあてはまらない	55	3.6%	10.9%	27.3%	58.2%	0.0%	14.5%	85.5%
あてはまらない	181	5.5%	3.3%	14.4%	76.8%	0.0%	8.8%	91.2%
わからない	198	11.1%	6.6%	12.1%	70.2%	0.0%	17.7%	82.3%

### -3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	47.1%	11.8%	0.0%	41.2%	0.0%	58.8%	41.2%
どちらかという あてはまる	47	6.4%	23.4%	25.5%	44.7%	0.0%	29.8%	70.2%
あまりあてはまらない	55	9.1%	9.1%	23.6%	58.2%	0.0%	18.2%	81.8%
あてはまらない	181	3.3%	8.3%	7.7%	80.7%	0.0%	11.6%	88.4%
わからない	198	10.6%	7.6%	14.1%	67.7%	0.0%	18.2%	81.8%

-4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	35.3%	0.0%	5.9%	58.8%	0.0%	35.3%	64.7%
どちらかという とあてはまる	47	0.0%	17.0%	29.8%	53.2%	0.0%	17.0%	83.0%
あまりあてはまらない	55	1.8%	7.3%	32.7%	58.2%	0.0%	9.1%	90.9%
あてはまらない	181	2.8%	2.8%	8.3%	86.2%	0.0%	5.5%	94.5%
わからない	198	8.1%	6.1%	15.7%	70.2%	0.0%	14.1%	85.9%

-5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	35.3%	11.8%	11.8%	41.2%	0.0%	47.1%	52.9%
どちらかという とあてはまる	47	8.5%	25.5%	14.9%	51.1%	0.0%	34.0%	66.0%
あまりあてはまらない	55	7.3%	16.4%	16.4%	60.0%	0.0%	23.6%	76.4%
あてはまらない	181	4.4%	6.1%	7.7%	81.8%	0.0%	10.5%	89.5%
わからない	198	9.6%	7.6%	14.1%	68.7%	0.0%	17.2%	82.8%

-6 自由に使える時間がほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	47.1%	17.6%	5.9%	29.4%	0.0%	64.7%	35.3%
どちらかという とあてはまる	47	42.6%	27.7%	14.9%	14.9%	0.0%	70.2%	29.8%
あまりあてはまらない	55	29.1%	32.7%	7.3%	30.9%	0.0%	61.8%	38.2%
あてはまらない	181	21.5%	16.0%	14.9%	47.5%	0.0%	37.6%	62.4%
わからない	198	25.3%	17.2%	11.1%	46.5%	0.0%	42.4%	57.6%

-7 進路や就職など将来の相談にのってほしい

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	41.2%	23.5%	5.9%	29.4%	0.0%	64.7%	35.3%
どちらかという とあてはまる	47	19.1%	31.9%	19.1%	29.8%	0.0%	51.1%	48.9%
あまりあてはまらない	55	16.4%	30.9%	21.8%	30.9%	0.0%	47.3%	52.7%
あてはまらない	181	16.0%	21.0%	11.0%	51.9%	0.0%	37.0%	63.0%
わからない	198	19.7%	14.1%	15.2%	51.0%	0.0%	33.8%	66.2%

-8 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	41.2%	17.6%	11.8%	29.4%	0.0%	58.8%	41.2%
どちらかという とあてはまる	47	27.7%	31.9%	19.1%	21.3%	0.0%	59.6%	40.4%
あまりあてはまらない	55	27.3%	29.1%	16.4%	27.3%	0.0%	56.4%	43.6%
あてはまらない	181	21.5%	17.7%	11.0%	49.7%	0.0%	39.2%	60.8%
わからない	198	22.2%	14.1%	10.6%	53.0%	0.0%	36.4%	63.6%

-9 家庭への経済的な支援

	調査数 (n)	そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	「そう思 う」計	「そう思 わない」 計
あてはまる	17	41.2%	5.9%	11.8%	41.2%	0.0%	47.1%	52.9%
どちらかという とあてはまる	47	12.8%	36.2%	17.0%	34.0%	0.0%	48.9%	51.1%
あまりあてはまらない	55	18.2%	20.0%	18.2%	43.6%	0.0%	38.2%	61.8%
あてはまらない	181	9.9%	9.9%	12.2%	68.0%	0.0%	19.9%	80.1%
わからない	198	15.7%	9.1%	12.1%	63.1%	0.0%	24.7%	75.3%

## (8) 世話に関する相談の状況

### ① 世話の頻度

世話に関する相談をしたことが「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ、世話の頻度について「週3～5日」、「週1～2日」の割合が高くなっている。

図表－105 世話をしている頻度

	調査数 (n)	ほぼ毎日	週3～5 日	週1～2 日	1か月に 数日	その他	無回答
「世話に関する相談」ある	91	44.0%	23.1%	18.7%	9.9%	4.4%	0.0%
「世話に関する相談」ない	407	48.4%	18.4%	17.2%	12.8%	3.2%	0.0%

### ② 世話による制約

世話に関する相談をしたことが「ある」と回答した場合、「ない」と回答した場合に比べ、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「自分の時間が取れない」の割合が高くなっている。

図表－106 世話をしているために、やりたいけれどできていないこと（複数回答）

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間がとれない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
「世話に関する相談」ある	91	4.4%	2.2%	13.2%	8.8%	8.8%	2.2%	0.0%	17.6%	3.3%	62.6%	0.0%
「世話に関する相談」ない	407	0.7%	0.5%	6.4%	6.4%	7.1%	1.7%	1.2%	10.1%	0.0%	81.6%	0.0%

## 第4章 中高生アンケート調査 自由意見

中高生アンケート調査において、さまざまな自由意見が寄せられた。ここでは、その一部を紹介する。以下に記載する意見は、原文のままではないが、なるべく回答者の表現を用いる形で記載している。

### (1) 話を聞いてほしい、理解してほしい

ヤングケアラーが日本にも大勢いることをもっと発信して、理解してもらい、ヤングケアラーを減らしたい。
やっぱり家族だから責任はあるとおもうけど、子供の時間も大切だと思う。だからもっと周りに頼った方がいいと思うし、頼る人がいない人なら誰かに相談して、ヤングケアラーという人の理解を高めた方がいいと思う。でも実際、自分の周りにはいないから、自分自身で何か行動できるわけではないので、ヤングケアラーの人の気持ちを理解してあげられない。子供の私には調べて、内容を軽く知ることしかできないけど、やっぱり大人が行動していくべきだと思った。
ヤングケアラーというのがあるとあらかじめ理解しておき、それに対する偏見などをなくしていく事が大切だと思います
ヤングケアラーの人から話を聞いて、その人が今どんなことをしてほしいと思っているのか一緒に考えること。
学校がそのような状況にある子を理解して話を聞いたり家と学校が両立できるように放課後に勉強できるようにするなど。
私たちの世代にもボランティアのようにお金をもらわずにお世話している人がいることを理解して行動していきたい。
ヤングケアラーの人がいたら話を聞く
制度で支援してあげることも大切だが、話を聞いてあげること(メンタルケア)もとっても大切なことだと思う。どうしても制度だけでは補えないところもあると思うので、メンタルケアとか出来る所からやっていくのが権利を守っていくことの第1歩になるのではないかなと思う。
相談できる相手となる大人と話せる機会をたくさん作る。
いつでも誰でも相談できたり、そういった仲間と集まったりできる場所があったら心に余裕ができるのではないかなと思ったことがある
友達がそういうことで辛いことがあったら相談にのってあげたいと思った。
大人に相談できる人がいること

### (2) 要望、求める支援(世話をしている家族がいると回答した生徒の意見)

ヤングケアラーだけでなく、学校での授業に集中出来なかったり、授業に出られないような人への支援。例えば、オンラインやメールでの授業や授業内容の確認などをもっと普及させて欲しいと思います。
まだ、未成年なのに家の人の世話をしたり、家事をしたり、そのようなことは、自分の時間がつくれず大変だと思います。支援したり少しでも負担が減らせる世の中になって欲しいと思います。

学校や介護施設の力を伸ばし幅広く対応できるようにする。ヤングケアラーという言葉もそんなに広まっていないのでこんな人がいるんだということが知れ渡るようにする。本当に頑張っていて欲しいです
自分のやりたい事が出来る時間と生活するためのお金の支給、ヤングケアラーの方たちの悩み等を聞ける人そして、その悩みを解決へ導くことのできる人が身近にいて欲しいと思った。とにかくヤングケアラーの方たちの心の負担を減らせる何かをしてあげたい
ヤングケアラーのための支援金を配布するなど生活が少しでも楽になるような支援をして欲しい
本人がやりたいことがあっても出来ないという状態は、良くないと思いますが、周りの大人たちが、過度に心配をして、それ以上のストレスなどを与えることが無いようにして欲しいと思います。
ヤングケアラーの支援だけでなく私のようなきょうだい児の支援もしてほしい。きょうだい児の大変さや辛さを理解してくれる人が増えて欲しい。

### (3) ヤングケアラーに必要なと思う支援

ヤングケアラーの個人の時間、安らげる時間を確保するために家政婦やヘルパー等を雇うことが出来る特別支援金などを出したら良いのかな、と思います。
ヤングケアラーの代わりになる、介護支援専門員などが必要だと思います。
病気の人や困ってる人を支える介護士などの仕事や取り組みを支援したり広める。
金銭的援助、精神的なケアの充実、学業における支援
自分の時間が設けられるように公的機関や地域のかたの協力のもと支援していくことが必要だと考える
まずはヤングケアラーである生徒を見つけること。その子が困っているか否かを大人や周りの人が一方的に決めるのではなく、本人の話を聞いて、支援が必要かどうか判断する。本人の意志を尊重し、善意だとしても意見は押し付けない。
保健所等の支援や補助金制度
経済面で、支援が必要な家族がもっと気軽に支援を受けられるように、面倒な手続きを簡略化したりするべきだと思う。また、支援を受けられる条件を今までよりも低く設定し、各家庭に合わせたプランを作るべき。
学生が家庭の事情で自分のやりたいことや勉強をおろそかにして自分の家族の面倒を見ることのないような支援制度をつくる事。
ヤングケアラーの無償で支援する団体を作る
介護施設や保育園などの受け入れ人数を増やしたり、そういった場所に働く人たちへの支援をしてほしい。
支援金を国から支給するなど、相談家庭事情などカウンセラーを設置してその家庭を支援したりする。
国からの支援費、障がいのある方でも働ける仕事場、差別や一人一人の権利を守る取り組みなど障がいのある方や、ヤングケアラーが必要な人達に寄り添うことが必要だと思います。
介助員の支援が欠かせないと思う。子どもが世話をしているということは、その子の両親などが家庭的な事情で介護することが困難だと思う。子どもの権利を守りつつ、介助が必要な人を助けるためには介助員が必要だと思う。
自治体、市町村で特別に対応が必要な家庭を把握し、定期的に訪問したり相談を受け付ける

<p>のが良いと思います。経済的支援やヘルパーさんなどをお願いするという方法も有効だと感じます。</p>
<p>「ヤングケアラー」という言葉を知らない人が多いため、学校などでもヤングケアラーについて学び、偏見や差別をしないように徹底して欲しい。ボランティア活動で、各家庭のお手伝いをするなどもう少し世間に浸透するようにして欲しい。ヤングケアラーの家庭への金銭的な支援(子ども食堂のような食料や、援助金など)をできるだけ素早く、対策して欲しい。</p>
<p>ケアをしてもらう対象の方は子どもにとって親などの家族にあたる人だと思うのでその間にどれほど親しく入りこめ、ケアをできる、させてもらえる大人が増えること。そういうことを自分から志願して行ってくれる人が増えることが支援につながるとおもった。</p>
<p>福利厚生、自治体が把握して支援すること</p>
<p>充実した介護設備が整っていれば効果的な支援ができると思います</p>
<p>金銭的な支援を行ったり、ヤングケアラーに信頼できる大人が定期的に話を聞く機会を設けたりすることが必要なのではないかと思います。</p>
<p>学業に負担がでないような支援を自治体がすすめるべきだし、そのためにはまず実態調査を行うべき。</p>
<p>ヤングケアラーに世話されている人が老人ホームなどの施設に入るための支援金を出すと良いと思います。また、ヤングケアラーの親戚などの周りの大人が気付き、手助けしてあげることが必要だと思います。</p>
<p>障がいを持つ家庭や、母子家庭、父子家庭への支援</p>
<p>身近な人たちに相談などをして理由をきちんと理解してもらった上で協力しながらヤングケアラーを支援することが大切だと思います。</p>
<p>ひとり親や障害のある人がいる家庭に給付金を配る、学校の授業料の免除など第三者が支援する</p>
<p>大人が行うべき仕事ができない場合は、自分が空いている時間などをみつけてやれば良いと思います。それでもダメだったら誰かに相談すれば良いと思います。</p>
<p>ヤングケアラーの人たちはきっと、ほとんどの人が学生だと思うので本人たちも友達と遊んだり、勉強をしたいと思っています。だから、学校のある時間などは介護士の方に来てもらってその人が、帰ってくるまで代わりにお世話をしてもらった方がヤングケアラーの人も楽だし、子供の権利が持てると思います。</p>
<p>大人、おじいさん、おばあさんを世話するのは、養護センターの人などに頼み、子供は、勉強優先にしたほうが良いと思う。</p>
<p>本来、大人がやるべきことならば 18 歳未満の子供にさせず、自分たちができることは自分たちがやって、時間がない時などに子供に少し手伝ってもらうなど工夫をすれば良いと思います。</p>
<p>学校ではせめてみんなと仲良くし、悩みを忘れさせられるような環境づくりをしていくこと、悩みを打ち解ける仲間を 1 人でも作ること、が大事だと思いました。</p>
<p>子供が相談できる機関をつくる。</p>
<p>障害や祖父のことも大切だと思うけど、自分の学業成績も大切だと思うので、介護をしてくれる施設に相談した方が、僕は良いと思いました。</p>
<p>先生に、生徒のことをもうちょっと気にかけて欲しいです。私のクラスにも、ヤングケアラーのような友達がありますが、先生に相談したことがバレると両親に叱られてしまうという理由で、なかなか相談できずにいます。自分から助けを求められない人もいるので、先生が気にかけて、気づいてあげて欲しいです。</p>

<p>ヤングケアラーの方達は私が知らないところで悩んだり、辛いと思っていると思うけれど、代わりにお世話をすることは私にはできないので、心のケアを、学校や地域で取り組み、1人で抱え込まないようにすることが大切だと思う。</p>
<p>子どもが子どもらしく生きるために、普通の大人がしっかりすればいいと思う。</p>

#### (4) ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと

<p>学校でアンケートを取って実態を調査したり、ヤングケアラーの相談に乗る。</p>
<p>その家庭に支援金を一ヶ月ごとに国から配布する。また、介護のために使っているか確認の調査をとる。</p>
<p>ヤングケアラーについてもっとよく知って理解を深めていく事が必要だと思う。</p>
<p>学校の先生など、ヤングケアラーの身近にいる大人達がヤングケアラーの内容を知り、すぐに気づいてあげることが重要だと思います。そのため、講演会を開き、ヤングケアラーという自分の権利が守られていない子供がいるということを知ってもらうべきだと私は考えます。</p>
<p>ヤングケアラーのことを多くの人に知ってもらうため、CMなどの広告でヤングケアラーのことを伝える</p>
<p>学校の先生方にヤングケアラーの人やその家族の状況を知ってもらう。そして、相談に乗ったり少しお手伝いをする必要があると思う。また、同世代の人たち(中高生)のヤングケアラーに対しての知識や理解が深まる活動があるといい。そうすると、それが原因のいじめなどが減ったり、ヤングケアラーの人達が過ごしやすい環境、学校生活ができると思う。</p>
<p>子ども、保護者等への啓発。言葉は聞いたことがあっても、実際にどのような制度があるのか知らないので、多くの人に知ってもらうために「人権いじめ相談」のチラシのように毎年、チラシを配布するのはどうでしょうか。</p>
<p>自分たちの知らないところで苦勞しているヤングケアラーの人がいることを多くの人に知ってもらう。そのためにこのようなアンケート調査や質問などで「ヤングケアラー」ということの説明をし、「ヤングケアラー」ということに関心を持ってもらう。そうすることで、少しでも悩みを持っている人たちの心の助けになると思った。自分の日常生活に支障がでるなら周りの人に相談するなどして悩みを和らげて欲しいと思った。</p>
<p>権利を守るためにヤングケアラーは今の少子高齢化が進む日本だと普通のことになる一方、その知名度がないと思われます。ヤングケアラーが増加することはもちろん及第点ですが、ヤングケアラーの普及率、知名度を上げて「普通のこと」と一般の人へ認知させることで、ヤングケアラーやその家族が生きていきやすい世の中になる、そのため「知名度を上げる」ことは必要であると考えています。</p>
<p>政府が生徒に意識啓発をする</p>
<p>こういうアンケート調査を定期的に行うこと。</p>
<p>ヤングケアラーについてもっと多くの人に知ってもらうために、講演会をしたりポスターを作ったりなどしたらいいと思います！</p>
<p>国や市町村の調査でヤングケアラーの把握支援金</p>
<p>状況についてを細かく把握できるようにするための調査を細かく行なっていくこと</p>

ヤングケアラーという言葉がまず世に広めるために各学校で講演会などを開いたりプリント配布などをしてまずその言葉と意味を知ってもらおう。そうすることで自分がその状況に当てはまっているかどうか気付くことができる機会が増えると思う

自分がヤングケアラーだと気づいていない人もいると思うし、ヤングケアラーだけど周りに打ち明けられずにいる人が多いと思う。だから、まずは自分がヤングケアラーで支援を受ける権利があることを知らせていくべきではないかと思う。

僕は本で「ヤングケアラー」について学んだことがあったけれど、その本を読むまでは聞いたこともなかったのでもっとヤングケアラーを取り上げた本や番組、講演などがあると思います。周りの人がヤングケアラーの人を助けてあげられるように、まずはヤングケアラーについて理解してもらうことが必要だと思うので……

ヤングケアラーという言葉が初めて聞いた。そして僕のようにこの言葉を初めて聞いたという人はかなり多いと思う。まずはこの言葉の認知度を高めていくことに注力していかなければいけない。具体的には多くの人が目を通す場所、インターネット内の広告などがある。僕はYouTubeをたくさん利用するので動画広告というものを毎日必ず見る。最近の子はこういったものをよく利用すると思うので使わない手はないのではなかろうか。

自分自身もヤングケアラーのことを知らず今回初めて知ったので、もっとヤングケアラーのことについて小中学生に理解してもらうことが必要だと考える。私以外の人もヤングケアラーについて理解している人は少ないと思う。学校で公演を開いたり様々なやり方でこのことを理解することが出来ると思う。周りにヤングケアラーがいたら、その人を支援する必要がある。自分の周りでヤングケアラーがいるかどうかは知らないし、自分の地域ではヤングケアラーを支援する活動をしているかもわからない。わからないということは支援があまりできていないことだと思うから、アンケートをとってヤングケアラーを支援していく必要がある。

私自身ヤングケアラーという言葉が初めて聞いたのでもっといろいろな人に知ってもらうために何かしたほうがいいと思いました。

私はヤングケアラーを知っていましたが、友達に知らないと言ってる人もいて驚きました。まずはこの言葉が多くの人に広まって欲しいなあと思います。

### Ⅲ. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート 調査結果

---

#### 第1章 学校調査 調査概要

(1) 調査対象

県内の公立小・中学校、特別支援学校、及び全日制高校等 789 校  
(有効回答数 750 校 回答率 95.1%)

(2) 回答方法

WEBにてアンケート調査

(3) 実施時期

令和3年8月30日から10月8日まで

(4) 回収状況

各学校種別での回収状況は以下のとおり。

図表-107 回収状況

	有効回答数
小学校	441
中学校、義務教育学校	183
高等学校（全日制）	74
高等学校（定時制）	10
高等学校（通信制）	3
中等教育学校	8
特別支援学校	31

## 第2章 学校アンケート調査 調査結果

### (1) 学校の概要

#### ① 回答者の役職

回答者の役職は、いずれにおいても「副校長・教頭」が最も高くなっている。

図表－108 回答者の役職

	調査数 (n)	校長	副校長・ 教頭	無回答
小学校	441	17.5%	82.5%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	9.3%	90.7%	0.0%
高等学校（全日制）	74	10.8%	89.2%	0.0%
高等学校（定時制）	10	10.0%	90.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	100.0%	0.0%
中等教育学校	8	12.5%	87.5%	0.0%
特別支援学校	31	9.7%	90.3%	0.0%

#### ② 学校の所在地

学校の所在地は、以下のとおり。

図表－109 学校の所在地

	調査数 (n)	下越地域	新潟地域	中越地域	魚沼地域	上越地域	佐渡地域	無回答
小学校	441	9.3%	26.8%	31.3%	10.9%	16.1%	5.7%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	12.0%	30.6%	30.6%	7.7%	12.0%	7.1%	0.0%
高等学校（全日制）	74	9.5%	29.7%	29.7%	10.8%	16.2%	4.1%	0.0%
高等学校（定時制）	10	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%
特別支援学校	31	9.7%	25.8%	29.0%	12.9%	19.4%	3.2%	0.0%

### ③ 学校規模

中学2年生の人数は、中学校、義務教育学校、中等教育学校では、「41～160人以下」が最も高くなっている。

高校2年生の人数は、高等学校（全日制）、高等学校（通信制）、中等教育学校では、「41～160人以下」が最も高くなっている。

図表－110 学校規模

#### 中学2年生

	調査数 (n)	40人以下	41～160 人以下	161～280 人以下	281～400 人以下	401人以 上	無回答
中学校、義務教育学校	183	34.4%	56.3%	8.7%	0.5%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	31	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### 高校2年生

	調査数 (n)	40人以下	41～160 人以下	161～280 人以下	281～400 人以下	401人以 上	無回答
高等学校（全日制）	74	10.8%	51.4%	31.1%	6.8%	0.0%	0.0%
高等学校（定時制）	10	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	31	93.5%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## (2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応

### ① スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）の配置・派遣状況

SSW の配置・派遣状況については、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校とも「要請に応じて派遣される」が最も高くなっている。

SC の配置・派遣状況については、高等学校（全日制）では「週に1回程度派遣・配置されている」が 85.1%と最も高く、中学校、義務教育学校では「月に数回以下で派遣・配置されている」が 87.4%と最も高くなっている。

図表－111 SSW の配置・派遣状況

	調査数 (n)	週に2～ 3回以上 派遣・配 置されて いる	週に1回 程度派 遣・配置 されてい る	月に数回 以下で派 遣・配置 されてい る	要請に応 じて派遣 される	その他	派遣・配 置されて いない	無回答
小学校	441	0.5%	2.7%	4.1%	63.5%	0.0%	29.3%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	0.5%	2.7%	7.1%	63.4%	0.0%	26.2%	0.0%
高等学校（全日制）	74	0.0%	1.4%	0.0%	71.6%	2.7%	24.3%	0.0%
高等学校（定時制）	10	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	0.0%	0.0%	12.5%	75.0%	0.0%	12.5%	0.0%
特別支援学校	31	0.0%	0.0%	0.0%	35.5%	0.0%	64.5%	0.0%

図表－112 SC の配置・派遣状況

	調査数 (n)	週に2～ 3回以上 派遣・配 置されて いる	週に1回 程度派 遣・配置 されてい る	月に数回 以下で派 遣・配置 されてい る	要請に応 じて派遣 される	その他	派遣・配 置されて いない	無回答
小学校	441	0.0%	5.7%	80.7%	2.9%	9.3%	1.4%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	0.0%	8.7%	87.4%	0.0%	2.7%	1.1%	0.0%
高等学校（全日制）	74	6.8%	85.1%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校（定時制）	10	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	0.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	31	0.0%	6.5%	74.2%	0.0%	19.4%	0.0%	0.0%

② 校内で共有している子どものケースの有無

校内で共有している子どものケースの有無について聞いたところ、いずれの学校でも「ある」が100.0%近くで最も高くなっている。

図表-113 校内で共有している子どものケースの有無

	調査数 (n)	ある	特に共有 している ケースは ない	無回答
小学校	441	96.8%	3.2%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	98.4%	1.6%	0.0%
高等学校（全日制）	74	97.3%	2.7%	0.0%
高等学校（定時制）	10	100.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	100.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	100.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	31	96.8%	3.2%	0.0%

### ③ 校内で共有している子どものケース

校内で共有している子どものケースについて聞いたところ、中学校、義務教育学校、高等学校（全日制）、特別支援学校ともに「学校を休みがちである」が最も高く、次いで、「精神的な不安定さがある」、「遅刻や早退が多い」、「保健室で過ごしていることが多い」が高くなっている。小学校では「学校を休みがちである」と「精神的に不安定さがある」が高くなっている。

図表－114 校内で共有している子どものケース（複数回答）

	小学校 (n=427)	中学校、 義務教育 学校 (n=180)	高等学校 (全日 制) (n=72)	高等学校 (定時 制) (n=10)	高等学校 (通信 制) (n=3)	中等教育 学校 (n=8)	特別支援 学校 (n=30)
学校を休みがちである	88.1%	98.9%	97.2%	100.0%	66.7%	100.0%	96.7%
遅刻や早退が多い	80.1%	84.4%	65.3%	90.0%	33.3%	100.0%	83.3%
保健室で過ごすことが多い	71.4%	82.2%	90.3%	90.0%	100.0%	100.0%	60.0%
精神的な不安定さがある	88.5%	93.3%	93.1%	100.0%	100.0%	100.0%	90.0%
身だしなみが整っていない	47.3%	52.8%	31.9%	40.0%	33.3%	62.5%	53.3%
学力が低下している	58.8%	53.3%	51.4%	30.0%	33.3%	75.0%	10.0%
宿題や持ち物の忘れ物が多い	53.2%	53.9%	27.8%	50.0%	33.3%	62.5%	33.3%
保護者の承諾の必要な書類等の提出が遅れることが多い	49.6%	49.4%	23.6%	40.0%	33.3%	62.5%	50.0%
学校に必要なものを用意してもらえない	35.4%	36.7%	16.7%	30.0%	0.0%	50.0%	36.7%
部活動を途中でやめてしまった	1.2%	62.8%	23.6%	30.0%	0.0%	75.0%	3.3%
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	16.2%	51.1%	34.7%	40.0%	0.0%	75.0%	26.7%
学校納付金が遅れる、未払い	52.5%	67.8%	40.3%	50.0%	66.7%	50.0%	50.0%
その他	3.7%	2.8%	1.4%	0.0%	0.0%	12.5%	10.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

#### ④ 情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについての情報共有・対応の検討体制について聞いたところ、中学校、義務教育学校では「不登校の子どもに関し、校内の分掌・委員会等で検討している」が64.4%と最も高くなっている。

また中学校、義務教育学校に比べると、高等学校（全日制）、特別支援学校では「個別に対応している（決まった検討体制はない）」の割合が高くなっている。

図表－115 情報共有・対応の検討体制

	調査数 (n)	不登校の 子どもの ケースに 関し、校 内の分 掌・委員 会等で検 討してい る	不登校以 外の子ど ものケー スに関 し、校内 の分掌・ 委員会等 で検討し ている	個別に対 応してい る（決 まった検 討体制は ない）	無回答
小学校	427	46.6%	45.7%	7.7%	0.0%
中学校、義務教育学校	180	64.4%	32.8%	2.8%	0.0%
高等学校（全日制）	72	52.8%	36.1%	11.1%	0.0%
高等学校（定時制）	10	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	30	20.0%	66.7%	13.3%	0.0%

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

## ⑤ 校内の検討体制

「不登校の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している」と回答した学校に、校内の情報共有・対応の検討体制について聞いた結果は以下のとおりである。

### i) 情報共有・対応の検討方法

小学校、特別支援学校では「ケース会議」がそれぞれ 91.1%、100.0%と最も高く、中学校、義務教育学校、高等学校（全日制）では「生徒指導部・委員会など」がそれぞれ 97.7%、84.4%と最も高くなっている。

図表－116 校内の情報共有・対応の検討方法（複数回答）

	調査数 (n)	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など	その他	無回答
小学校	394	58.1%	91.1%	67.8%	57.4%	39.1%	5.8%	0.0%
中学校、義務教育学校	175	53.1%	81.7%	97.7%	72.0%	44.6%	6.3%	0.0%
高等学校（全日制）	64	26.6%	57.8%	84.4%	53.1%	60.9%	9.4%	0.0%
高等学校（定時制）	7	42.9%	71.4%	71.4%	71.4%	42.9%	14.3%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	33.3%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	50.0%	87.5%	100.0%	75.0%	75.0%	12.5%	0.0%
特別支援学校	26	11.5%	100.0%	80.8%	76.9%	46.2%	11.5%	0.0%

※スクリーニング会議とは、すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議。Q-Uの実施、情報共有など。

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

ii) 会議に参加する教職員、会議の頻度

情報共有・対応の検討方法で、「スクリーニング会議」、「ケース会議」、「生徒指導部・委員会など」、「その他」と回答した学校に、それぞれの会議の参加者、頻度を聞いた結果は以下のとおりである。

図表－117 会議の参加者（複数回答）

		調査数 (n)	校長	副校長・ 教頭	学年主任	担任教諭	生徒指導 教諭	養護教諭	SSW	SC	外部の関 係機関	その他	無回答
スクリー ニング 会議	小学校	229	92.1%	93.4%	70.7%	97.4%	84.3%	87.8%	1.7%	3.5%	3.5%	18.3%	0.0%
	中学校、義務教育学校	93	91.4%	91.4%	94.6%	90.3%	83.9%	81.7%	2.2%	9.7%	2.2%	15.1%	0.0%
	高等学校（全日制）	17	58.8%	70.6%	88.2%	82.4%	41.2%	70.6%	0.0%	17.6%	0.0%	29.4%	0.0%
	特別支援学校	3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
ケ ー ス 会 議	小学校	359	92.5%	96.9%	60.4%	98.3%	83.8%	75.5%	8.9%	12.3%	15.6%	20.6%	0.0%
	中学校、義務教育学校	143	79.7%	96.5%	90.9%	96.5%	74.8%	63.6%	18.2%	20.3%	30.1%	10.5%	0.0%
	高等学校（全日制）	37	59.5%	91.9%	89.2%	89.2%	56.8%	94.6%	10.8%	21.6%	2.7%	29.7%	0.0%
	特別支援学校	26	26.9%	88.5%	80.8%	96.2%	46.2%	46.2%	3.8%	11.5%	53.8%	42.3%	0.0%
生徒指導部・ 委員会など	小学校	267	68.2%	74.9%	54.7%	89.9%	95.5%	70.8%	1.1%	4.1%	0.0%	13.1%	0.0%
	中学校、義務教育学校	171	64.9%	86.5%	63.7%	40.4%	97.7%	91.8%	2.9%	19.9%	2.3%	14.0%	0.0%
	高等学校（全日制）	54	48.1%	85.2%	77.8%	57.4%	83.3%	87.0%	0.0%	18.5%	0.0%	27.8%	0.0%
	特別支援学校	21	57.1%	66.7%	57.1%	71.4%	100.0%	66.7%	0.0%	9.5%	9.5%	19.0%	0.0%
そ の 他	小学校	23	87.0%	87.0%	56.5%	73.9%	69.6%	60.9%	0.0%	8.7%	13.0%	34.8%	0.0%
	中学校、義務教育学校	11	100.0%	100.0%	90.9%	18.2%	63.6%	72.7%	0.0%	9.1%	0.0%	45.5%	0.0%
	高等学校（全日制）	6	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%	83.3%	0.0%	33.3%	0.0%	83.3%	0.0%
	特別支援学校	3	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%

※回答数の少ないものは掲載していない。

図表－118 会議の頻度

		調査数 (n)	2週間に 1回以上	月に1回 程度	学期に1 回程度	半年に1 回程度	年に1回 程度	無回答
スクリー ニング 会議	小学校	229	5.7%	10.5%	50.7%	25.8%	7.4%	0.0%
	中学校、義務教育学校	93	9.7%	9.7%	44.1%	24.7%	11.8%	0.0%
	高等学校（全日制）	17	5.9%	11.8%	47.1%	17.6%	17.6%	0.0%
	特別支援学校	3	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
ケ ー ス 会 議	小学校	359	15.3%	56.5%	22.6%	4.7%	0.8%	0.0%
	中学校、義務教育学校	143	7.7%	39.9%	43.4%	7.0%	2.1%	0.0%
	高等学校（全日制）	37	16.2%	43.2%	21.6%	13.5%	5.4%	0.0%
	特別支援学校	26	15.4%	30.8%	46.2%	3.8%	3.8%	0.0%
生徒指導部・ 委員会など	小学校	267	17.2%	60.7%	20.2%	1.1%	0.7%	0.0%
	中学校、義務教育学校	171	95.3%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（全日制）	54	31.5%	63.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	特別支援学校	21	4.8%	81.0%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%
そ の 他	小学校	23	43.5%	39.1%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%
	中学校、義務教育学校	11	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（全日制）	6	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	特別支援学校	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答数の少ないものは掲載していない。

## ⑤ 個別対応の場合の情報共有・対応の検討方法など

個別対応の場合の情報共有、対応の検討方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

### 小学校

- ・ 事例の緊急性を鑑み、学級担任や関係職員などで臨時に集まり、情報を共有し、今後の対応策を協議している。
- ・ ケース会議（校長、教頭、生活指導主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、当事者の学級担任）
- ・ 不登校の有無に関わらず、校内の分掌・委員会等で検討している。必要に応じて外部関係機関と連携し、対応している。
- ・ 管理職や関係職員によるいじめ・不登校対策委員会、特支校内委員会を年度始め及び随時開催している。そのほか、月に1回程度職員全体での児童情報共有の会をもっている。

### 中学校、義務教育学校

- ・ 事案ごとに教頭または生徒指導主事または養護教諭がスクールカウンセラー（SC）との連携の必要性を吟味し、運営委員会（教師の代表者会）で図った後、SC に対応の依頼をする。経過を週に1回の運営委員会で協議することになっている。
- ・ 不登校であるなしにかかわらず、それぞれのケースが生じた場合、当該学年等からの情報をもとに管理職に報告がなされ、必要に応じて組織委員会を開いて対応を検討し、校長指導のもとで当該学年等が対応を行う。

### 高等学校（全日制）

- ・ 職員朝会、職員会議等で情報共有する。また、担任会（週に1回実施）や企画会議においても情報共有する。ケースによってはスクールカウンセラーにも情報を提供し、検討していく。
- ・ 週に一度の学年会でクラスの様子を周知、同時に管理職へ報告。管理職の判断で SC、スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、ケース会議を開催

### 高等学校（定時制）

- ・ 必要に応じて、管理職と所属年次を中心に支援の方法等を検討し、その後全教職員で情報共有した上で対応している。

### 特別支援学校

- ・ 管理職、教務主任、学部主事、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、寄宿舎関係職員、養護教諭などが2週間に1回集まる場において、いじめや問題行動も含め、心配な幼児児童生徒をあげ、情報共有する場を設けている。

## ⑥ 外部との情報共有・対応の検討体制

校内で共有している子どものケースについて学校以外の関係機関と連携する体制があるかどうか、また体制がある場合、連携する関係機関について聞いたところ、結果は以下のとおりである。

体制の有無では、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース以外のケース」については、特別支援学校では「ある」の割合が高く、「不登校、欠席が多いケース」については、中学校、義務教育学校では「ある」の割合が高くなっている。

高等学校（全日制）では「ない」の割合が高くなっている。

図表－119 体制の有無

		調査数 (n)	ある	ない	無回答
地域協議会 の登録 ケース	小学校	427	60.2%	39.8%	0.0%
	中学校、義務教育学校	180	62.8%	37.2%	0.0%
	高等学校（全日制）	72	48.6%	51.4%	0.0%
	高等学校（定時制）	10	80.0%	20.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	100.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	8	62.5%	37.5%	0.0%
	特別支援学校	30	86.7%	13.3%	0.0%
地域協議会 の登録 ケース以外 の登録 ケース	小学校	427	72.1%	27.9%	0.0%
	中学校、義務教育学校	180	71.1%	28.9%	0.0%
	高等学校（全日制）	72	66.7%	33.3%	0.0%
	高等学校（定時制）	10	80.0%	20.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	100.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	8	75.0%	25.0%	0.0%
	特別支援学校	30	83.3%	16.7%	0.0%
不登校、 欠席が 多い ケース	小学校	427	85.2%	14.8%	0.0%
	中学校、義務教育学校	180	90.6%	9.4%	0.0%
	高等学校（全日制）	72	37.5%	62.5%	0.0%
	高等学校（定時制）	10	50.0%	50.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	33.3%	66.7%	0.0%
	中等教育学校	8	87.5%	12.5%	0.0%
	特別支援学校	30	83.3%	16.7%	0.0%

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

連携する関係機関では、「要保護児童対策地域協議会の登録ケース」については、小学校、特別支援学校では「市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門」の割合が最も高く、中学校、義務教育学校では「県市区町村教育委員会」の割合が最も高く、高等学校（全日制）では「児童相談所」の割合が最も高くなっている。

「要保護児童対策地域協議会の登録ケース以外のケース」については、小学校、高等学校（全日制）では「児童相談所」の割合が最も高く、中学校、義務教育学校では「県市区町村教育委員会」の割合が最も高く、特別支援学校では「市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く」の割合が最も高くなっている。

「不登校、欠席が多いケース」については、小学校では「県市区町村教育委員会」の割合が最も高く、中学校、義務教育学校では「県市区町村教育委員会」と「教育支援センター（適応指導教室）」の割合が最も高く、高等学校（全日制）では「県市区町村教育委員会」と「病院」の割合が最も高く、特別支援学校では「市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門」の割合が最も高くなっている。

図表－120 関係機関（複数回答）

		調査数 (n)	県市区町村教育委員会	市区町村名の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く）	市区町村名の保健部門	市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	教育支援センター（適応指導教室）	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
地域協議会の登録ケース	小学校	257	63.4%	47.1%	20.6%	67.7%	19.1%	2.3%
	中学校、義務教育学校	113	72.6%	53.1%	26.5%	62.8%	25.7%	3.5%
	高等学校（全日制）	35	34.3%	37.1%	8.6%	31.4%	2.9%	0.0%
	高等学校（定時制）	8	25.0%	62.5%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	5	80.0%	40.0%	40.0%	60.0%	40.0%	20.0%
	特別支援学校	26	26.9%	57.7%	42.3%	80.8%	7.7%	3.8%
地域協議会以外の登録ケース	小学校	308	70.8%	50.0%	22.4%	35.7%	21.4%	2.3%
	中学校、義務教育学校	128	77.3%	43.8%	22.7%	32.8%	19.5%	2.3%
	高等学校（全日制）	48	29.2%	31.3%	6.3%	16.7%	4.2%	0.0%
	高等学校（定時制）	8	50.0%	62.5%	12.5%	25.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	6	83.3%	50.0%	33.3%	66.7%	33.3%	16.7%
	特別支援学校	25	24.0%	80.0%	44.0%	48.0%	8.0%	4.0%
不登校、欠席が多いケース	小学校	364	81.9%	23.1%	11.3%	11.5%	63.7%	6.3%
	中学校、義務教育学校	163	78.5%	22.1%	14.1%	9.8%	78.5%	12.9%
	高等学校（全日制）	27	44.4%	18.5%	3.7%	7.4%	0.0%	3.7%
	高等学校（定時制）	5	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	7	85.7%	28.6%	42.9%	42.9%	71.4%	28.6%
	特別支援学校	25	28.0%	68.0%	36.0%	16.0%	8.0%	4.0%

		調査数 (n)	児童相談 所	民生委員	病院	警察や刑 事司法関 係機関	その他	無回答
地域協 議会の 登録 ケース 要保護 児童対 策	小学校	257	51.8%	26.5%	8.9%	7.4%	0.4%	0.0%
	中学校、義務教育学校	113	38.9%	21.2%	4.4%	9.7%	0.9%	0.0%
	高等学校（全日制）	35	48.6%	5.7%	8.6%	2.9%	0.0%	0.0%
	高等学校（定時制）	8	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	5	80.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	特別支援学校	26	61.5%	15.4%	23.1%	15.4%	3.8%	0.0%
地域協 議会 以外 の 登録 ケース 要保護 児童対 策	小学校	308	72.1%	33.1%	9.1%	20.5%	1.6%	0.0%
	中学校、義務教育学校	128	68.0%	31.3%	7.8%	35.2%	0.0%	0.0%
	高等学校（全日制）	48	64.6%	4.2%	6.3%	31.3%	0.0%	0.0%
	高等学校（定時制）	8	87.5%	12.5%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	3	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	6	83.3%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	特別支援学校	25	76.0%	8.0%	32.0%	28.0%	12.0%	0.0%
不登校 、 欠席 が 登録 ケース	小学校	364	14.3%	12.4%	16.5%	1.9%	2.7%	0.0%
	中学校、義務教育学校	163	12.9%	16.0%	21.5%	4.3%	1.2%	0.0%
	高等学校（全日制）	27	14.8%	3.7%	44.4%	0.0%	3.7%	0.0%
	高等学校（定時制）	5	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	高等学校（通信制）	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中等教育学校	7	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
	特別支援学校	25	20.0%	8.0%	56.0%	4.0%	12.0%	0.0%

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

### (3) ヤングケアラーについて

#### ① 「ヤングケアラー」の概念の認識

「ヤングケアラー」の概念の認識について聞いたところ、いずれの学校でも「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が最も高く、次いで、「言葉を知っており、学校として特別な対応をしている」が高くなっている。

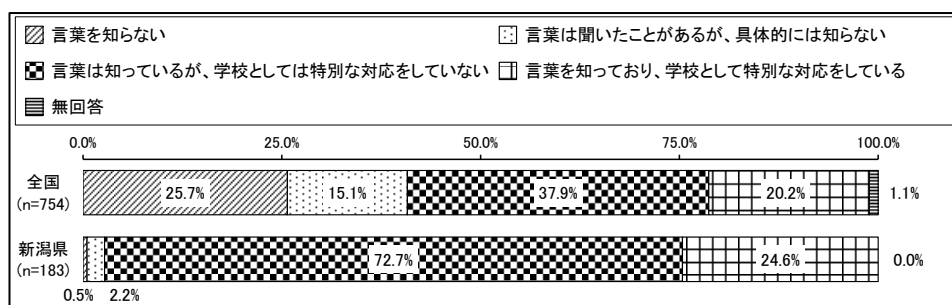
図表-121 「ヤングケアラー」の概念の認識

	調査数 (n)	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として特別な対応をしている	無回答
小学校	441	1.4%	3.2%	74.6%	20.9%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	0.5%	2.2%	72.7%	24.6%	0.0%
高等学校（全日制）	74	0.0%	1.4%	82.4%	16.2%	0.0%
高等学校（定時制）	10	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	8	0.0%	0.0%	87.5%	12.5%	0.0%
特別支援学校	31	3.2%	3.2%	71.0%	22.6%	0.0%

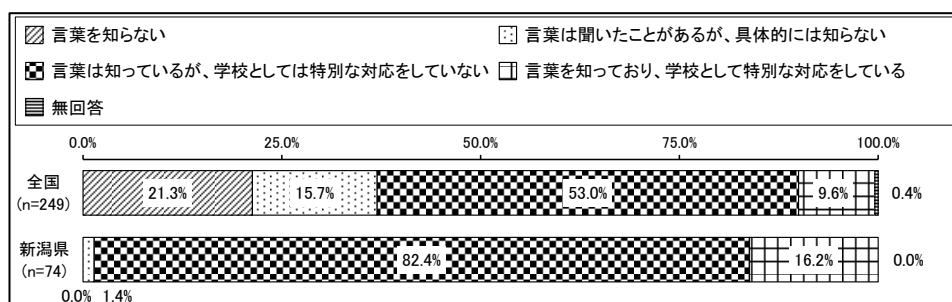
※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

「ヤングケアラー」の概念の認識について、「言葉を知っており、学校として特別な対応をしている」と「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」を合わせた『言葉を知っている』の割合は、中学校では 97.3%と、全国に比べると 39.2 ポイント（全国 58.1%）高く、高等学校（全日制）では 98.6%と、36.0 ポイント（全国 62.6%）高くなっている。

#### 中学校、義務教育学校



#### 高等学校（全日制）



## ② 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として意識して特別な対応している」と回答した学校に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、「把握に努めている」は中学校、義務教育学校で80.0%と最も高くなっている。

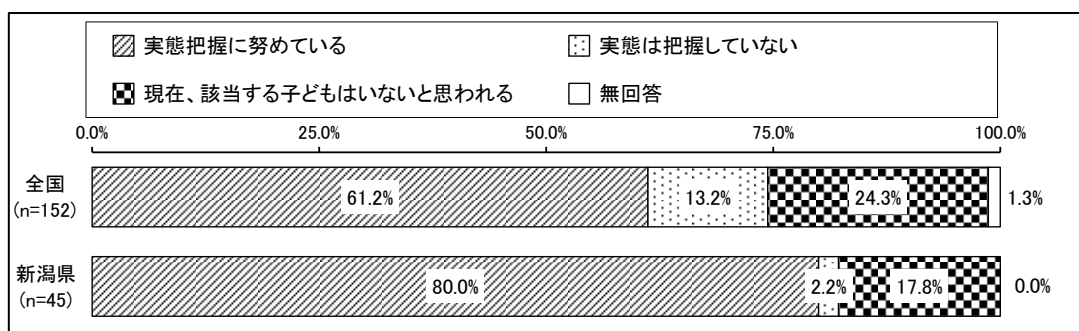
図表-122 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

	調査数 (n)	把握に努 めている	「ヤング ケア ラー」と 思われる 子どもは いるが、 その実態 は把握し ていない	現在、該 当する子 どもはい ないと思 われる	無回答
小学校	92	63.0%	3.3%	33.7%	0.0%
中学校、義務教育学校	45	80.0%	2.2%	17.8%	0.0%
高等学校（全日制）	12	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
高等学校（定時制）	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
特別支援学校	7	57.1%	0.0%	42.9%	0.0%

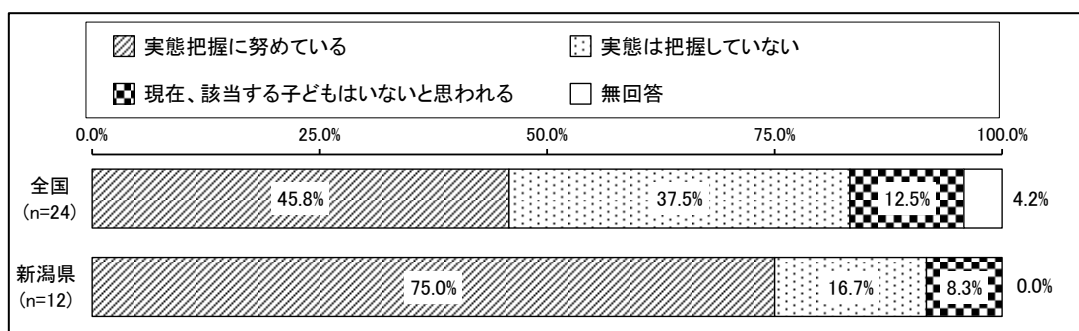
※高等学校（全日制）、高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校、特別支援学校は回答数が少ないため参考値。

子どもの実態把握の状況について、「実態把握に努めている」の割合は、中学校、義務教育学校では80.0%と、全国に比べると18.8ポイント（全国61.2%）高く、高等学校（全日制）では75.0%と、29.2ポイント（全国45.8%）高くなっている。

### 中学校、義務教育学校



### 高等学校（全日制）



### ③ 「ヤングケアラー」の把握方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した学校に、把握方法について聞いたところ、『特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している』が小学校で 93.1%、中学校、義務教育学校で 91.7%と最も高くなっている。

図表-123 「ヤングケアラー」の実態把握の方法（複数回答）

	調査数 (n)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	その他	無回答
小学校	58	3.4%	93.1%	6.9%	0.0%
中学校、義務教育学校	36	2.8%	91.7%	5.6%	0.0%
高等学校（全日制）	9	11.1%	77.8%	11.1%	0.0%
高等学校（定時制）	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
高等学校（通信制）	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	4	25.0%	100.0%	50.0%	0.0%

※高等学校（全日制）、高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校、特別支援学校は回答数が少ないため参考値。

#### ④ 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が中学校、義務教育学校で28.4%と最も高くなっている。

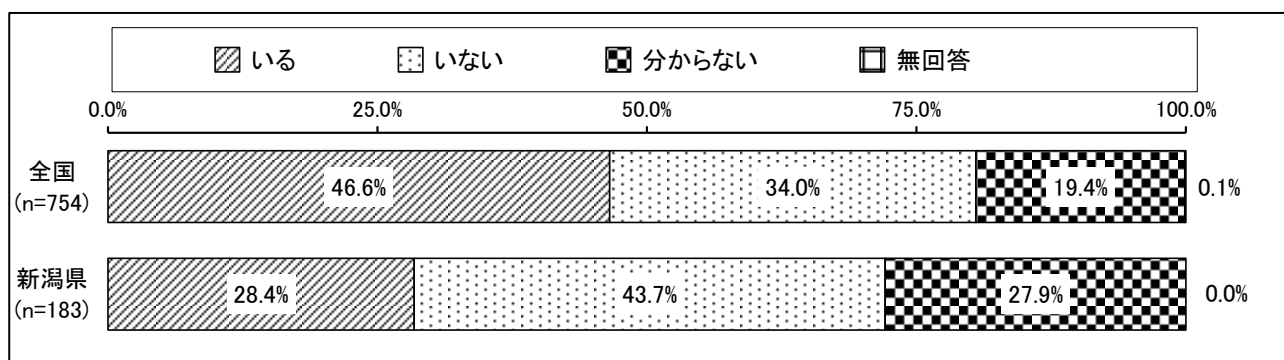
図表-124 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

	調査数 (n)	いる	いない	分から ない	無回答
小学校	441	10.4%	66.9%	22.7%	0.0%
中学校、義務教育学校	183	28.4%	43.7%	27.9%	0.0%
高等学校（全日制）	74	20.3%	18.9%	60.8%	0.0%
高等学校（定時制）	10	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
高等学校（通信制）	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
中等教育学校	8	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%
特別支援学校	31	22.6%	67.7%	9.7%	0.0%

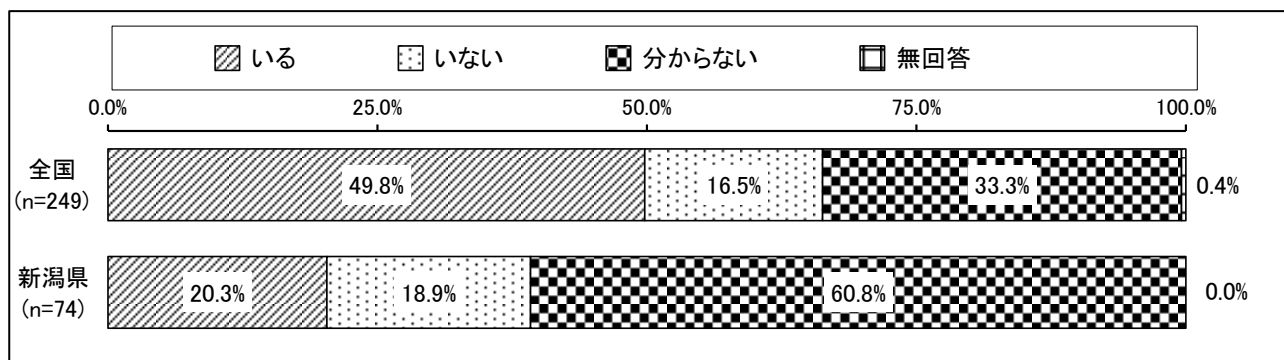
※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

該当すると思われる子どもの有無について、「いる」の割合は、中学校、義務教育学校では28.4%と、全国に比べると18.2ポイント（全国46.6%）低く、高等学校（全日制）では20.3%と、29.5ポイント（全国49.8%）低くなっている。

#### 中学校、義務教育学校



#### 高等学校（全日制）



「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として特別な対応をしている」と回答した学校においても、ヤングケアラーが「いる」という回答が約3割ある。

図表-125 【参考】「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーの有無

	調査数 (n)	いる	いない	分からない	無回答
言葉を知らない	8	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%
言葉は聞いたことがあるが、 具体的には知らない	20	0.0%	70.0%	30.0%	0.0%
言葉は知っているが、学校として は特別な対応をしていない	563	14.0%	54.0%	32.0%	0.0%
言葉を知っており、学校として 特別な対応をしている	159	30.2%	57.9%	11.9%	0.0%

## ⑤ ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は以下のとおりである。

### i) ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、小学校、中学校、義務教育学校では「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」（小学校 69.6%、中学校、義務教育学校 65.4%）が最も高くなっている。

図表-126 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

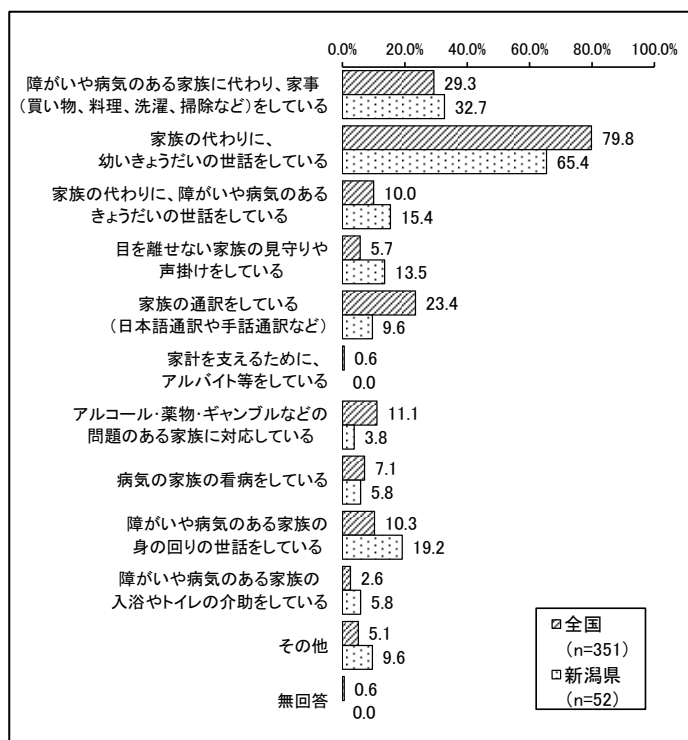
	小学校 (n=46)	中学校、 義務教育 学校 (n=52)	高等学校 (全日 制) (n=15)	高等学校 (定時 制) (n=5)	高等学校 (通信 制) (n=1)	中等教育 学校 (n=3)	特別支援 学校 (n=7)
障がいや病気のある家族に 代わり、家事（買い物、料理、 洗濯、掃除など）をしている	28.3%	32.7%	53.3%	60.0%	0.0%	66.7%	57.1%
家族の代わりに、幼いきょう だいの世話をしている	69.6%	65.4%	46.7%	100.0%	0.0%	66.7%	71.4%
家族の代わりに、障がいや 病気のあるきょうだいの世話を している	15.2%	15.4%	20.0%	20.0%	0.0%	33.3%	0.0%
目を離せない家族の見守りや 声掛けをしている	8.7%	13.5%	20.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
家族の通訳をしている（日本語 通訳や手話通訳など）	8.7%	9.6%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家計を支えるために、 アルバイト等をしている	0.0%	0.0%	46.7%	80.0%	100.0%	0.0%	0.0%
アルコール・薬物・ギャンブル などの問題のある家族に対応し ている	0.0%	3.8%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
病気の家族の看病をしている	4.3%	5.8%	20.0%	40.0%	0.0%	33.3%	0.0%
障がいや病気のある家族の 身の回りの世話をしている	8.7%	19.2%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障がいや病気のある家族の 入浴やトイレの介助をしている	2.2%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	8.7%	9.6%	6.7%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※高等学校（全日制）、高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校、特別支援学校は回答数が少ないため参考値。

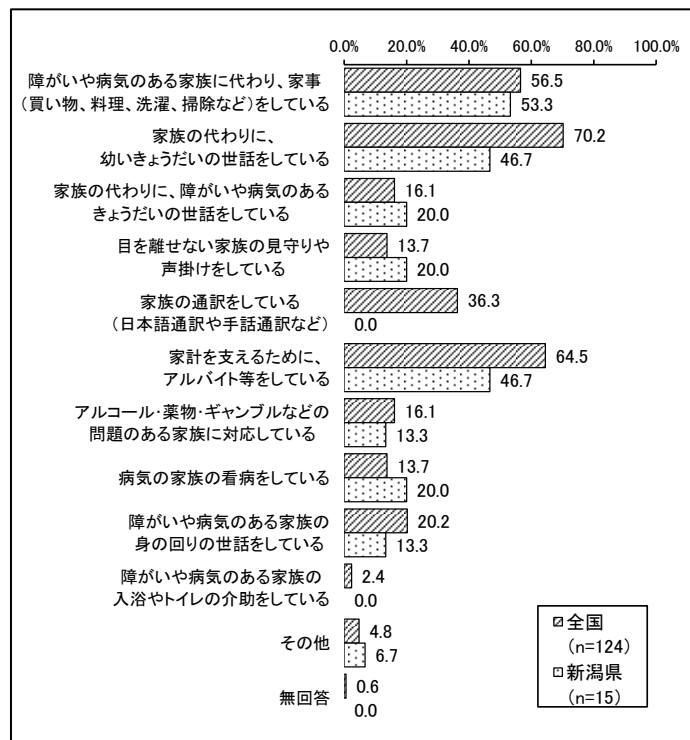
ヤングケアラーと思われる子どもの状況について、「障害や病気のある家族に代わり、家事をしている」との回答割合が、中学校、義務教育学校では3割強、高等学校（全日制）では5割強、全国と同様の傾向となっている。

全国に比べると、「家族の代わりに幼いきょうだいの世話をしている」、「家族の通訳をしている（日本語通訳や手話通訳など）」、「アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している」などの割合が低く、「家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている」、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」、「目を離せない家族の見守りや声掛けをしている」などの割合は高くなっている。

中学校、義務教育学校



高等学校（全日制）



「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、学校として特別な対応している」と回答した学校の方が、子どもの状況が「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」という割合が高くなっている。

図表－127 【参考】「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーと思われる子どもの状況  
(上位5位)

	調査数 (n)	障がいや病気のあ る家族に 代わり、 家事(買 い物、料 理、洗 濯、掃除 など)を している	家族の代 わりに、 幼いきよ うだいの 世話をし ている	家族の代 わりに、 障がいや 病気のあ るきょう だいの世 話をし ている	目を離せ ない家族 の見守り や声掛け をしてい る	家族の通 訳をして いる(日 本語通訳 や手話通 訳など)
言葉を知らない	2	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
言葉は聞いたことがあるが、 具体的には知らない	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
言葉は知っているが、学校とし ては特別な対応をしていない	79	35.4%	64.6%	15.2%	11.4%	7.6%
言葉を知っており、学校とし て特別な対応をしている	48	37.5%	68.8%	14.6%	12.5%	8.3%

ii) 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部の支援につないだケースがあるかきいたところ、中学校、義務教育学校では、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケースがある」が36.5%と最も高くなっている。

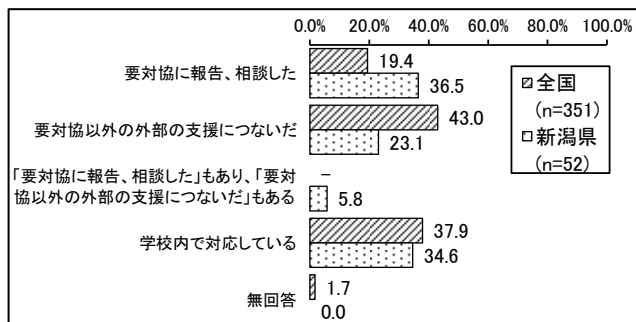
図表－128 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

	調査数 (n)	要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケースがある	要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ	「要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」もある	外部の支援につないでいない（学校内で対応している）	無回答
小学校	46	30.4%	23.9%	2.2%	43.5%	0.0%
中学校、義務教育学校	52	36.5%	23.1%	5.8%	34.6%	0.0%
高等学校（全日制）	15	40.0%	6.7%	0.0%	53.3%	0.0%
高等学校（定時制）	5	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%
高等学校（通信制）	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	3	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
特別支援学校	7	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%

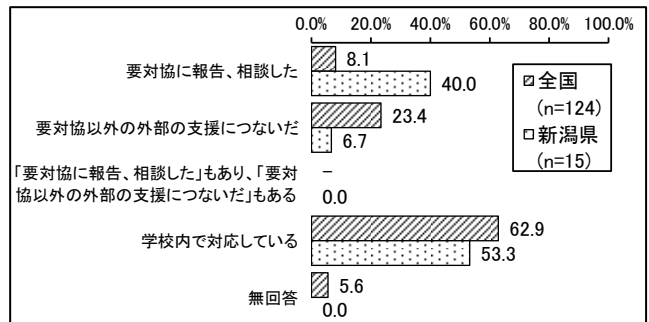
※高等学校（全日制）、高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

ヤングケアラーと思われる子どもを「市町村要対協につないだ割合」は、中学校、義務教育学校では36.5%と、全国に比べると17.1ポイント（全国19.4%）高く、高等学校（全日制）では40.0%と、31.9ポイント（全国8.1%）高くなっている。

中学校、義務教育学校



高等学校（全日制）



図表－129 つないだ関係機関（複数回答）

	調査数 (n)	県市区町村 教育委員会	市区町村 名の福祉 部門（要 保護児童 対策地域 協議会の 調整機関 /虐待対 応部門を 除く）	市区町村 名の保健 部門	市区町村 名の要保 護児童対 策地域協 議会の調 整機関/ 虐待対 応部門	教育支援 センター （適応指 導教室）	フリース クール・ 子ども食 堂などの 民間団 体・施設	児童相談 所	病院	警察や刑 事司法関 係機関	その他	無回答
小学校	12	58.3%	66.7%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	50.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%
中学校、義務教育学校	15	60.0%	46.7%	13.3%	20.0%	20.0%	0.0%	26.7%	0.0%	6.7%	13.3%	0.0%
高等学校（全日制）	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高等学校（定時制）	1	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
高等学校（通信制）	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

### iii) 外部の支援につながらなかったケースについて

外部の支援につながらなかったケースについて、つながらなかった理由と対応方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

#### つながらなかった理由

- ・ ヤングケアラーの可能性のある段階で、実態を把握中。
- ・ まだ疑いの段階であり、本人の学校生活に影響が出ている状況にないため。
- ・ 家族で対応できているので。
- ・ 本人からの困り感や悩み相談がない。
- ・ 原因が明確であり、その原因が保護者に有ったため。
- ・ 保護者から面談の中で要望された。
- ・ 状況として緊急性はないものと判断した。
- ・ 本人・保護者が外部の支援を希望しなかったため。 など

#### 対応方法

- ・ 本人の様子を担当がよく観察して、生徒指導主事に伝えている。
- ・ 保護者と連絡を密に取っていく。
- ・ 今後必要であれば、教育委員会に相談する。
- ・ スクールカウンセラー（SC）との面談を通して実態把握に努めている
- ・ 関係機関でケース会議を行い、情報共有等に努めている。
- ・ SC、教育委員会、警察、民生委員・児童委員などと連携して対応している。 など

#### iv) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

##### <本人の状況の把握>

- ・ 生徒の様子の観察
- ・ 教育相談や毎日の生活ノートからの情報収集。
- ・ 子どもの状況の把握。特に服装など外見に気を配っている。変化がみられたら、状況把握し、聞き取りを行っている。
- ・ 面談を通して家庭の状況の把握に努め、情報は共有し、見守りを行う。
- ・ 週2回の職員集会で児童の情報交換を行う他、スクールカウンセラーによる全児童を対象としたカウンセリングを実施している。 など

##### <保護者との連絡>

- ・ 時間割に組み込まれている週1回の生徒指導部会における情報共有や、保護者へのメール配信の既読状況の確認等。
- ・ できるだけ、保護者に子どもの様子を伝えていく。
- ・ 関係機関との連携、日常の教育相談、定期的な家庭連絡と家庭訪問。 など

##### <校内での連携体制>

- ・ 学級担任が抱え込まないよう、学年部で対応
- ・ 教育相談の充実、見守りの強化、職員間の情報共有等
- ・ 生徒への定期的なアンケートや教育相談の実施及び生徒の様子を全職員で共有すること。
- ・ 毎日、生徒情報を校務支援システムを活用し全職員で共有している。 など

##### <外部との連携体制>

- ・ ヤングケアラーについて学ぶ職員研修の実施。
- ・ 子ども一人ひとりの生活や家庭の様子の把握，市教委や児童相談員との情報交換等を定期的に行う。
- ・ 学校だけでは対応しきれないこと、家庭生活に大きく関わることから、行政との連携を密にしている。
- ・ 要保護児童対策地域協議会との情報共有。 など

#### v) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

##### <家庭状況の把握の難しさ>

- ・ 家庭によっては、子どもに頼らざるをえないところがある。学校が、そこに介入することは難しい。
- ・ 学校としては、家庭への支援には限界があること。
- ・ 家庭の中まで見えない場合がある。新型コロナウイルス感染拡大の時期は、更に見えにくい。
- ・ 生徒の私生活にどこまで学校として踏み込むべきか判断が難しい。 など

##### <保護者の理解が得にくい>

- ・ 家庭の経済状況や保護者の就労状況等が原因となっている場合、保護者の協力や理解が得にくいこと
- ・ 支援を該当者が望んでいない場合がある。 など

##### <子供本人の自覚がない>

- ・ ヤングケアラーであることを本人または保護者自身が認識していない
- ・ 生徒自身が家庭内のことを口にすることを遠慮する、又は好まないために把握が難しく、気づきが遅れる、又は気付かないことがあるのではないかと思う。 など

##### <対応の時間が十分にとれない>

- ・ 状況を把握しても、改善させられる効果的な支援を学校としてできることが何もない。何かをしようとしても、働き方改革を実現するにあたり、ヤングケアラーの解決は新たな業務となるため、時間外勤務削減の支障となる。学校以外の機関においても状況は同じであるため、必要経費の確保と解決のための人材育成（確保）が必要と考える。 など

## vi) ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について、意見や変更・追加項目を聞いたところ、以下のような回答があった。

### <参考：チェック項目案>

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 学校を休みがちである      | <input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い |
| <input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い        | <input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない         |
| <input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い | <input type="checkbox"/> 部活を途中でやめてしまった              |
| <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある     | <input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する            |
| <input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない    | <input type="checkbox"/> 校納金が遅れる、未払い                |
| <input type="checkbox"/> 学力が低下している       |   |
| <input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い   |   |

### 全体に関する意見

- ・ ヤングケアラーの因子としては妥当と考えるが、他の要因（いじめ・しつけ不足等）も大きいように思える。
- ・ ヤングケアラーであると仮定すれば起きる現象が挙げられてはいるが、チェックするための項目としては不十分ではないか。
- ・ 学力が低下している、は問題がこれだけではないのでチェックしづらい。
- ・ チェックした項目やその数だけでは判断ができない。面談が必要であると思われる。

### 変更項目案

- ・ 実際に家庭でどう過ごしているかわかる項目がなければヤングケアラーの判断は難しいと考える。
- ・ 家にいる時の時間の使い方をアンケート等で調べる。
- ・ チェックがついた生徒には、面談を検討する。

### 追加項目案

#### <本人の状況>

- ・ 家の都合を理由に友達とのかかわりを持たない、があるとよい。
- ・ 「欠食が目立つ」「毎日同じ服を着ている」など、明らかに親が手をかけていない様子が明らかになる項目を追加する。
- ・ 進路変更をした（せざるを得なくなった）。
- ・ 「授業中の居眠り」、「集中力の低下」を追加するのはどうか。
- ・ 病中・病後の家族がいる。
- ・ 睡眠の乱れがある。または睡眠が足りていない。
- ・ 朝食を食べてこない（いつもお腹が空いている）。

- ・ 日常の疲れ感を訴える。を追記
- ・ 選択肢に「本人に必要な医療が受けられない」を追加など

#### <保護者の状況>

- ・ 保護者との連絡がつきにくい
- ・ 家庭環境調査票に保護者が記述できるようにしたり、保護者面談で配慮しながら聞いてみる。 など

## ⑥ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由を聞いたところ、いずれの学校でも「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が最も高く、次いで、『ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない』となっている。

図表－130 ヤングケアラーがいるか分からない理由（複数回答）

	調査数 (n)	学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	不登校やいじめなどに比べ緊急度が低くないと捉え、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
小学校	100	19.0%	7.0%	94.0%	37.0%	6.0%	0.0%
中学校、義務教育学校	51	15.7%	11.8%	96.1%	33.3%	0.0%	0.0%
高等学校（全日制）	45	15.6%	17.8%	93.3%	15.6%	2.2%	0.0%
高等学校（定時制）	5	40.0%	0.0%	100.0%	60.0%	0.0%	0.0%
高等学校（通信制）	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中等教育学校	2	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
特別支援学校	3	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%

※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校、特別支援学校は回答数が少ないため参考値。

## ⑦ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを聞いたところ、「教職員がヤングケアラーについて知ること」<小学校 93.4%、中学校、義務教育学校 87.4%、高等学校（全日制）85.1%>が最も高く、次いで、「子どもが教職員に相談しやすい関係をつくること」、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が高くなっている。

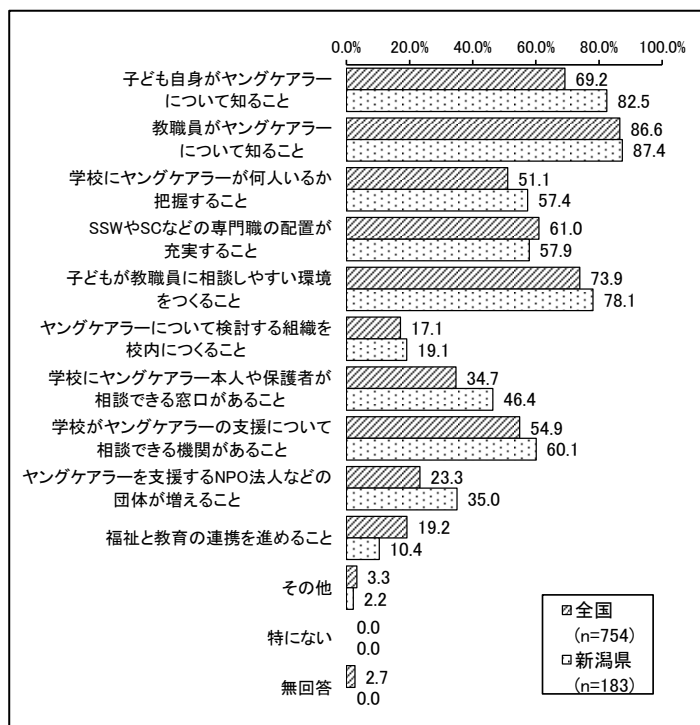
図表-131 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

	小学校 (n=441)	中学校、 義務教育 学校 (n=183)	高等学校 (全日 制) (n=74)	高等学校 (定時 制) (n=10)	高等学校 (通信 制) (n=3)	中等教育 学校 (n=8)	特別支援 学校 (n=31)
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	72.6%	82.5%	83.8%	90.0%	66.7%	87.5%	61.3%
教職員がヤングケアラーについて知ること	93.4%	87.4%	85.1%	90.0%	66.7%	100.0%	96.8%
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	69.2%	57.4%	58.1%	70.0%	66.7%	87.5%	51.6%
SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	61.9%	57.9%	55.4%	50.0%	33.3%	50.0%	35.5%
子どもが教職員に相談しやすい環境をつくること	85.3%	78.1%	85.1%	90.0%	100.0%	100.0%	87.1%
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	25.9%	19.1%	23.0%	0.0%	0.0%	12.5%	16.1%
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	51.2%	46.4%	44.6%	30.0%	33.3%	62.5%	45.2%
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	65.3%	60.1%	56.8%	50.0%	33.3%	87.5%	74.2%
ヤングケアラーを支援するNPO法人などの団体が増えること	31.5%	35.0%	27.0%	60.0%	0.0%	25.0%	38.7%
福祉と教育の連携を進めること	8.8%	10.4%	10.8%	20.0%	33.3%	12.5%	25.8%
その他	1.8%	2.2%	2.7%	0.0%	0.0%	12.5%	3.2%
特になし	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

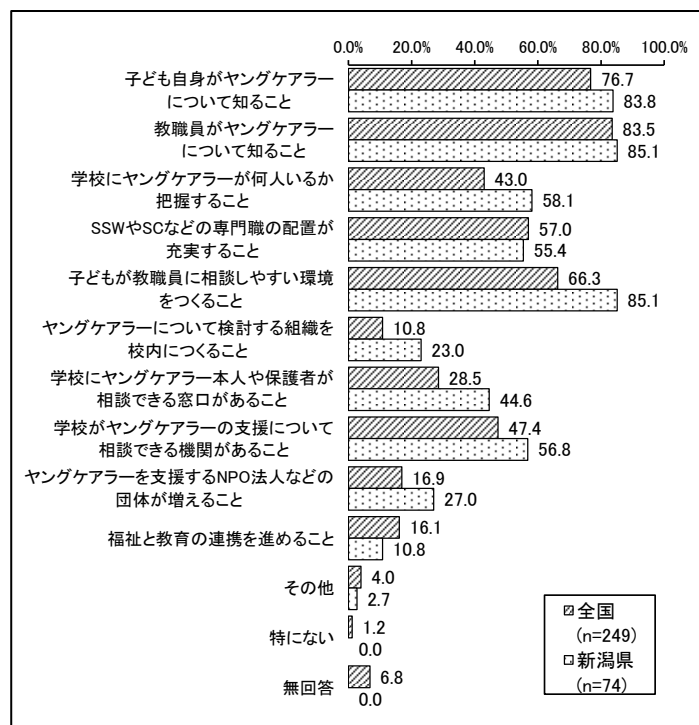
※高等学校（定時制）、高等学校（通信制）、中等教育学校は回答数が少ないため参考値。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについては、全国同様に「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」、「教職員がヤングケアラーについて知ること」、「子どもが教職員に相談しやすい環境をつくること」などの回答割合が高くなっている。

中学校、義務教育学校



高等学校（全日制）



#### (4) 個別の事例

ヤングケアラーと思われる子どもについて、これまでに学校以外の関係機関の支援につないだケースがある（選択肢は以下の①から③のとおり）と回答した学校に直近のケースを1件ずつ聞いたところ、結果は以下のとおりである。

- ① 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケースがある
- ② 要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある
- ③ 「要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」もある

#### ① 性別

①、③のケース及び②、③のケースともに、「女性」の割合が高くなっている。

図表－132 性別

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=49)	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=32)
女性	79.6%	56.3%
男性	20.4%	43.8%
その他	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%

#### ②学校生活の状況

①、③のケースでは「精神的な不安定さがある」の割合が最も高く、次いで「学校を休みがちである」の割合が高くなっている。②、③のケースでは「学校を休みがちである」の割合が最も高く、次いで「精神的に不安定さがある」の割合が高くなっている。

図表－133 学校生活の状況（複数回答）

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=49)	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=32)
学校を休みがちである	38.8%	43.8%
遅刻や早退が多い	30.6%	28.1%
保健室で過ごすことが多い	12.2%	9.4%
精神的な不安定さがある	51.0%	40.6%
身だしなみが整っていない	12.2%	21.9%
学力が低下している	32.7%	18.8%
宿題や持ち物の忘れ物が多い	20.4%	12.5%
保護者の承諾の必要な書類等の提出が遅れることが多い	32.7%	25.0%
学校に必要なものを用意してもらえない	30.6%	15.6%
部活動を途中でやめてしまった	6.1%	3.1%
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	10.2%	3.1%
学校納付金が遅れる、未払い	30.6%	31.3%
その他	14.3%	15.6%
無回答	0.0%	0.0%

### ③ 家族構成

①、③のケースでは「ひとり親家庭」の割合が最も高く、次いで「二世帯世帯」の割合が高くなっている。②、③のケースでは「二世帯世帯」の割合が最も高く、次いで「三世帯世帯」の割合が高くなっている。

図表－134 家族構成

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=49)	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=32)
二世帯世帯	34.7%	50.0%
三世帯世帯	20.4%	25.0%
ひとり親家庭	42.9%	21.9%
その他	2.0%	3.1%

### ④ ケアの状況

#### i) ケアの状況の把握

ケアの状況を把握しているか聞いたところ、①、③のケース及び②、③のケースともに「はい」の割合がほとんどを占めている。

図表－135 ケアの状況の把握

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=49)	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援 (n=32)
はい	89.8%	78.1%
いいえ	10.2%	21.9%
無回答	0.0%	0.0%

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容を聞いた結果は以下のとおりである。

## ii) ケアを必要としている人

①、③のケース及び②、③のケースともに「きょうだい」の割合が最も高く、次いで「母親」の割合が高くなっている。

図表－136 ケアを必要としている人（複数回答）

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=44）	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=25）
母親	43.2%	28.0%
父親	9.1%	16.0%
祖母	4.5%	4.0%
祖父	9.1%	4.0%
きょうだい	72.7%	64.0%
その他	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%

## iii) ケアを必要としている人の状況

①、③のケース及び②、③のケースともに「若い」が最も高くなっている。

図表－137 ケアを必要としている人の状況（複数回答）

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=44）	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=25）
高齢（65歳以上）	4.5%	12.0%
若い	45.5%	56.0%
要介護（介護が必要な状態）	2.3%	4.0%
認知症	0.0%	8.0%
身体障がい	2.3%	4.0%
知的障がい	11.4%	8.0%
精神疾患（疑い含む）	31.8%	12.0%
依存症（疑い含む）	6.8%	0.0%
「精神疾患」「依存症」以外の病	2.3%	4.0%
その他	6.8%	12.0%
わからない	4.5%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%

iv) ケアの内容

①、③のケース及び②、③のケースともに「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が最も高く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が高くなっている。

図表－138 ケアの内容（複数回答）

	①要対協 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=44）	②学校以外の外 部の支援 ③要対協、学校 以外の外部の支 援（n=25）
家事 （食事の準備や掃除、洗濯）	63.6%	60.0%
きょうだいの世話や保育所等へ の送迎など	59.1%	48.0%
身体的な介護 （入浴やトイレのお世話など）	6.8%	4.0%
外出の付き添い （買い物、散歩など）	6.8%	0.0%
通院の付き添い	4.5%	4.0%
感情面のサポート（愚痴を聞 く、話し相手になるなど）	15.9%	4.0%
見守り	25.0%	24.0%
通訳（日本語や手話など）	0.0%	4.0%
金銭管理	0.0%	4.0%
薬の管理	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%
わからない	4.5%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%

## ⑤ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけを聞いたところ、以下のような回答があった。

### ①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援（小学）

- ・ 児童相談所、市教委からの報告
- ・ 保護者との情報交換や児童との会話の中から家庭での様子がわかりヤングケアラーに該当すると推察した。
- ・ 転入時の申し送り など

### ①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援（中学）

- ・ 担任による家庭訪問や外部機関からの報告
- ・ アンケート等を実施し、本人からの訴え
- ・ 小学校からの引き継ぎ
- ・ 市の福祉部門との連携調整の中で、情報収集。 など

### ①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援（高校）

- ・ 本人からの申し出
- ・ 要保護家庭として当該部署から学校へ報告。
- ・ 市町村教育委員会の担当者からの情報提供。 など

### ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援（小学）

- ・ 外部機関からの情報
- ・ 職員に、欠食を訴えてきた
- ・ 保護者との面談で話題に上がった。 など

### ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援（中学）

- ・ 小学校からの申し送り
- ・ S S Wとの面談
- ・ 保護者との面談 など

### ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援（高校）

- ・ カウンセラーとの面談
- ・ 入学時に引き継ぎを受けて気に掛けていたことと、本人が面談やカウンセリング時に悩みを相談していたため。本人の不安定な様子から外部機関へつないだ。
- ・ 教育相談やS Cとの面談 など

- ⑥ つないだ機関（②要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある、③「要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」のみ）

つないだ機関は「市区町村名の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く）」が最も高く、次いで「県市区町村教育委員会」の割合が高くなっている。

図表－139 つないだ機関

	調査数 (n)	②学校以外の外部の支援 ③要対協、学校以外の外部の支援 (n=32)
県市区町村教育委員会	14	43.8%
市区町村名の福祉部門（要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く）	17	53.1%
市区町村名の保健部門	4	12.5%
市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	1	3.1%
教育支援センター（適応指導教室）	4	12.5%
フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	0	0.0%
児童相談所	8	25.0%
病院	1	3.1%
警察や刑事司法関係機関	0	0.0%
その他	5	15.6%
無回答	0	0.0%

### ⑦ 外部機関へのつなぎ方

外部機関へは、①、③のケース及び②、③のケースともに「学校から直接連絡」の割合が最も高くなっている。

図表－140 外部機関へのつなぎ方（複数回答）

	①要対協 ③要対協、学校以外の外部の支援 (n=49)	②学校以外の外部の支援 ③要対協、学校以外の外部の支援 (n=32)
市区町村教育委員会経由	34.7%	31.3%
学校から直接連絡	55.1%	62.5%
その他	10.2%	6.3%
無回答	0.0%	0.0%

⑧ 学校が行った支援等（つなぎ先との連携も含めて）、支援した結果、子どもへの変化

学校が行った支援等や、その結果の子どもへの変化について、以下のような回答があった。

①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援通告ケース（小学）

<学校で行った支援等>

- ・ 要対協と連携して見守りや声かけを行っている。
- ・ 学習支援、生活支援
- ・ 保護者への働きかけ など

<支援した結果、子どもの変化>

- ・ 経過観察中
- ・ 困り感などの軽減
- ・ そのような状況が減った。 など

①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援通告ケース（中学）

<学校で行った支援等>

- ・ 登校に向けての支援
- ・ 観察、相談の継続
- ・ 情報交換、情報共有、医療との連携 など

<支援した結果、子どもの変化>

- ・ 現時点では大きな変化は見られない
- ・ 継続的な訴えはなかった
- ・ 自分の気持ちを伝えることがあった。 など

①要対協、③要対協、学校以外の外部の支援（高校）

<学校で行った支援等>

- ・ 外部機関との連携
- ・ 進学先での奨学支援体制の確保
- ・ S S Wと児童相談所に連絡し対応している。
- ・ 定期的な家庭訪問、関係機関との情報共有、連携した対応 など

<支援した結果、子どもの変化>

- ・ 困ったことがあったときにすぐに相談するようになった。精神的に落ち着いてきた。
- ・ 精神的に落ち着き進学できた。
- ・ 現在対応中
- ・ 大きな変化なし(経過観察中)

## ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援につないだケース（小学）

### <学校で行った支援等>

- ・ 母親との面談。本人とのノートによる相談。本人との面談。
- ・ 外部機関への情報提供
- ・ 市教育への SSW 派遣要請、登校刺激、放課後登校による課題のやりとり、関係づくり。など

### <支援した結果、子どもの変化>

- ・ 学級担任との信頼関係が増した。母親との連携も以前よりはとれるようになった。
- ・ まだ、変化は見られない
- ・ 病院受診、服薬による生活の安定。母親の転職による生活の安定。など

## ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援につないだケース（中学）

### <学校で行った支援等>

- ・ 要対協との定期的な情報交換
- ・ 定期的に日本語指導を行っている
- ・ SSW に協力を仰ぎ、各種福祉の保障を受けられる様に手続きについて説明してもらった。学校に寄せられた支援物資（制服、カバン等）を譲り渡した。
- ・ 保護者を呼んで今後の対応を話し合った。 など

### <支援した結果、子どもの変化>

- ・ 変化なし
- ・ 安定して学校生活を送っている
- ・ 毎日学校へ来られる様になった。
- ・ 保護者からの欠席連絡が入るようになった。 など

## ②学校以外の外部の支援、③要対協、学校以外の外部の支援につないだケース（高校）

### <学校で行った支援等>

- ・ 面談、家庭訪問
- ・ 定期的な面談やケース会議の招集
- ・ 登校時に状況の確認を行うとともに、外部機関との情報共有をおこなった。児童相談所とも連携している。

### <支援した結果、子どもの変化>

- ・ 今のところ改善はみられない
- ・ 登校できるようになった
- ・ 変化なし

## IV. 事業所におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート 調査結果

---

### 第1章 事業所調査 調査概要

#### (1) 調査対象

県内の居宅介護支援事業所、障害者相談支援事業所等

ア 居宅介護支援事業所等 836カ所（有効回答数 503カ所 回答率 60.2%）

イ 障害者相談支援事業所等 167カ所（有効回答数 112カ所 回答率 67.1%）

#### (2) 回答方法

WEBにてアンケート調査

#### (3) 実施時期

令和3年8月30日から10月8日まで

#### (4) 回収状況

各事業所別での回収状況は以下のとおり。

図表-141 回収状況

	有効回答数
居宅介護支援事業所	409
地域包括支援センター	94
障害者相談支援事業所	99
障害者基幹相談支援センター	13

## 第2章 事業所アンケート調査 調査結果

### (1) 事業所の概要

#### ①事業所の所在地

事業所の所在地は、以下のとおり。

図表－142 事業所の所在地

	調査数 (n)	下越地域	新潟地域	中越地域	魚沼地域	上越地域	佐渡地域	無回答
居宅介護支援事業所	409	9.3%	45.2%	26.4%	8.1%	7.1%	3.9%	0.0%
地域包括支援センター	94	12.8%	28.7%	37.2%	10.6%	6.4%	4.3%	0.0%
障害者相談支援事業所	99	13.1%	37.4%	26.3%	7.1%	13.1%	3.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	13	7.7%	46.2%	23.1%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%

## (2) ヤングケアラーについて

### ① 事業所内で共有している子どものケースの有無

事業所内で共有している子どものケースについて聞いたところ、いずれの事業所でも「特にない」が最も高くなっている。

図表-143 事業所内で共有している子どものケース（複数回答）

	居宅介護支援事業所 (n=409)	地域包括支援センター (n=94)	障害者相談支援事業所 (n=99)	障害者基幹相談支援センター (n=13)
家族の身体的な介護をしている	2.4%	2.1%	2.0%	7.7%
家族の情緒的な支援をしている	2.9%	2.1%	5.1%	23.1%
きょうだいの世話をしている	0.7%	1.1%	12.1%	15.4%
家事をしている	2.7%	1.1%	12.1%	15.4%
家族の通訳をしている (日本語・手話)	0.5%	0.0%	0.0%	7.7%
学力が低下している	0.7%	2.1%	5.1%	7.7%
生活費の援助をしている	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
家族の通院や外出時の同行を手伝っている	0.7%	1.1%	4.0%	7.7%
家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている	0.5%	1.1%	1.0%	7.7%
家族の服薬管理や投与を手伝っている	1.0%	1.1%	2.0%	7.7%
精神的な不安定さがある	2.0%	2.1%	7.1%	23.1%
その他	1.2%	5.3%	2.0%	0.0%
特にない	92.4%	89.4%	74.7%	61.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### ② 「ヤングケアラー」の概念の認識

「ヤングケアラー」の概念の認識について聞いたところ、いずれの事業所でも「言葉は知っているが、事業所としては特別な対応をしていない」が最も高く、次いで、「言葉を知っており、事業所として特別な対応をしている」が高くなっている。

図表-144 「ヤングケアラー」の概念の認識

	調査数 (n)	言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、事業所としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、事業所として意識して対応している	無回答
居宅介護支援事業所	409	2.4%	10.5%	65.8%	21.3%	0.0%
地域包括支援センター	94	2.1%	9.6%	56.4%	31.9%	0.0%
障害者相談支援事業所	99	2.0%	9.1%	68.7%	20.2%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	13	0.0%	0.0%	46.2%	53.8%	0.0%

### ③ 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、事業所として意識して特別な対応している」と回答した事業所に、子どもの実態把握の状況について聞いたところ、「把握している」は障害者相談支援事業所で30.0%と最も高くなっている。

図表－145 「ヤングケアラー」の実態把握の状況

	調査数 (n)	把握している	「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	該当する子どもはいない	無回答
居宅介護支援事業所	87	11.5%	3.4%	85.1%	0.0%
地域包括支援センター	30	10.0%	3.3%	86.7%	0.0%
障害者相談支援事業所	20	30.0%	10.0%	60.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	7	28.6%	0.0%	71.4%	0.0%

### ④ 「ヤングケアラー」の把握方法

「ヤングケアラー」を「把握している」と回答した事業所に、把握方法について聞いたところ、以下のとおりである。

図表－146 「ヤングケアラー」の実態把握の方法（複数回答）

	調査数 (n)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	その他	無回答
居宅介護支援事業所	10	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%
地域包括支援センター	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	6	0.0%	100.0%	16.7%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

⑤ 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が障害者相談支援事業所で20.2%と最も高くなっている。

図表-147 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

	調査数 (n)	いる	いない	分からない	無回答
居宅介護支援事業所	409	4.2%	92.2%	3.7%	0.0%
地域包括支援センター	94	3.2%	83.0%	13.8%	0.0%
障害者相談支援事業所	99	20.2%	70.7%	9.1%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	13	23.1%	69.2%	7.7%	0.0%

※障害者基幹相談支援センターは回答数が少ないため参考値。

「ヤングケアラー」の概念について「言葉を知っており、事業所として特別な対応をしている」と回答した事業所においても、ヤングケアラーが「いる」という回答が約1割強ある。

図表-148 【参考】「ヤングケアラー」の概念の認識×ヤングケアラーの有無

	調査数 (n)	いる	いない	分からない	無回答
言葉を知らない	14	0.0%	85.7%	14.3%	0.0%
言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	61	1.6%	88.5%	9.8%	0.0%
言葉は知っているが、事業所としては特別な対応をしていない	396	5.8%	88.6%	5.6%	0.0%
言葉を知っており、事業所として特別な対応をしている	144	13.2%	81.3%	5.6%	0.0%

⑥ 把握しているヤングケアラーの世帯数

把握しているヤングケアラーの世帯数は、以下のとおりである。

図表-149 把握しているヤングケアラーの世帯数

	調査数 (n)	0～5世帯	5～10世帯	10世帯以上	無回答
居宅介護支援事業所	17	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	20	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	3	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%

※回答数が少ないため参考値。

## ⑦ ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した事業所に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は以下のとおりである。

### i) ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況は、以下のとおりである。

図表-150 ヤングケアラーと思われる子どもの状況（複数回答）

	居宅介護 支援事業 所 (n=17)	地域包括 支援セン ター (n=3)	障害者相 談支援事 業所 (n=20)	障害者基 幹相談支 援セン ター(n=3)
障がいや病気のある家族に 代わり、家事（買い物、料理、 洗濯、掃除など）をしている	35.3%	66.7%	55.0%	66.7%
家族の代わりに、幼いきょう だいの世話をしている	0.0%	33.3%	30.0%	66.7%
家族の代わりに、障がいや 病気のあるきょうだいの世話を している	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%
目を離せない家族の見守りや 声掛けをしている	29.4%	0.0%	15.0%	33.3%
家族の通訳をしている（日本語 通訳や手話通訳など）	5.9%	33.3%	5.0%	33.3%
家計を支えるために、 アルバイト等をしている	5.9%	0.0%	0.0%	33.3%
アルコール・薬物・ギャンブル などの問題のある家族に対応し ている	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%
病気の家族の看病をしている	5.9%	0.0%	5.0%	33.3%
障がいや病気のある家族の 身の回りの世話をしている	23.5%	0.0%	15.0%	66.7%
障がいや病気のある家族の 入浴やトイレの介助をしている	11.8%	33.3%	5.0%	33.3%
その他	17.6%	0.0%	10.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

ii) 外部の支援につないだケースの有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、外部の支援につないだケースの有無及びつないだ関係機関は、以下のとおりである。

図表－151 外部の支援につないだケースの有無（複数回答）

	調査数 (n)	外部機関 につない だケー スがある	外部の支 援につな いでいな い	無回答
居宅介護支援事業所	17	41.2%	58.8%	0.0%
地域包括支援センター	3	33.3%	66.7%	0.0%
障害者相談支援事業所	20	60.0%	40.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	3	66.7%	33.3%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

図表－152 つないだ関係機関（複数回答）

	調査数 (n)	要保護児 童対策地 域協議会	学校	教育委員 会	児童相談 所	市町村 (児童福 祉担当)	市町村 (高齢者 福祉担 当)	市町村 (障害者 福祉担 当)	地域包括 支援セン ター	障害者基 幹相談支 援セン ター	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	28.6%	57.1%	14.3%	57.1%	0.0%	28.6%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	16.7%	33.3%	25.0%	8.3%	66.7%	0.0%	58.3%	0.0%	33.3%	8.3%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

### iii) 外部の支援につながらなかったケースについて

外部の支援につながらなかったケースについて、つながらなかった理由と対応方法について聞いたところ、以下のような回答があった。

#### つながらなかった理由

- ・ 認知症の祖母、祖父の見守りをしている本人も嫌がっていないと感じたため。
- ・ 生活保護を受給しており、介護保険サービスを含む支援者が家族を支えている状況であり、現状ではヤングケラー当人への支援の必要性はないと判断している。
- ・ 時々電話相談があるが、直接的な支援に繋がっていない為。
- ・ 現状では負担が大きいは考えられない為、包括支援センターなどへの相談はしていない。
- ・ すでに外部支援が入っている。

#### 対応方法

- ・ 可能な限りの問題のある家族への支援（障害福祉サービス導入等）をおこないながら、事務手続き等をおこなう子（当該児童）への同行支援もおこなっている。
- ・ ケースワーカーや各専門職との情報を共有している。
- ・ 月に1回の訪問の際に家族の状況や、子供の負担を聞き取っている。
- ・ 短期入所を支給決定してもらい、相談支援専門員として関わりを開始した。
- ・ 定期的な訪問による状況把握。

#### iv) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・ 対象者との直接的なやりとりは少ないが、常に表情等の観察を心掛けている
- ・ 母親が日本語が分からないため、英語が話せる職員から英語文で中学校の文書を説明するなど、関係機関のそれぞれ役割分担を行うケース会議を定期的に行っている。
- ・ 虐待チェックシートの活用と、事業所内で複数人の相談員で検討をする。
- ・ 関係機関との連携、情報共有。
- ・ 家族関係を壊さないようにすること、それぞれのプライドを傷つけないようにすること。
- ・ ケアマネジャー一人で抱え込まず、事業所のケアマネジャーに相談したり、地域包括支援センターへケースについて相談し、必要な関係・関連機関に結び付けてもらっている。
- ・ 関係者のアセスメントで詳細聞き取り出来るよう意識している。
- ・ 支援の拒否にならないように配慮しています。
- ・ 学業や子供らしさに悪影響がないようにしている。
- ・ 他の関係機関が関わっているかを確認している。特に世帯での支援が必要な場合は、1つの事業所のみでの対応に限界がある。また、多職種（多機関）で関われる、日ごろからのネットワーク構築も必要。

#### v) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じること

ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることについて聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・ 当該児童自身は大変さを感じながらも、親を守ろうという気持ちが強いため、支援するうえで児童のその思いを尊重しながら対応していかなくてはいけないこと
- ・ 保護者との認識の違い（支援者はヤングケアラーの可能性や危惧を感じるが、保護者は当たり前と考えている等）
- ・ それぞれの環境や価値観の違いもある。当事者にヤングケアラーをどのように理解していただくか伝え方が難しい。
- ・ 主介護者とは直接話ができるが、間接的にしか様子を知れない。
- ・ どこまで子供に任せるべきなのか、判断に迷う。
- ・ 子ども自身が支援が必要と認識していない場合、どのような支援が適切であるのか、本当に支援をすべきであるのかなど慎重な検討が求められる。
- ・ 支援者側に「ヤングケアラー」に対する認識が薄く、その把握や必要な支援の実行が不十分であった。その存在を認識した場合でも、家庭内の役割分担や人間関係等が関係することであり、介入やその効果に困難さを感じる。
- ・ 子どもが同居家族の世話をしなくてもよい家庭環境になることが難しい。
- ・ 子供本人に介護のことを聞くことで、ほかの家族や子供自身が警戒心をもってしまい、こちらの訪問の受け入れが悪くなることを懸念。（直接子供本人に聞くことはあまりしていない。介護の必要な人との会話の中で話をさりげなく聞く程度）
- ・ 介護をヤングケアラーに頼んでいる家族に認識が無いこと。
- ・ 家族関係に立ち入ること

## vi) ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目

ヤングケアラーと思われる子どもを把握するためのチェック項目について、意見や変更・追加項目を聞いたところ、以下のような回答があった。

### <参考：チェック項目案>

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 家族の身体的な介護をしている     | <input type="checkbox"/> 生活費の援助をしている          |
| <input type="checkbox"/> 家族の情緒的な支援をしている     | <input type="checkbox"/> 家族の通院や外出時の同行を手伝っている  |
| <input type="checkbox"/> きょうだいの世話をしている      | <input type="checkbox"/> 家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている |
| <input type="checkbox"/> 家事をしている            | <input type="checkbox"/> 家族の服薬管理や投与を手伝っている    |
| <input type="checkbox"/> 家族の通訳をしている（日本語・手話） | <input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある          |
| <input type="checkbox"/> 学力が低下している          |   |

### 全体に関する意見

- ・家族の身体的な介護、家族の情緒的な支援をしているとは具体的にどのようなことをしているか例を挙げた方が良いと思う。（例：〇〇をしている）
- ・きょうだい障がいサービス（放課後等デイサービス等）の利用準備、支度や送迎時の迎え（緊急時も含めて）をしている。
- ・勉強も引き続きがんばっていると学力低下していないケースもあるため。
- ・子どもの健康状態
- ・日本語話者のみの家族であっても、人間関係が悪い家族構成員の間に入って両者の「通訳」をしている例がある。上記の「情緒的支援」「通訳」に分類されるのかもしれないが、明確ではない。
- ・ヤングケアラー自身の状況だけでなく、親・兄弟の状況を確認する項目が必要ではないか？ヤングケアラーになるリスクをマネジメントする必要がある。
- ・学力まで把握はできない。 など

### 変更項目案

回答なし

### 追加項目案

- ・ヤングケアラーの交友関係の変化
- ・通学や進学に影響が出ている。
- ・自分の時間（ゲームや勉強、友達と遊ぶ時間）がとれない、少ない。
- ・『友達と遊びに出かけたり、お互いの自宅に行き来している。』といった項目があると良いと思いました。
- ・体重減少がある、十分な睡眠がとれていない
- ・家族に介護が必要な方はいるか？
- ・近所とのやりとりが少ない。頼れる親戚がいない。 など

### ⑧ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由は、以下のとおりである。

図表-153 ヤングケアラーがいるか分からない理由（複数回答）

	調査数 (n)	事業所において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	児童虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
居宅介護支援事業所	15	26.7%	6.7%	73.3%	46.7%	6.7%	0.0%
地域包括支援センター	13	46.2%	15.4%	84.6%	38.5%	23.1%	0.0%
障害者相談支援事業所	9	66.7%	33.3%	66.7%	55.6%	11.1%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※回答数が少ないため参考値。

### ⑨ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを聞いたところ、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が最も高く、次いで、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」、「スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）などの専門職の配置が充実すること」、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が高くとなっている。

図表-154 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと（複数回答）

	居宅介護 支援事業 所 (n=409)	地域包括 支援セン ター (n=94)	障害者相 談支援事 業所 (n=99)	障害者基 幹相談支 援セン ター (n=13)
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	60.6%	73.4%	62.6%	76.9%
関係機関がヤングケアラーについて知ること	79.5%	84.0%	87.9%	100.0%
ヤングケアラーについて、把握する体制を構築すること	73.1%	73.4%	70.7%	69.2%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど教育関係機関の専門職の配置が充実すること	63.6%	61.7%	49.5%	46.2%
市町村などの役所に専門職の配置を充実すること	42.5%	34.0%	27.3%	7.7%
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	72.1%	75.5%	71.7%	61.5%
市町村にヤングケアラーの支援について相談できる窓口があること	64.5%	67.0%	58.6%	46.2%
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	31.8%	29.8%	18.2%	30.8%
福祉と教育の連携を進めること	15.6%	23.4%	21.2%	61.5%
その他	2.2%	3.2%	1.0%	7.7%
特になし	0.5%	0.0%	1.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※障害者基幹相談支援センターは回答数が少ないため参考値。

### (3) 個別の事例

「外部の支援につないだケースがある」について、直近のケースを聞いたところ、結果は以下のとおりである。該当者数が少ないため、表のみの掲載にとどめる。

#### ① 性別

図表－155 性別

	調査数 (n)	女性	男性	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### ② 家庭の状況

図表－156 家庭の状況（複数回答）

	調査数 (n)	家族の身体的な介護をしている	家族の情緒的な支援をしている	きょうだいの世話をしている	家事をしている	家族の通訳をしている（日本語・手話）	学力が低下している	生活費の援助をしている
居宅介護支援事業所	7	28.6%	28.6%	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	16.7%	8.3%	58.3%	50.0%	0.0%	8.3%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	調査数 (n)	家族の通院や外出時の同行を手伝っている	家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている	家族の服薬管理や投与を手伝っている	精神的な不安定さがある	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	16.7%	0.0%	16.7%	8.3%	16.7%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### ③ 家族構成

図表－157 家族構成

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	71.4%	57.1%	42.9%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	91.7%	58.3%	25.0%	0.0%	91.7%	0.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%

### ④ ケアの状況

#### i) ケアの状況の把握

図表－158 ケアの状況の把握

	調査数 (n)	はい	いいえ	無回答
居宅介護支援事業所	7	100.0%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	75.0%	25.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	100.0%	0.0%	0.0%

ケアの状況を把握していると回答した事業所に、ケアを必要としている人、ケアを必要としている人の状況、ケアの内容を聞いた結果は以下のとおりである。

#### ii) ケアを必要としている人

図表－159 ケアを必要としている人（複数回答）

	調査数 (n)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	9	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

iii) ケアを必要としている人の状況

図表－160 ケアを必要としている人の状況（複数回答）

	調査数 (n)	高齢(6 5歳以 上)	若い	要介護 (介護が 必要な状 態)	認知症	身体障が い	知的障が い	精神疾患 (疑い含 む)	依存症 (疑い含 む)	「精神疾 患」「依 存症」以 外の病気	その他	わからな い	無回答
居宅介護支援事業所	7	57.1%	0.0%	85.7%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	9	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	11.1%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

iv) ケアの内容

図表－161 ケアの内容（複数回答）

	調査数 (n)	家事(食 事の準備 や掃除、 洗濯)	きょうだ いの世話 や保育所 等への送 迎など	身体的な 介護(入 浴やトイ レのお世 話など)	外出の付 き添い (買い物 、散歩 など)	通院の付 き添い	感情面の サポート (愚痴を 聞く、話 し相手に なるなど)	見守り	通訳(日 本語や手 話など)	金銭管理	業の管理	家計援助 (アルバ イトな ど)	その他	わからな い	無回答
居宅介護支援事業所	7	57.1%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	28.6%	85.7%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
地域包括支援センター	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	9	66.7%	44.4%	22.2%	11.1%	22.2%	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ⑤ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけを聞いたところ、以下のような回答があった。

### 中学

- ・ 生活困窮自立支援事業にて、金銭管理について介入し、包括で父親に成年後見人をつける支援を行った時。
- ・ 介入時に事前に情報を得ていた。
- ・ 親が、子が親に代わって家事をすることや幼い兄弟の面倒をみることは当たり前という認識をもっていたため
- ・ 本人、母からの訴え
- ・ 担当の相談員になったこと。
- ・ 訪問時の聞き取り

### 高校

- ・ 父親が要介護認定を受け地域包括支援センターから紹介があった時
- ・ 兄弟のサービス利用相談によって関わるうちに家庭内で兄弟の支援の多くを担っていることに気が付いた。
- ・ 母が障がい福祉サービスを利用したい（家事援助）と希望したため。
- ・ 母親の話の中で、まだ小さい弟の世話をさせていると聞いた。
- ・ 祖母が入院した際、病院ケースワーカーからの情報提供で把握。
- ・ 母親からの聞き取り
- ・ 父子家庭で父親が仕事で不在がちの為、息子が見守りしている状況で介護依頼がきた為、もともと把握している。
- ・ 認定調査時に、生活状況を聞き取った際に気づいた。

### その他

- ・ インテーク時（初回面談）
- ・ 計画相談を担当している母から「育児支援」の利用はできないか問い合わせがあり、聞き取りをしている中で長女が家事や次女の面倒をみてくれていると話があった。母からの話のみなので、事実関係含め詳細はわからない。
- ・ 他機関からも連絡が入った為
- ・ 家庭訪問で家庭の様子を聞いた
- ・ 曾祖母が一人で家の外へ出てしまう事があり、家族に状況を確認すると、曾祖母が家から出て遠くへ行かないように、見守りや声掛けをしていることがわかった。
- ・ 障がい児相談支援における家庭訪問で保護者が話したから。
- ・ 母親の体調が安定せず、関係機関に発信したところケース会議を開催。情報共有の中で気づくことができた。

⑥ 子どもにケアを手伝ってもらわなければならない理由

図表-162 子どもにケアを手伝ってもらわなければならない理由

	調査数 (n)	介護は家 族で行う ものだと 思っている	他人に家 に入っ てほしく ないと思 っている	介護保険 サービスを 限度額 いっぱい 使ってい るが更に 介護が必 要だから	子どもが 家の役に 立つこと にやりが いを感じ ている	お金がか かるのが 困るから	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	85.7%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%

⑦ つないだ機関

図表-163 つないだ機関

	調査数 (n)	要保護児 童対策地 域協議会	学校	教育委員 会	児童相談 所	市町村 (児童福 祉担当)	市町村 (高齢者 福祉担 当)	市町村 (障害者 福祉担 当)	地域包括 支援セン ター	障害者基 幹相談支 援セン ター	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	14.3%	28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	71.4%	14.3%	71.4%	0.0%	14.3%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	16.7%	41.7%	16.7%	8.3%	50.0%	0.0%	58.3%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑧ 外部機関につないだ結果、ケアの状況に変化

図表-164 外部機関へのつなぎ方（複数回答）

	調査数 (n)	改善され た	改善中	支援を検 討中	改善され ていない	不明	その他	無回答
居宅介護支援事業所	7	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%
地域包括支援センター	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
障害者相談支援事業所	12	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	8.3%	8.3%	0.0%
障害者基幹相談支援センター	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## V. 要保護児童対策地域協議会に関するアンケート調査結果

---

### 第1章 要保護児童対策地域協議会調査 調査概要

(1) 調査対象

県内の要保護児童対策協議会 30カ所

(2) 回答方法

書面にてアンケート調査

(3) 実施時期

令和3年8月30日から10月8日まで

(4) 回収状況

県内の要保護児童対策協議会 30カ所 (有効回答数 30カ所 回答率 100.0%)

## 第2章 要保護児童対策地域協議会アンケート調査 調査結果

### (1) 要保護児童対策協議会の概要

要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数

図表-165 要保護児童対策地域協議会におけるケース登録件数

	要保護児童ケース	要支援児童ケース	特定妊婦ケース
令和3年8月1日実績	1812	1272	121

### (2) ヤングケアラーについて

#### ① 「ヤングケアラー」と思われる子どもの登録件数

図表-166 「ヤングケアラー」と思われる子どもの登録件数

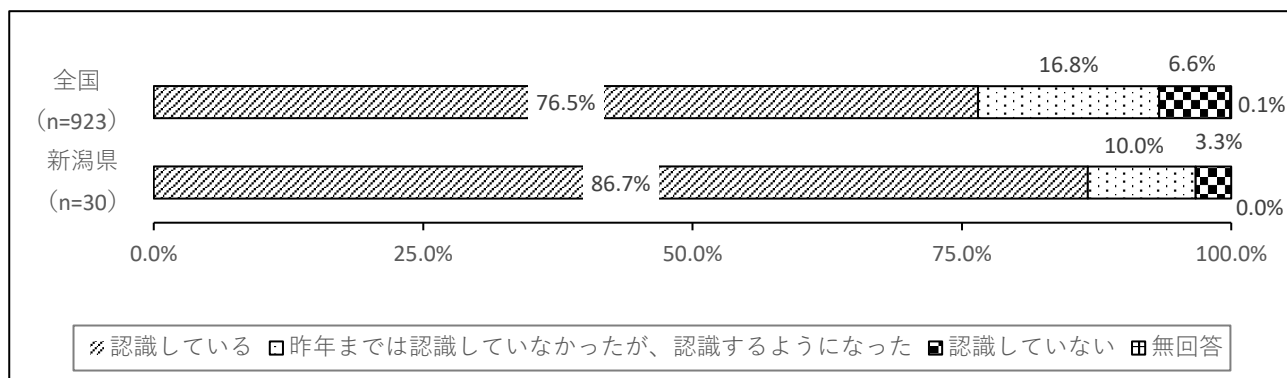
	「ヤングケアラー」と思われる子ども数が0人	「ヤングケアラー」と思われる子どもが1人以上いる			無回答	合計
		1～5人	6～10人	11人以上		
全国 (令和元年度実績)	509自治体 (0件)	252自治体 (569件)	48自治体 (379件)	41自治体 (1,226件)	73自治体	923自治体 (2,174件)
新潟県	14自治体 (0件)	12自治体 (29件)	0自治体 (0件)	4自治体 (193件)	0自治体	30自治体 (222件)

#### ② ヤングケアラーという概念の認識の有無

「ヤングケアラー」の概念の認識をしているか聞いたところ、「認識している」と「昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」を合わせた『認識している』の割合は96.7%と、全国調査と同様に高い傾向になっている。

図表-167 ヤングケアラーという概念の認識の有無

	調査数 (n)	認識している	昨年までは認識していなかったが、 認識するようになった	認識していない	無回答
全国	923	76.5%	16.8%	6.6%	0.1%
新潟県	30	86.7%	10.0%	3.3%	0.0%

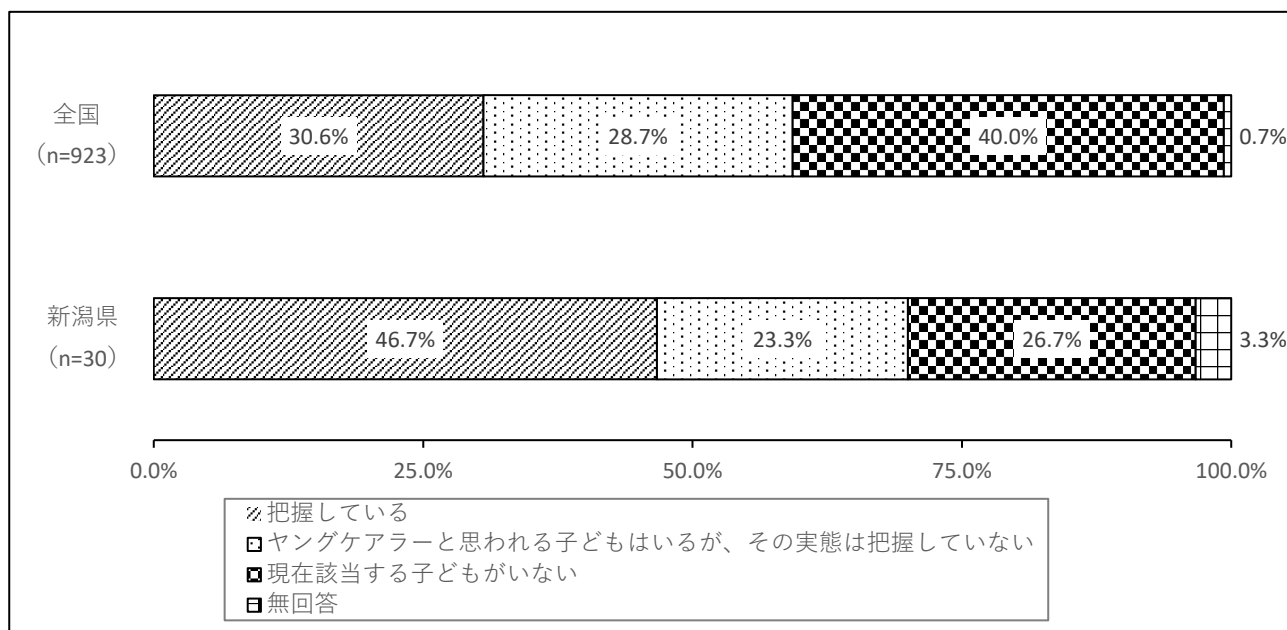


### ③ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の状況

「ヤングケアラー」という概念を認識している要対協に「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握をしているか聞いたところ、「把握している」は全国に比べ 16.1 ポイント高く、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」は、全国に比べると 5.4 ポイント低くなっている。

図表-168 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握

	調査数 (n)	把握している	ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	現在該当する子どもがいない	無回答
全国	862	30.6%	28.7%	40.0%	0.7%
新潟県	30	46.7%	23.3%	26.7%	3.3%

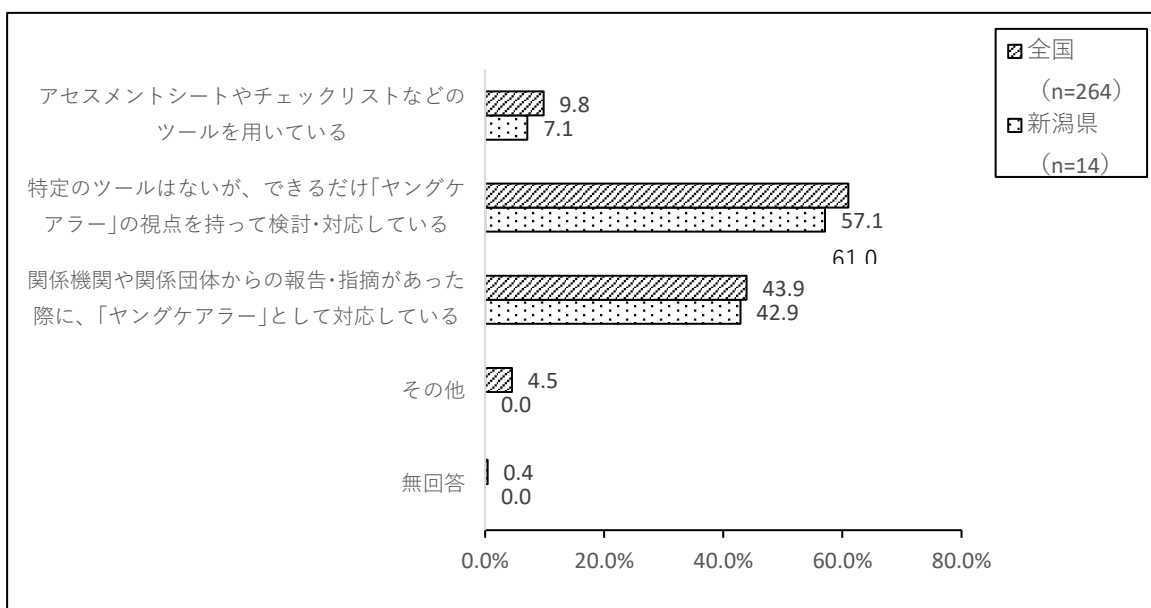


④ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握方法（複数回答）

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の方法について、「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」は全国に比べ2.7ポイント、「特定のツールはないが、「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」は、全国に比べると3.9ポイント低くなっている。

図表-169 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の方法（複数回答）

	調査数 (n)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している	その他	無回答
全国	264	9.8%	61.0%	43.9%	4.5%	0.4%
新潟県	14	7.1%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%

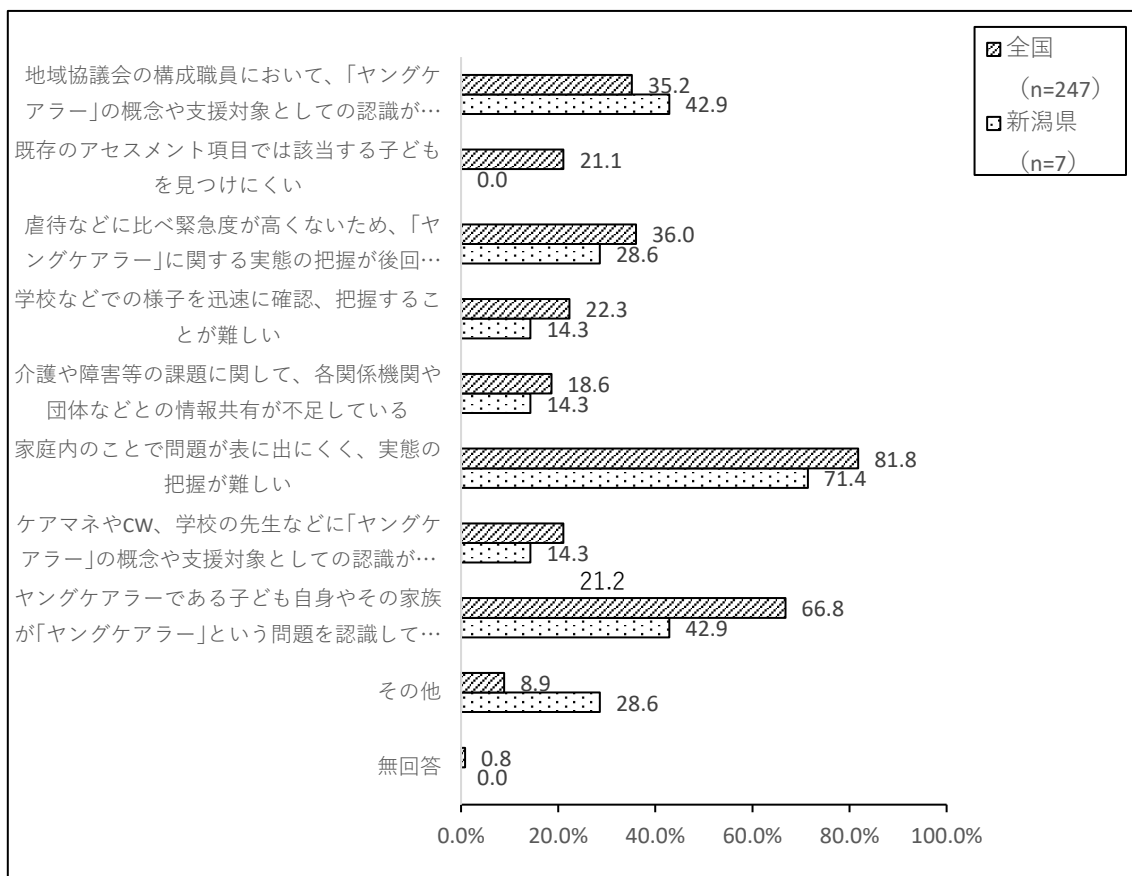


⑤ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していない理由（複数回答）

ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態を把握していない理由について聞いたところ、「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が最も高く、全国調査と同じ傾向にある。「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を意識していない」は全国調査に比べ 23.9 ポイント低い。また「地域協議会の構成員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が全国調査に比べ 7.7 ポイント高い。

図表－170 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していない理由（複数回答）

	調査数 (n)	地域協議会の構成員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	既存のアセスメント項目では該当する子どもを見つけにくい	虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	学校などでの様子を迅速に確認、把握することが難しい	介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している	家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	ケアマネやCW、学校の先生などに「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
全国	247	35.2%	21.1%	36.0%	22.3%	18.6%	81.8%	21.1%	66.8%	8.9%	0.8%
新潟県	7	42.9%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	71.4%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%



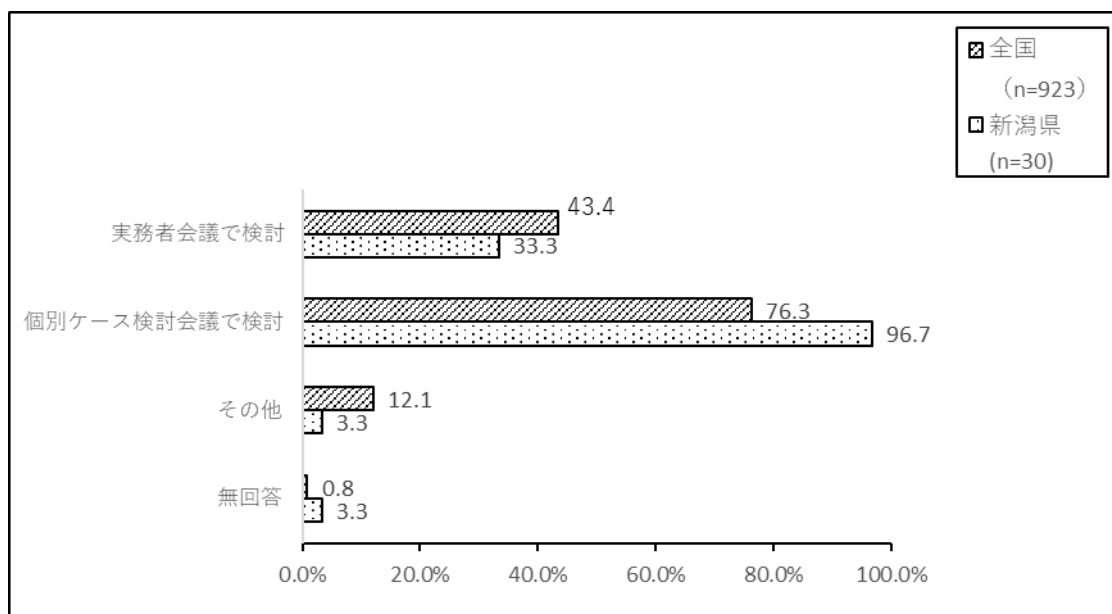
### (3) 要保護児童対策地域協議会における要保護（要支援）児童への対応について

#### ① 要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場

要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場について聞いたところ、「実務者会議で検討」が全国調査に比べ 10.1 ポイント低く、「個別ケース検討会議で検討」が全国調査に比べ 20.4 ポイント高くなっている。

図表-171 要保護（要支援）児童への具体的な対応方針の検討の場（複数回答）

	調査数 (n)	実務者会議で検討	個別ケース検討会議で検討	その他	無回答
全国	923	43.4%	76.3%	12.1%	0.8%
新潟県	30	33.3%	96.7%	3.3%	3.3%

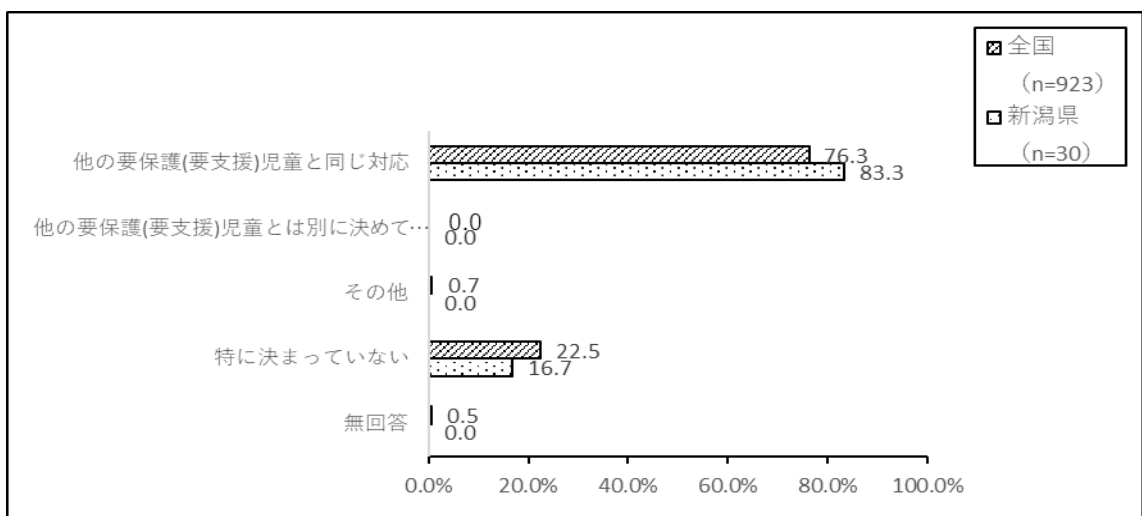


② 要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場

要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場について聞いたところ、「実務者会議で検討」が全国調査に比べ9.0ポイント高く、「個別ケース検討会議で検討」が全国調査に比べ2.5ポイント低くなっている。

図表－172 要保護（要支援）児童への対応に関する進捗管理の場（複数回答）

	調査数 (n)	実務者会議で検討	個別ケース検討会議で検討	その他	無回答
全国	923	74.3%	32.5%	14.6%	0.9%
新潟県	30	83.3%	30.0%	10.0%	0.0%

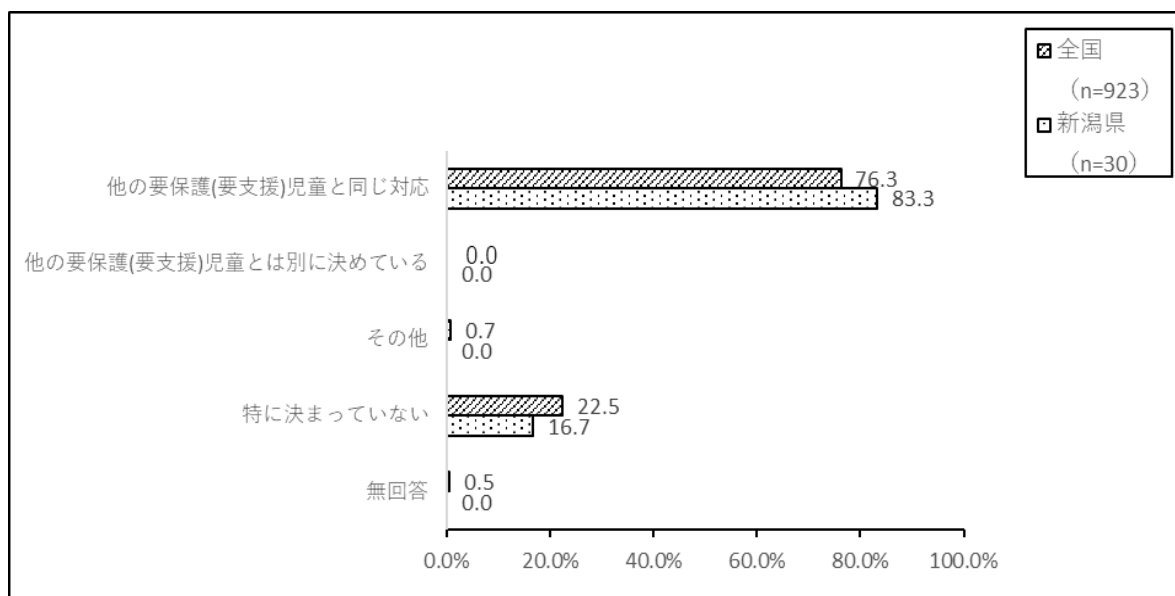


③ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定する部署（機関）

要保護（要支援）児童への対応方針を決定する部署について聞いたところ、「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が全国調査に比べ7.0ポイント高く、「特に決まっていない」が全国調査に比べ5.8ポイント低くなっている。

図表-173 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定する部署（機関）

	調査数 (n)	他の要保護(要支援)児童と同じ対応	他の要保護(要支援)児童とは別に決めている	その他	特に決まっていない	無回答
全国	923	76.3%	0.0%	0.7%	22.5%	0.5%
新潟県	30	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

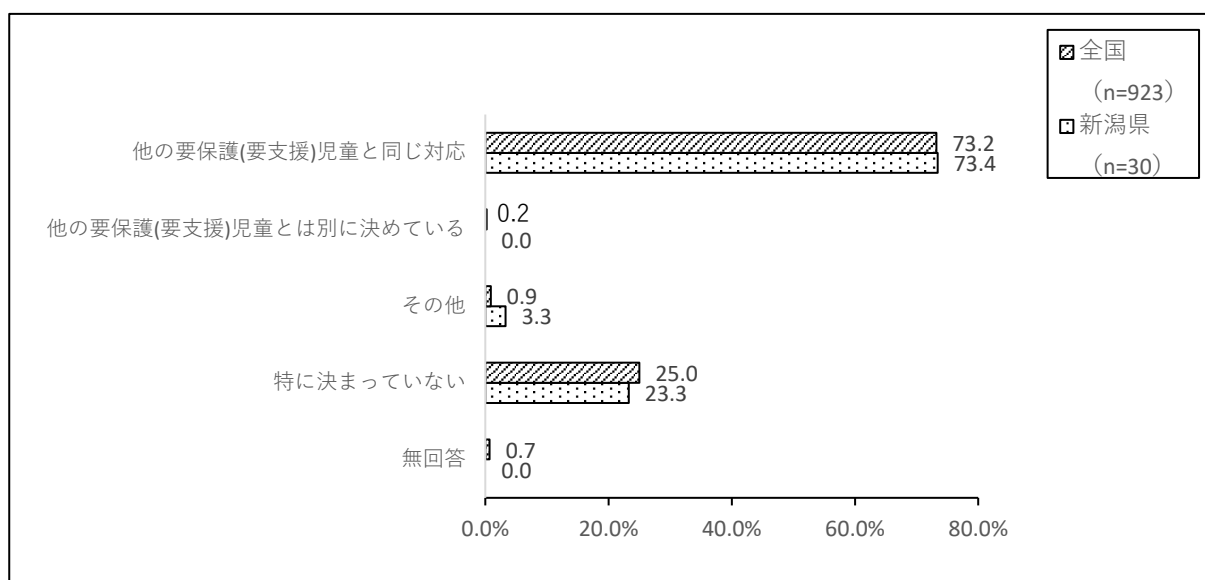


④ 「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人  
(部署・機関)

要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、その子どもに対して、今後の対応に関して意向把握をする人（部署・機関）について聞いたところ、全国調査と同様に「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が高く、次いで「特に決まっていない」となっている。

図表－174 「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人  
(部署・機関)

	調査数 (n)	他の要保護(要支援)児童と同じ対応	他の要保護(要支援)児童とは別に決めている	その他	特に決まっていない	無回答
全国	923	73.2%	0.2%	0.9%	25.0%	0.7%
新潟県	30	73.4%	0.0%	3.3%	23.3%	0.0%

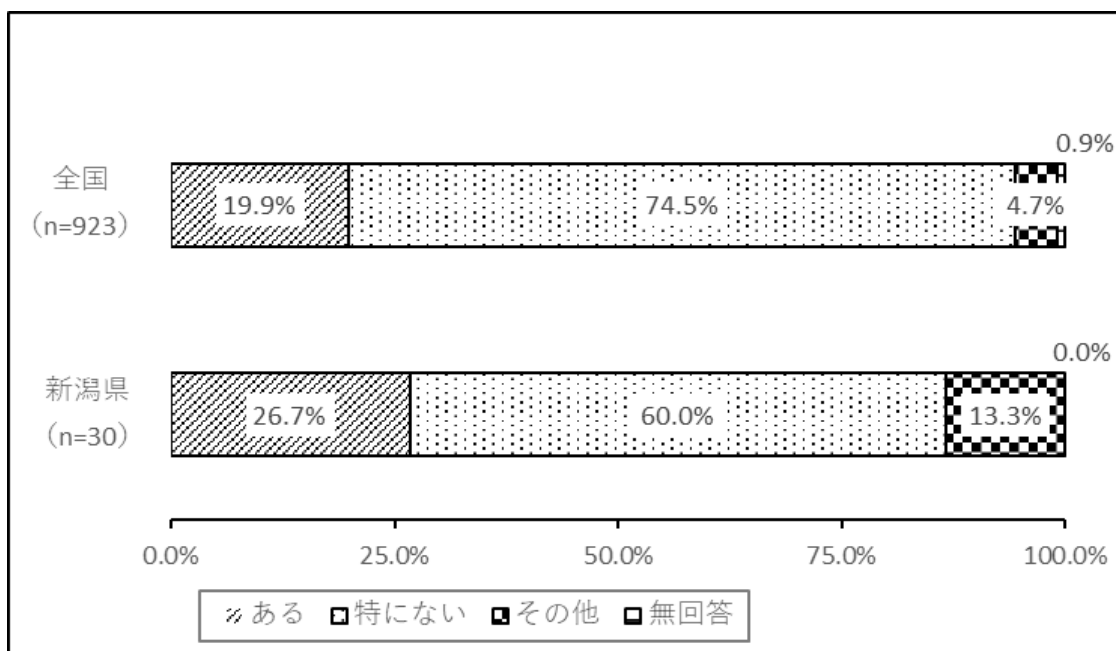


⑤ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫されていること

要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、学校との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「ある」は全国調査に比べ 6.8 ポイント高く、「特にない」が全国調査に比べ 14.5 ポイント低くなっている。

図表－175 学校との連携で工夫していることの有無

	調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
全国	923	19.9%	74.5%	4.7%	0.9%
新潟県	30	26.7%	60.0%	13.3%	0.0%

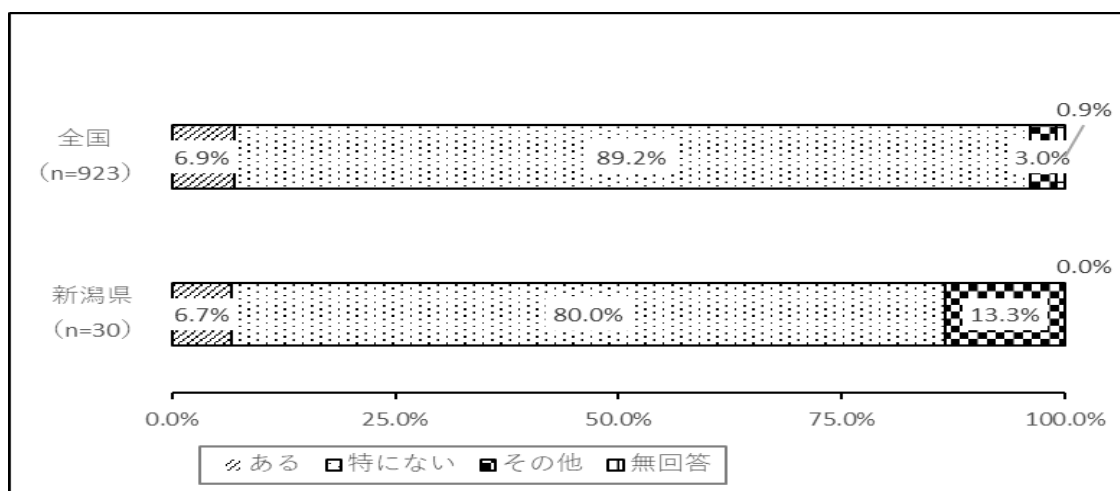


⑥ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫していること

要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が全国調査と同様に高くなっている。

図表－176 医療機関との連携で工夫していることの有無

	調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
全国	923	6.9%	89.2%	3.0%	0.9%
新潟県	30	6.7%	80.0%	13.3%	0.0%

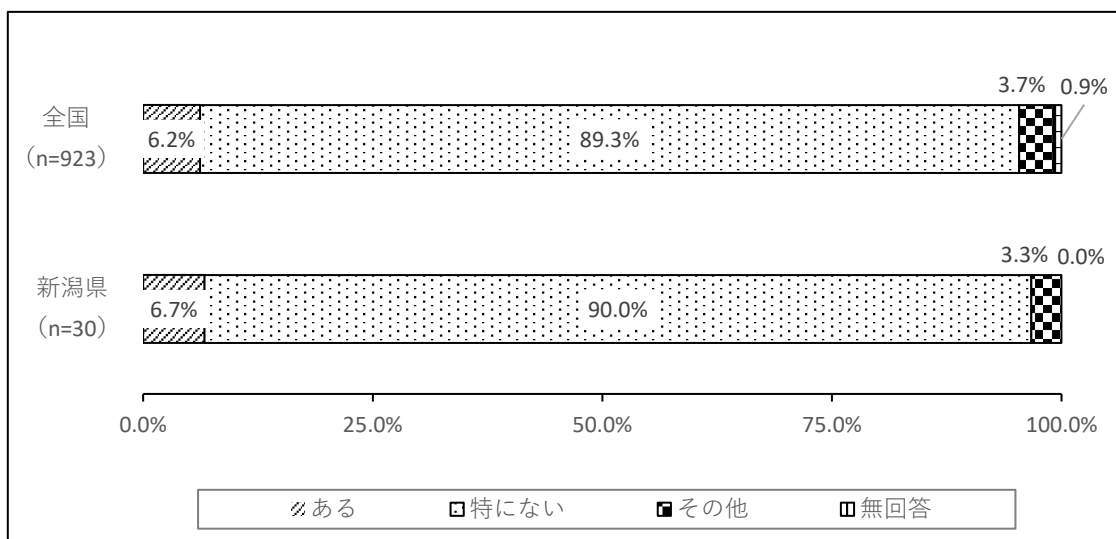


⑦ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫されていること

要保護（要支援）児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、その子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が全国調査と同様に高くなっている。

図表－177 通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無

	調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
全国	923	6.2%	89.3%	3.7%	0.9%
新潟県	30	6.7%	90.0%	3.3%	0.0%



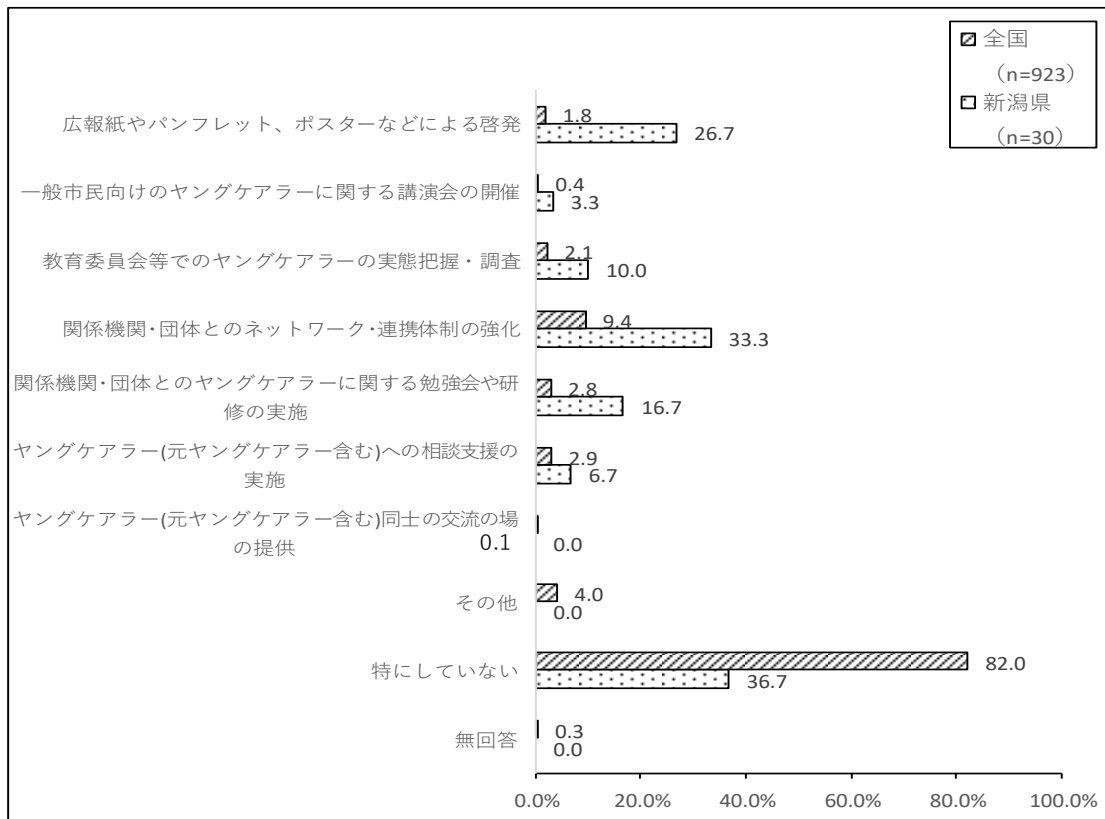
(4) 要保護児童対策地域協議会を設置している市町村におけるヤングケアラーに関する取組について

① ヤングケアラーへの対応に関する取り組み（複数回答）

「ヤングケアラー」と思われる子どもに有無にかかわらず、要対協を設置している市区町村で、ヤングケアラーに関する取組を行っているか聞いたところ、「特にしていない」が全国調査に比べ 45.3 ポイント低くなっている。また「広報誌やパンフレット、ポスターなどによる啓発」が全国調査に比べ 24.9 ポイント、「関係機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化」が全国調査に比べ 23.9 ポイントそれぞれ高くなっている。

図表-178 ヤングケアラーに対する取り組みの実施状況（複数回答）

	調査数 (n)	広報紙やパンフレット、ポスターなどによる啓発	一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催	教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査	関係機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化	関係機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修の実施	ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)への相談支援の実施	ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	その他	特にしていない	無回答
全国	923	1.8%	0.4%	2.1%	9.4%	2.8%	2.9%	0.1%	4.0%	82.0%	0.3%
新潟県	30	26.7%	3.3%	10.0%	33.3%	16.7%	6.7%	0.0%	0.0%	36.7%	0.0%



図表－179 今年度から実施している取り組み（複数回答）

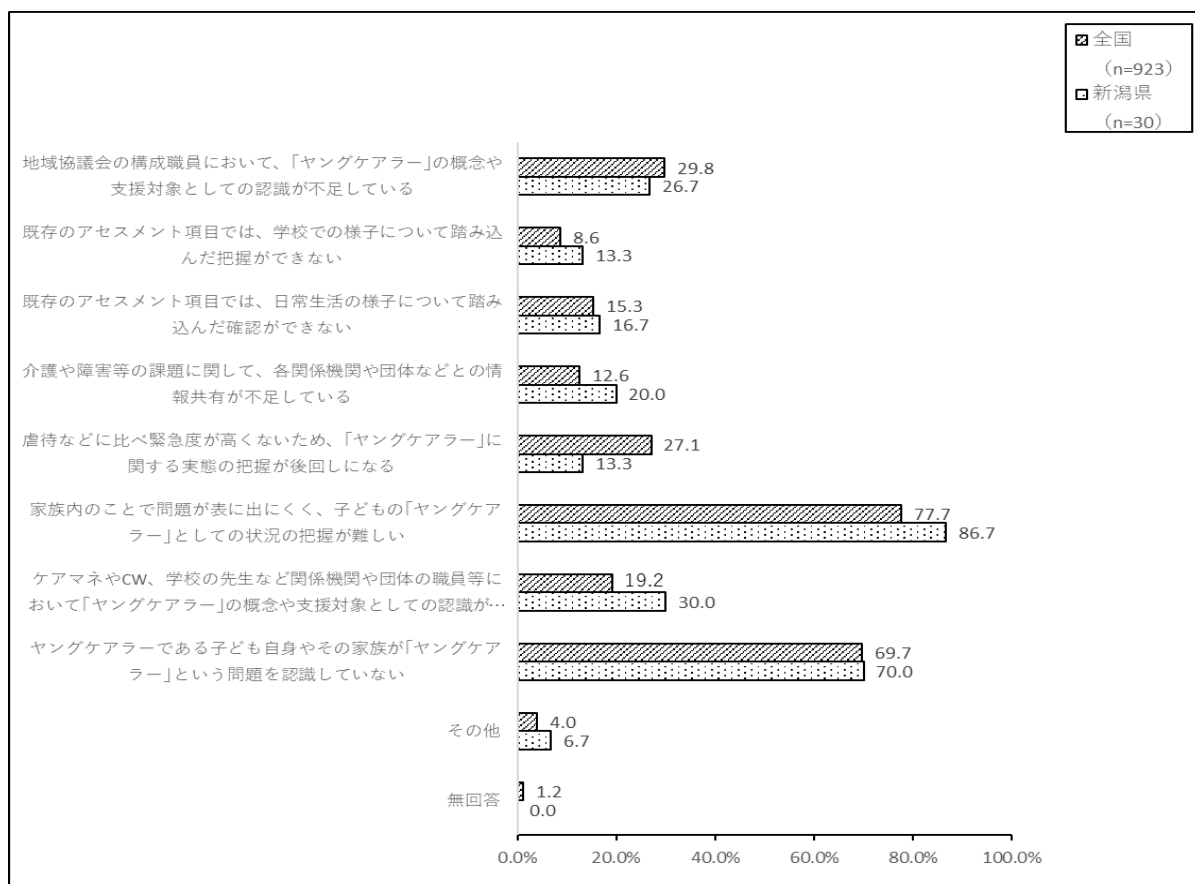
	調査数 (n)	広報紙やパンフ レット、ポスター などによる啓発	一般市民向けのヤ ングケアラーに関 する講演会の開催	教育委員会等での ヤングケアラーの 実態把握・調査	関係機関・団体と のネットワーク・ 連携体制の強化	関係機関・団体と のヤングケアラー に関する勉強会や 研修の実施	ヤングケアラー (元ヤングケア ラー含む)への相 談支援の実施	ヤングケアラー (元ヤングケア ラー含む)同士の 交流の場の提供	その他	特にしていない	無回答
新潟県	30	10.0%	3.3%	3.3%	6.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	73.3%

② 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題（複数回答）

要対協において相談、通告のあった子どもや登録されている子どもが「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上で、課題に感じることにについて聞いたところ、「家庭内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい」が全国調査と同様に最も高くなっている。次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が全国調査と同様に高くなっている。「既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない」が4.7ポイント、「介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している」が7.4ポイント、「ケアマネやケースワーカー（CW）、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が10.8ポイント、全国調査に比べそれぞれ高くなっている。

図表－180 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題（複数回答）

	調査数 (n)	地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない	既存のアセスメント項目では、日常生活の様子について踏み込んだ確認ができない	介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している	虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい	ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
全国	923	29.8%	8.6%	15.3%	12.6%	27.1%	77.7%	19.2%	69.7%	4.0%	1.2%
新潟県	30	26.7%	13.3%	16.7%	20.0%	13.3%	86.7%	30.0%	70.0%	6.7%	0.0%



### ③ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、関係機関に期待すること

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、学校やケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待することについて聞いたところ、以下のような回答があった。

#### ア 学校、教育委員会に対して期待すること

##### 《気づく》

- ・ ヤングケアラーの概念や問題に関する授業を実施し、子ども自身が問題に気づくよう促し、相談できる体制の構築。
- ・ 子どもへSOSの出し方を教育（子どもたちへのヤングケアラーの啓発）。
- ・ 身近な教員の気づきが大切であるため全ての教員が研修を受ける体制ができるとよい。
- ・ ヤングケアラーの概念や支援を必要とする子どもであるという認識のもと、早期発見。
- ・ 不登校や遅刻などが家庭での介護が原因になっていないか、という視点でも見てほしい、子どもが家庭でも困っていることがないか声かけをして確認してほしい。
- ・ 登校、児の不安定さ、ネグレクト傾向がないか確認していくこと。
- ・ 学校では児童生徒への教育相談やアンケートで家庭状況を把握していると思うが、ヤングケアラーについても状況を把握していただきたい。
- ・ 学校生活における異変での気づき。
- ・ 子どもからの発信や相談への対応。
- ・ 本人がSOSを出しやすくし、それを受けて家庭の状況などをアセスメントして、要対協へ速やかへ伝えてくれること
- ・ 学校は子どもの様子に変化を感じたときには踏み込んだ状況把握に努め、教育委員会と情報共有する。
- ・ 普段より保護者に対してヤングケアラーについて周知し、必要と思われる場合には要対協に報告する義務があることを伝えてもらう。
- ・ 家庭と良好な関係を構築しある程度の連絡が取れるよう対応してほしい。
- ・ 協議会の事務局が就学前の子どもを扱うことが多い課であるため、学齢期になると子どもの家庭生活の状況が把握しづらい。学校から、児童・生徒家庭生活の状況の情報提供をいただけるとありがたい。

##### 《つなぐ》

- ・ 教諭等がヤングケアラーではないかと気づいた後の組織的な対応を具体的にしておくこと。
- ・ 支援が必要なケースを発見した場合は専門機関に繋いでほしい。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもへの対応方針を決定する主担当機関としての役割。
- ・ 要対協への情報提供、共有、子どもや保護者と他機関のつなぎ（要対協や児童相談所等）。
- ・ ヤングケアラーと思われる児童がいた場合には、早急に要対協調整機関に情報提供を行う。
- ・ 教育委員会や学校は、ヤングケアラー担当の窓口設置を行うとともに、例えば南魚沼市のようにソーシャルスクールワーカーが必要であれば地域包括支援センターや相談支援事業所、医療機関等と連携して支援にあたるなど積極的な関わりを期待します。
- ・ 家庭状況の把握と支援の必要性を関係者と共有。対応検討。

##### 《支える》

- ・ 教諭等がヤングケアラーではないかと気づいた後の組織的な対応を具体的にしておくこと。

- ・ 教育委員会は各地域のケース会議に関係機関の一員として参加し、支援方針の一翼を担ってほしい。
- ・ 子どもへのケア（適切な助言と具体的な支援）。
- ・ 保護者への助言、指導（ヤングケアラーである意識づけ、改善をするための保護者への相談・支援）。
- ・ ケアを担っている子どもたちが相談しやすい環境作り。
- ・ 子どもが褒められたり、認められたりする場面があること。
- ・ 児童への支援。
- ・ 複合的課題が多い家庭が多いため、児が担うケアを減らすだけでは問題解決にならないことが多い。また、サービスも限られる中で、家事やケア量を減らせないこともある。児の負担は見えにくいため学校に児の生活状況の把握、必要時の SC へのつなぎ等、精神的な支えを期待する。
- ・ 家庭背景を理由に学校生活に困難を抱える児童生徒について、学校生活上で可能な配慮等を共に考えていただきたい。

## イ 児童相談所に対して期待すること

### 《気づく》

- ・ ヤングケアラーについての研修会の実施。
- ・ 障害等の方とも関わることもあるためヤングケアラーの視点でも家庭調査を行い、必要な支援をお願いしたい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。発見後の支援の共有。
- ・ アセスメントシートの作成。
- ・ ヤングケアラーに関する研修会の開催や講師としてご指導いただく。
- ・ 県主催で要対協の関係機関を対象にヤングケアラーの研修会等を Zoom 等により実施してほしい。
- ・ 市町村要対協や学校、教育委員会等の関係機関に対し、概念の説明や発見時の支援、関係機関との連携について周知をお願いしたい。

### 《つなぐ》

- ・ 児に関わる情報の共有化を図り、互いに話しやすい関係作りをしていく。
- ・ 市町村との連携及び支援。
- ・ 医療機関との連携について、継続的に実施してほしい

### 《支える》

- ・ 緊急性が高い案件への対応と会議での助言者としての役割。
- ・ 相談、対応の件数が膨大なためか児童相談所が把握している情報が地域協議会に伝わってこない。また、児童相談所としての直接的な支援が少なくなっていると感じる。
- ・ 専門機関としてヤングケアラーへの援助方法を構築し、市町村や関係機関支援としての役割を期待する。
- ・ 児童相談所からは専門的な立場から、指導助言をしてほしい。
- ・ ヤングケアラーの程度によっては一時保護をしてほしい。
- ・ ヤングケアラー支援についての助言や対応。
- ・ 常に必要な助言、指導、介入。
- ・ 対応方法に関する助言。
- ・ 子ども本人や周囲からの通報によりヤングケアラーと思われる子どもの情報をつかんだら、他機関と連携して支援につなげてほしい。子どもの相談相手になってほしい。
- ・ ヤングケアラーの児童、保護者への指導。

- ・ 専門機関としてヤングケアラーである子どものケアができるような体制作り。
- ・ ヤングケアラーの認識がない親子への介入。
- ・ 対応が困難なケースへの助言及び支援。
- ・ ケアが必要な家族があった場合、対応、支援についてご指導いただきたい。
- ・ 専門職による、相談支援、現地訪問。

## ウ 保育所、幼稚園などに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ 児童から家での様子の聞き取り。
- ・ 毎日子どもが通っている所属で、いち早く状態を察知してほしい。気になることがあれば要対協（健康福祉課）に連絡してほしい。
- ・ ヤングケアラーの概念や問題を理解し、組織として早期発見や早期に支援につなぐ体制の構築を期待する。
- ・ 子どもの日常会話の中から、家庭の状況や様子を感じ取り、保護者との関係の中で情報を確認してもらいたい。
- ・ 現場で対象の子どもの話を聞いてほしい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。
- ・ 子どもの見守り、情報共有。
- ・ 子どもの発言などからの情報把握。
- ・ 幼いきょうだいの送迎をする子がいたら、気をつけて目配りしてほしい。
- ・ 家庭で困っていることがないか声かけをして確認してほしい。
- ・ ヤングケアラーに対する認識を持ち、ヤングケアラーと思しき状況があった場合には、保護者に確認を行うとともに、児童が児童の世話をすることは心配される状況であることを伝えてもらう。
- ・ ヤングケアラーという視点があることを知ってもらいたい。
- ・ きょうだいの世話をしている子がいたら、情報提供をいただく。
- ・ 実態が見えにくいためまずは実態把握をお願いしたい。
- ・ 気づきが大切であるため、研修を受ける体制ができるとよい。
- ・ ヤングケアラーの認識を深め、子ども・家庭の状況を見守っていただきたい。
- ・ 家庭状況の把握と支援の必要性を関係機関と共有。
- ・ 保護者の様子の変化やその背景など、保護者を通じた家庭状況の把握をお願いしたい。
- ・ 保育園における異変での気づき。

### 《つなぐ》

- ・ 他機関へのタイムリーな情報提供。
- ・ 保護者への必要なサービスや相談窓口へのつなぎ。
- ・ 要対協への情報提供・共有・保護者へのつなぎ。
- ・ ヤングケアラーと思われる児童がいた場合には、早急に要対協調整機関に情報提供を行う。
- ・ 保護者に対する支援としてサービス利用等の情報提供。
- ・ 支援が必要なケースを発見した場合は専門機関につないでほしい。
- ・ 年下のきょうだいの世話などで、自らの育ちや教育に影響を及ぼしているような（ヤングケアラー）事例を確認した場合は、要対協に情報提供していただきたい。

### 《支える》

- ・ 保護者支援。
- ・ 子どもの見守り。

- ・ 時間外保育の活用（園にいる滞在時間を増やす）ができる柔軟な対応。
- ・ ヤングケアラーの負担軽減に繋がる働きかけ。
- ・ 家庭で困っていることがないか声かけをして確認してほしい。
- ・ 家庭状況などを把握し支援的な対応をすることで、保護者が隠さずに相談できる関係になってほしい。
- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、思いを聞くことや、感じ取れるようにしてほしい。

## エ 保健センターに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ ヤングケアラーの概念や問題を理解し、組織として早期発見や早期に支援につなぐ体制の構築を期待する。
- ・ ヤングケアラーの認識を持って対象となる家庭を見て、発見してほしい。
- ・ 家庭訪問で子どもが居たときは声かけをしてほしい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。
- ・ 家族によるケアは誰がどの位担っているのか、それは子どもにとって適切なのか、状況を確認してほしい。
- ・ 家庭状況の把握、家庭支援。
- ・ 保護者の精神疾患への関わりや医療的ケア時への支援など、妊娠期から継続した関わりと予防的視点を持った介入。
- ・ 精神疾患の家族の状態の把握、それによつての家族への影響なども含めアセスメントしてほしい。
- ・ 定期健診等における異変での気づき。
- ・ 家庭状況の把握に務め、家庭内の役割を子どもの権利を侵すことがないか関心を持ってみてほしい。

### 《つなぐ》

- ・ 他機関へのタイムリーな情報提供。
- ・ 支援が必要なケースを発見した場合は専門機関に繋いでほしい。
- ・ 情報や支援の共有。
- ・ 各関係機関との連絡、調整、情報共有。
- ・ 医療機関との情報共有。適切な指導、助言を求め、サービス導入に向けての支援。
- ・ 関係機関との連携した関わり。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合には早急に要対協調整機関に情報提供を行う。
- ・ 市の保健師や県の保健所と連携しヤングケアラーも含め特に精神疾患の家族についての情報共有をしたい。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもが居た場合、要対協事務局への情報提供をお願いしたい。
- ・ 必要に応じ、同行訪問やケース会議への出席をお願いしたい。
- ・ 家族状況を把握し行政機関への情報共有や支援対策の協力。
- ・ 家庭訪問や乳幼児検診等で把握した場合、家庭状況の把握と助言及び必要時支援（相談サービスや関係機関等につなげる）をする。

### 《支える》

- ・ 支援者として家庭とつながりながら、子どもへの支援策を関係者と協議すること。
- ・ 家庭訪問することで、相談しやすい関係を構築し、家庭の状況を常に確認できるようにする。

- ・ 家族支援（指導）。
- ・ ヤングケアラーの負担軽減に繋がる働きかけ。
- ・ 専門職による相談支援、現地訪問。
- ・ 一人親世帯で親に精神疾患がある場合、同居していれば世話とまで行かなくとも子どもが気にかけて情緒的に不安定になる可能性がある。家庭への訪問や病院との連携時に家庭全体の状況に配慮し対応を願いたい。
- ・ 精神疾患当事者が適切な医療や障害サービスを利用しているかの確認と利用調整。

## オ ケアマネなどに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ ケアマネジャーが関わる高齢者、認知症の家族介護等をしているヤングケアラーの実態等についての情報は把握できていない（問題発生時には確認するが）。
- ・ ヤングケアラーの概念や問題を理解し、組織として早期発見や早期に支援につなぐ体制委の構築を期待する。
- ・ 家庭訪問で子どもがいたときは声かけをしてほしい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。
- ・ ヤングケアラーの概念の理解、意識を持つ。
- ・ 訪問時における異変での気づき。
- ・ 家族の役割として役割を担う子どもがいるのか、期待してしまっているところはないか、子どもの権利の侵害の視点で見たい。

### 《つなぐ》

- ・ 情報の共有。
- ・ 支援が必要なケースを発見した場合は専門機関につないでほしい。
- ・ 関係機関との情報共有、連携、調整。
- ・ ヤングケアラーと思われる児童がいた場合には、早急に要対協調整機関に情報提供を行う。
- ・ ヤングケアラーと思われる状況にあれば、関係機関に連絡をお願いしたい。その後、子どもと本来の介護者から話を聞いていただき、担当に連絡または相談先を紹介してもらいたい。
- ・ 対象となる高齢者だけでなく、家族単位の視点を持ってアセスメントを行い、必要に応じて要対協に情報をつなげてほしい。

### 《支える》

- ・ サービス調整。
- ・ 支援の共有。
- ・ ヤングケアラーの負担軽減に繋がる働きかけ。
- ・ 継続的に相談にあたり、子どもが学校生活を無理なく送れるよう、介護サービスの組み合わせ等を提案してほしい。
- ・ ヤングケアラーの状況があれば、改善するための調整や支援をしてほしい。また、行政や他機関への適切な情報提供をしてほしい。
- ・ 高齢者の介護サービス適切な確認、利用調整。
- ・ 市の介護保険担当を通じ、ケアマネが高齢者介護の支援計画を立てる際にヤングケアラーの観点での支援も考慮していただきたい。
- ・ 必要に応じ同行訪問やケース会議への同席をお願いしたい。
- ・ 家族状況を把握し行政機関への情報共有や支援対策の協力。
- ・ 子どもが介護等を担っている場合、協力的、頑張ってくれていると好意的に捉えるだけで

なくお手伝いの範囲を超え、負担が多くないかという視点を持ち、訪問など対応を行ってほしい。また子どもの負担が多い場合、親族支援者と相談する等子どもへの負担過多についても相談を行ってほしい。

- ・ サービスの導入、紹介。

## カ 相談支援事業所などに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ ヤングケアラーの認識を持って対象となる家庭を見て発見してほしい。
- ・ 家庭訪問で子どもがいた時は声かけをしてほしい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。
- ・ ヤングケアラーの概念の理解・意識を持つ。
- ・ 通所時における異変での気づき
- ・ 家庭内でどのように過ごしているが、子どもの役割や気持ちに寄り添って患者を見てほしい。またヤングケアラーの危惧があれば連絡を入れてほしい。

### 《つなぐ》

- ・ 情報の共有。
- ・ ヤングケアラーの概念や問題を理解し組織として早期発見や早期に支援につなぐ体制の構築を期待する。
- ・ 支援が必要なケースを発見した場合は専門機関につないでほしい。
- ・ 関係機関と連携、調整。
- ・ ケース（家族）のコーディネート。
- ・ ヤングケアラーと思われる状況にあれば、関係機関に連絡をお願いしたい。その後子どもと本来の介護者から話を聞いていただき、担当に連絡または相談先を紹介してもらいたい。
- ・ 障害児者の相談支援の中でヤングケアラーの事例があれば、要対協に情報提供していただきたい。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、要対協事務局や子育て世代包括支援センター、障害福祉担当部局への情報提供をお願いしたい。
- ・ 必要に応じ同行訪問やケース会議への同席をお願いしたい。
- ・ ヤングケアラーと思われるケースを把握した際の要対協への情報提供。
- ・ 家族状況を把握し行政機関への情報共有や支援対策の協力。
- ・ 対象となる障害者だけでなく、家族単位の視点を持ってアセスメントを行い、必要に応じて要対協に情報をつなげてほしい。
- ・ ヤングケアラーと思われる児童がいた場合には、早急に要対協調整機関に情報提供を行う。

### 《支える》

- ・ サービス、支援の調整、共有。
- ・ 関係機関との連携した関わり。
- ・ ヤングケアラーの負担軽減に繋がる働きかけ。
- ・ 訪問等を通して相談を行うことで、家族の抱えている問題を掘り起こし、適切な情報の提供や福祉サービスを受ける手助けをしてほしい。
- ・ 精神疾患等の家族のお世話は子どもが担うものではないことを説明し、ヤングケアラーの状況があれば改善するための調整や支援をしてほしい。また、行政や他機関へ適切な情報提供をしてほしい。
- ・ 福祉サービスが利用できるよう環境が整い、よい連携が図れている。これからも継続した

い。

- ・ 精神疾患当事者が適切な医療や障害サービス利用を利用しているかの確認と利用調整。
- ・ 子どもが介護等に担っている場合、協力的、頑張ってくれていると好意的に捉えるだけでなくお手伝いの範囲を超え、負担が多くないかという視点を持ち、訪問など対応を行ってほしい。
- ・ 家族に積極的にサービスの情報提供と、利用に繋がる支援をお願いしたい。
- ・ 専門職による相談支援、現地訪問。

## キ 医療機関などに期待すること

### 《気づく》

- ・ ヤングケアラーの概念や問題を理解し、組織として早期発見や早期に支援につなぐ体制の構築を期待する。
- ・ 患者本人から家庭での生活の様子を聞き、子どもが居る家庭はヤングケアラーの認識を持ってみてほしい。
- ・ 早期発見や把握のための取り組み。
- ・ 通院時における異変での気づき。
- ・ 家庭内でどのように過ごしているか、子どもの役割や気持ちに寄り添って患者を診てほしい。またヤングケアラーの危惧があれば連絡を入れてほしい。

### 《つなぐ》

- ・ 情報の共有。
- ・ 母の体調等について保健師との情報共有を図ってもらいたい。
- ・ 支援を必要としているケースを発見した場合は専門機関へつないでほしい。
- ・ 各関係機関への情報提供。
- ・ ヤングケアラー状態となっている家庭を発見した場合に児童相談所に通告する。
- ・ ヤングケアラーと思われる児童がいた場合には早急に要対協調整機関への情報提供を行う。
- ・ 医師や看護師が患者やその家族に接する中で心配があれば担当に早めに連絡をもらいたい。
- ・ 児の負担軽減のため親族の受診同行や地域の保健師へのつなぎなど行ってほしい。
- ・ ヤングケアラーの認識や視点を持ち、心配な子どもや家庭について早めに情報提供していただきたい。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合要対協事務局や子育て世代包括支援センター、障害者福祉担当部局への情報提供をお願いしたい。

### 《支える》

- ・ サービス、支援の調整、共有。
- ・ 医療に関する調整（内服、入院、家庭生活に関する助言等）
- ・ 支援者への助言。
- ・ 医師からの助言、指示、アドバイス。
- ・ ヤングケアラー負担軽減に繋がる働きかけ。
- ・ 病気や今後の見通しについて、子どもが理解できるよう伝えてほしい。そして子ども一人で負担するのではなく、助けてくれる機関を紹介またはつなげてほしい。
- ・ 精神疾患等の家族のお世話は子が担うものではないということを医学的に説明し、必要な関係者や社会資源の活用を促す。
- ・ 精神疾患当事者が適切な医療や障害サービスを利用しているかの確認と利用調整。
- ・ 必要に応じケース会議への同席をお願いしたい。

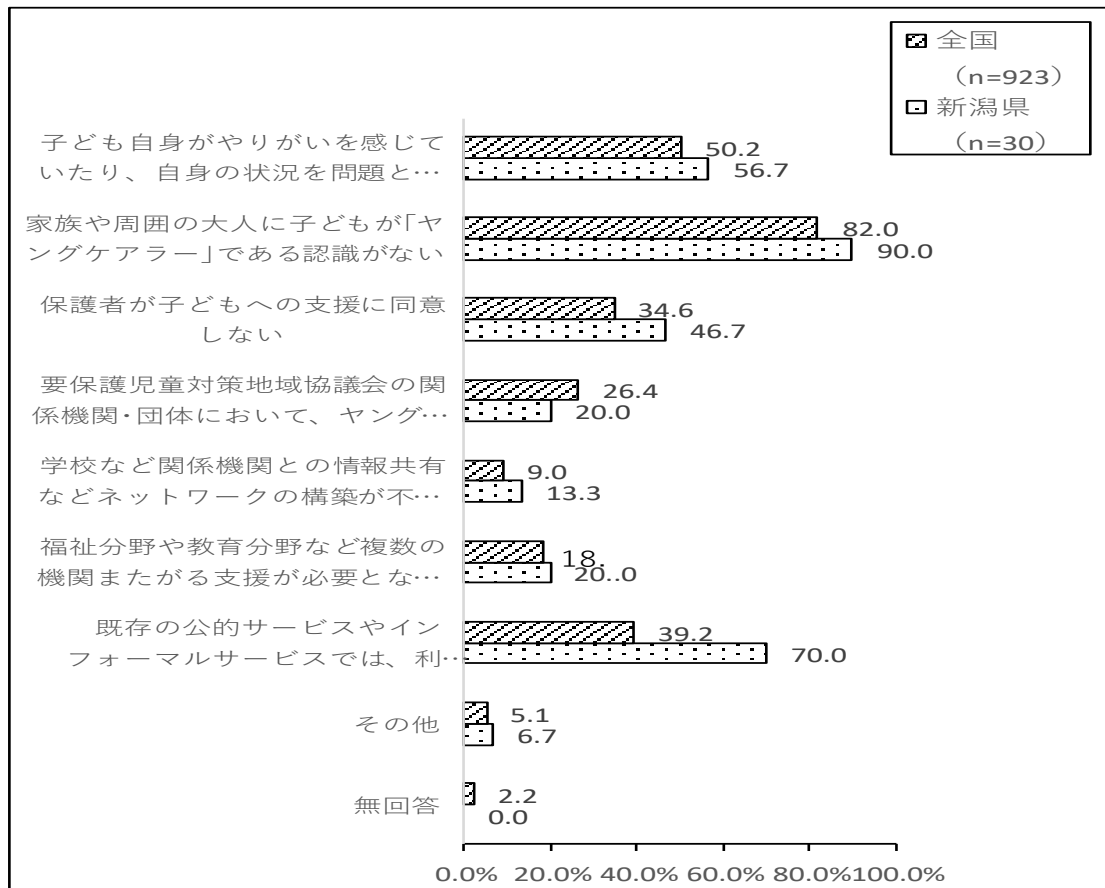
- ・ 子どもの心のケア。
- ・ 家庭状況を把握し、行政機関への情報共有や支援対策の協力。
- ・ 専門職による相談支援、現地訪問。
- ・ ヤングケアラーと思われる子どもがいたら情報提供や家庭の対応を連携して実施していきたい。
- ・ 受診時に子どもへの負担が大きいと思われる場合、患者に、子どもへ負担をかけすぎている状況はよくないことを伝えてほしい。子どもの負担軽減のため、親族の受診同行や地域の保健師へのつなぎなど行ってほしい。

④ 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題（複数回答）

要対協において「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して支援する際に課題として考えられることについて聞いたところ、「家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない」が全国調査と同様に最も高くなっている。「既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい」が全国調査に比べ 30.8 ポイント高くなっている。「保護者が子どもへの支援に同意しない」が全国調査に比べ 12.1 ポイント高くなっている。

図表-181 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題（複数回答）

	調査数 (n)	子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない	家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない	保護者が子どもへの支援に同意しない	要保護児童対策地域協議会の関係機関・団体において、ヤングケアラーに関する知識が不足している	学校など関係機関との情報共有などネットワークの構築が不十分	福祉分野や教育分野など複数の機関またがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートでできる人材が地域協議会にいない	既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい	その他	無回答
全国	923	50.2%	82.0%	34.6%	26.4%	9.0%	18.4%	39.2%	5.1%	2.2%
新潟県	30	56.7%	90.0%	46.7%	20.0%	13.3%	20.0%	70.0%	6.7%	0.0%

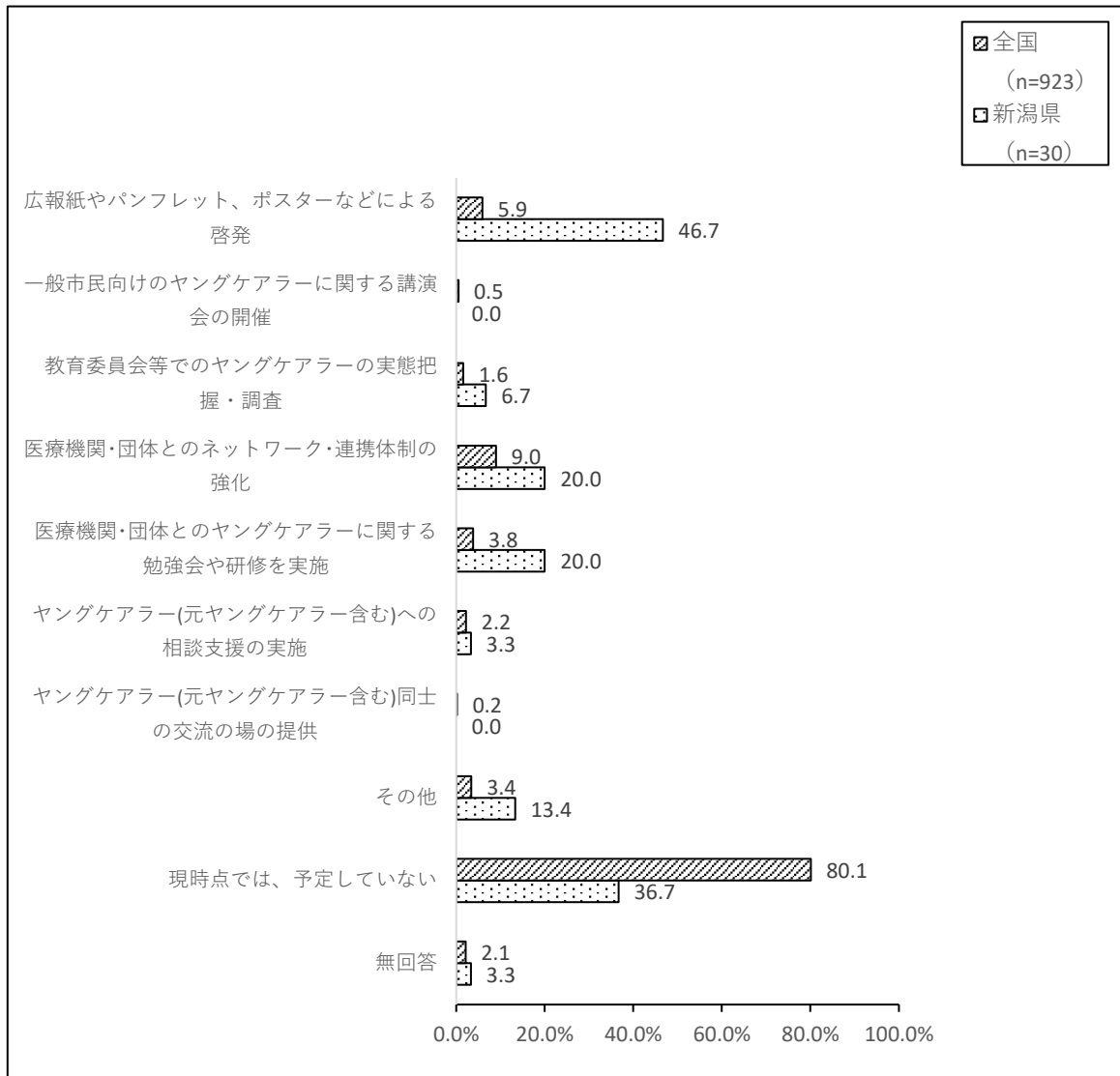


⑤ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として次年度の取り組み（複数回答）

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、次年度に取り組む予定のものについて聞いたところ、「広報誌やパンフレット、ポスターなどによる啓発」が全国調査に比べ 40.8 ポイント高くなっている。また「現時点では予定していない」が全国調査に比べ 43.4 ポイント低くなっている。

図表-182 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として次年度の取り組み（複数回答）

	調査数 (n)	広報誌やパンフレット、ポスターなどによる啓発	一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催	教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査	医療機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化	医療機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修を実施	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）への相談支援の実施	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	その他	現時点では、予定していない	無回答
全国	923	5.9%	0.5%	1.6%	9.0%	3.8%	2.2%	0.2%	3.4%	80.1%	2.1%
新潟県	30	46.7%	0.0%	6.7%	20.0%	20.0%	3.3%	0.0%	13.3%	36.7%	3.3%

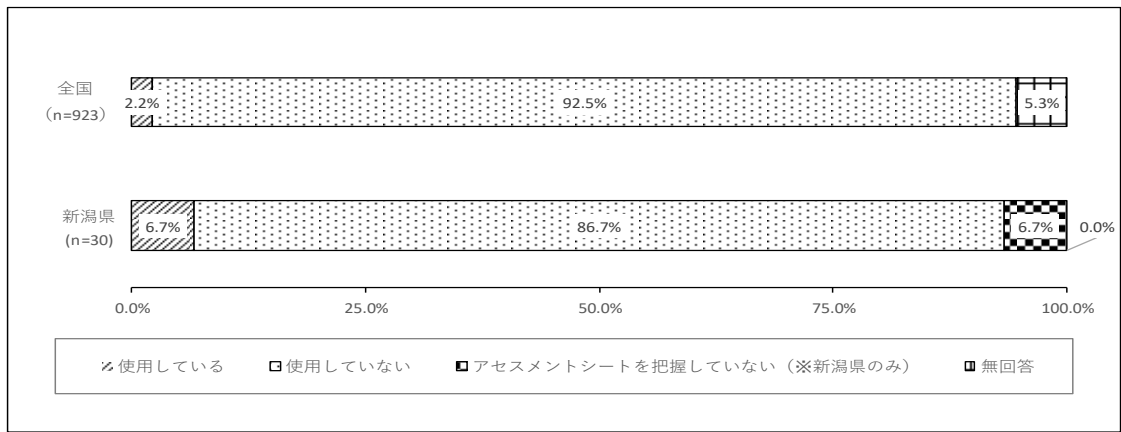


⑥ 「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」の使用の有無

要対協において、「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」の使用の有無について聞いたところ、「使用している」は全国調査に比べ4.5ポイント高く、「使用していない」は全国調査に比べ5.8ポイント低くなっている。また「アセスメントシートを把握していない」が新潟県で6.7%であった。

図表-183 「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」の使用の有無

	調査数 (n)	使用している	使用していない	アセスメントシートを把握していない (※新潟県のみ)	無回答
全国	923	2.2%	92.5%		5.3%
新潟県	30	6.7%	86.7%	6.7%	0.0%



⑦ 「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」について

「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」を「使用している」と回答した2か所の要対協ともアセスメントシートを「そのまま使用している」と回答した。

図表-184 「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」について

	調査数 (n)	そのまま使用している	貴地域協議会の状況に合わせて項目をアレンジして使用している	無回答
全国	20	85.0%	15.0%	0.0%
新潟県	2	100.0%	0.0%	0.0%

## VI. 児童相談所に関するアンケート調査結果

---

### 第1章 児童相談所調査 調査概要

(1) 調査対象

県内の児童相談所 6カ所（有効回答数 6カ所 回答率 100.0%）

(2) 回答方法

書面にてアンケート調査

(3) 実施時期

令和3年8月30日から10月8日まで

(4) 回収状況

県内の児童相談所 6カ所（有効回答数 6カ所 回答率 100.0%）

## 第2章 児童相談所アンケート調査 調査結果

### (1) 児童相談所の概要

児童相談所におけるケース登録件数

図表-185 児童相談所におけるケース登録件数

	児童福祉司指導 措置ケース登録数	継続指導ケース 登録数	調査中ケース 登録数
令和3年8月1日実績	283	276	769

### (2) ヤングケアラーについて

#### ① 「ヤングケアラー」と思われる子どもの登録件数

図表-186 「ヤングケアラー」と思われる子どもの登録件数

調査数 (n)	「ヤングケア ラー」と思われる 子ども数が0人	「ヤングケアラー」と思われる子どもが1人以上いる			無回答	合計
		1～5人	6～10人	11人以上		
6	1児相 (0件)	4児相 (11件)	1児相 (9件)	0 (0件)	0	20件

#### ② ヤングケアラーという概念の認識の有無

「ヤングケアラー」という概念の認識の有無について、全6児相が「認識している」または「昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」と回答した。

図表-187 ヤングケアラーという概念の認識の有無

調査数 (n)	認識している	昨年までは認識し ていなかったが、 認識するようにな った	認識していない	無回答
6	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%

### ③ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握について「把握している」が 83.3%であった。

図表－188 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握

調査数 (n)	把握している	ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	現在該当する子どもがいない	無回答
6	83.30%	0%	16.70%	0%

### ④ 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握の方法（複数回答）

「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態把握の方法について「関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に「ヤングケアラー」として対応している」が 60%であった。「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している」が 40%であった。

図表－189 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態の把握の方法（複数回答）

調査数 (n)	アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している	その他	無回答
6	0.0%	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%

## (3) 児童相談所におけるヤングケアラーに関する取組について

### ① 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定するプロセス

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定するプロセスを聞いたところ「他の要保護（要支援）児童と同じ対応」が 83.3%、「特に決まっていない」が 16.7%であった。

図表－190 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定するプロセス

調査数 (n)	他の要保護(要支援)児童と同じ対応	他の要保護(要支援)児童とは別に決めている	その他	特に決まっていない	無回答
6	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%

② 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫されていることの有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもの対応のため、学校との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が83.3%、「ある」が16.7%であった。

図表－191 学校との連携で工夫されていることの有無

調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
6	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%

③ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、市町村との連携で工夫していることの有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもの対応のため、市町村との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が83.3%、「ある」が16.7%であった。

図表－192 市町村との連携で工夫していることの有無

調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
6	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%

④ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、医療機関との連携で工夫されていることの有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもの対応のため、医療機関との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が83.3%、「ある」が16.7%であった。

図表－193 医療機関との連携で工夫されていることの有無

調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
6	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%

⑤ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫されていることの有無

「ヤングケアラー」と思われる子どもの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無について聞いたところ、「特にない」が83.3%、「ある」が16.7%であった。

図表－194 通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫していることの有無

調査数 (n)	ある	特にない	その他	無回答
6	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%

⑥ 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題（複数回答）

「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題について聞いたところ、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が83.3%、「介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などとの情報の共有が不足している」、「家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい」がそれぞれ66.7%、「ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している」が50%であった。

図表－195 「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上での課題（複数回答）

調査数 (n)	地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない	既存のアセスメント項目では、日常生活の様子について踏み込んだ確認ができない	介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などとの情報共有が不足している	虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい	ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	その他	無回答
6	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%	33.3%	66.7%	50.0%	83.3%	0.0%	0.0%

⑦ 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題（複数回答）

「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題について聞いたところ、「家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない」、「福祉分野や教育分野など複数の機関がまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材が地域協議会にいない」が 66.7%であった。

図表－196 「ヤングケアラー」と思われる子どもを支援する際の課題（複数回答）

調査数 (n)	子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない	家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない	保護者が子どもへの支援に同意しない	要保護児童対策地域協議会の関係機関・団体において、ヤングケアラーに関する知識が不足している	学校など関係機関との情報共有などネットワークの構築が不十分	福祉分野や教育分野など複数の機関がまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材が地域協議会にいない	既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方策を検討しにくい	その他	無回答
6	50.0%	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%	50.0%	16.7%	0.0%

⑧ 「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、関係機関に期待すること

「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、学校やケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待することについて聞いたところ、以下のような回答があった。

ア 学校、教育委員会等に対して期待すること

《気づく》

- ・ヤングケアラーの発見（身なり、生活態度等）。
- ・ヤングケアラーと思われる本人の話をよく聞き、生活状況を確認すること。
- ・ヤングケアラーの視点を持って発見に努めていただき、要対協への連絡、つなぎにご協力いただければと思います。
- ・調査や聞き取りにおいて、子どもから発信できる質問項目の増設。

《つなぐ》

- ・関係機関との連携。
- ・他の関係機関への情報提供と支援方針、役割分担の協議。
- ・他の支援機関へのつなぎ、サービス等導入の依頼。

《支える》

- ・心配される生徒には、実際はヤングケアラーという側面だけでなく、同時に低所得・貧困、保護者の精神疾患、家族介護、家庭不和や DV、不適切養育を問題と感じない特異な文化等の様々な背景を複合的に抱えている事案も多く、支援には様々な機関によりチームアプローチが必要となるため、学校という場がチーム支援の「プラットフォーム」として機能するように、ヤングケアラー対応における SSW（スクールソーシャルワーカー）の位置づけの整理やその配置の充実を期待する。
- ・実態の把握と当該機関で可能な支援の実施。
- ・支援可能な近隣・親族等の有無の確認とある場合の働きかけ。

## イ 市町村に対して期待すること

### 《気づく》

- ・家庭状況の把握。
- ・子ども家庭相談の第一線としてヤングケアラーの視点を持って家庭状況の把握をしていただきたい。

### 《つなぐ》

- ・関係機関との連絡調整。
- ・必要に応じヤングケアラーに代わるサービスの導入に向けて関係機関と調整いただければと思います。
- ・保健、福祉（児童、障害、高齢）、医療、教育など複数分野にまたがる支援が必要となるため、市町村要対協にはそうした支援のコーディネートを期待する。
- ・情報共有、ケース会議などネットワーク作りを積極的・主体的にしてほしい。

### 《支える》

- ・要対協の対象である「要保護児童等」にはヤングケアラーも重なる部分もあるが、市区町村の要対協事務局だけでヤングケアラーという広い概念の対象を全て把握・対応・管理することは困難である。将来的にヤングケアラー・コーディネーターの配置などの体制整備ができるまでは、当面は市区町村のいずれかの部署が実態把握や啓蒙の役割を担うことを期待したい。また、要対協構成員に介護部門のメンバーがいない場合は、新たに構成員に追加する等の柔軟な対応が望まれる。

## ウ 保育所、幼稚園などに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ヤングケアラーの発見（きょうだいの送迎をしている、面倒をよく見ている等）

### 《つなぐ》

- ・関係機関との連携（ヤングケアラーの状況を発見した場合に、要対協事務局に報告する等）。
- ・ケアが必要な家族の世帯に子どもがいる場合には、子どもへの支援が必要なことも踏まえ、関係機関との連携をお願いしたい

### 《支える》

- ・園児の養育が兄姉に任されているような状況や、将来的に園児がヤングケアラーになる可能性があるような脆弱な家族状況を把握した場合、市区町村との情報の共有、継続的な見守り（モニタリング）、深刻化する前の予防的関わりとしての親支援・親教育等をできる範囲で担ってもらいたい。

## エ 保健センターに対して期待すること

### 《気づく》

- ・様々なリスク要因を抱えている家庭に対して、アセスメントシートを活用するなどにより、ヤングケアラーの視点を持ちながら関わる。

### 《つなぐ》

- ・精神疾患の家族やきょうだいの世話をしている状況が確認されたら、関係機関と連携する。
- ・ヤングケアラーの視点を持って家庭状況の把握をしていただき、必要に応じヤングケアラーに代わるサービスの導入に向け、関係機関への連絡、つなぎをしていただければと思います。
- ・ケアが必要な家族の世帯に子どもがいる場合には、子どもへの支援が必要なことも踏まえ、関係機関との連携をお願いしたい。

## 《支える》

- ・ヤングケアラーと思われる児童の、家族の世話の軽減を行う。
- ・リスクが深刻化しないよう予防的関わりやモニタリングを継続的に行い、寄り添い、必要に応じて他機関との情報共有やチーム支援のコーディネートを担当してもらいたい。

## オ ケアマネなどに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ヤングケアラーの発見（家族の面倒をよく見ている等）。
- ・介護度の高さに応じた家族の介護状況のアセスメントの際に、子どもに対して「一般的な子どものお手伝い」の範疇を超えた介護ケアが求められていないかアセスメントシートを活用するなどして注意深く査定してもらいたい。
- ・家族構成、職業などから推察できる視点、見立てでの情報。

### 《つなぐ》

- ・ケアが必要な家族の世帯に子どもがいる場合には、子どもへの支援が必要なことも踏まえ関係機関（要対協事務局等）と連携をお願いしたい。
- ・子どもが所属する学校や教育委員会、市町村の児童福祉部門と迅速に情報共有すると同時に、介護・教育・福祉等が有機的に連携したチーム支援がスムーズにできる関係性の構築・維持をしてもらいたい。

## 《支える》

- ・適切なサービス利用に向けて支援してほしい。

## カ 相談支援事業所などに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ヤングケアラーの発見（家事をしている、家族の面倒をよく見ている等）。
- ・アセスメントシートを活用するなどして注意深く査定し、不適切な養育状況（ヤングケアラーの疑い等）を把握した場合は、児童福祉法第 21 条に則した対応（要支援児童等と思われる物を把握した際は、その保護者や児童の同意がなくとも市区町村に対して情報提供に努めること）をお願いしたい。
- ・感情面のケアを過度に担っていることがないか、家族状況の把握をしていただきたい。
- ・リスクの高い世代として、これまでの特記情報。

### 《つなぐ》

- ・ケアが必要な家族の世帯に子どもがいる場合には、子どもへの支援が必要なことも踏まえ関係機関（要対協事務局等）と連携をお願いしたい。
- ・子どもが所属する学校や教育委員会、市町村の児童福祉部門と迅速に情報共有すると同時に、介護・教育・福祉等が有機的に連携したチーム支援がスムーズにできる関係性の構築・維持をしてもらいたい。

## 《支える》

- ・夜間・休日に障害のある家族が不安定になった時にヤングケアラーが対応しなくて済むような相談体制の構築。
- ・適切なサービス利用に向けて支援してほしい。

## キ 医療機関などに対して期待すること

### 《気づく》

- ・ヤングケアラーの発見（通院介助、家族の面倒をよく見ている等）。
- ・アセスメントシート等で組織的にアセスメントを行い、不適切な養育状況（家族の入院・

通院・治療の際の家事代替、家族の投薬と服薬管理、コミュニケーションに支障がある家族の通訳、身辺介助・移動介助、きょうだいの世話、子どもだけで夜間過ごす等、子供らしい生活が送っていない状況）を把握した場合は、児童福祉法第 21 条に則した対応（要支援児童等と思われる物を把握した際は、その保護者や児童の同意がなくとも市区町村に対して情報提供に努めること）をお願いしたい。

- ・感情面のケアを過度に担っていることがないか、家族状況の把握をしていただきたい。

#### 《つなぐ》

- ・ケアが必要な家族の世帯に子どもがいる場合には、子どもへの支援が必要なことも踏まえ関係機関（要対協事務局等）と連携をお願いしたい。

#### 《支える》

- ・夜間・休日に障害のある家族が不安定になった時にヤングケアラーが対応しなくて済むような診療・相談体制の構築。

### ⑨ 「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」の使用の有無

「「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート」は全 6 児相とも使用していない。

図表-197 アセスメントシートの使用の有無

調査数 (n)	使用している	使用していない	アセスメントシートを把握していない	無回答
6	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

### ⑩ 市町村へケースの支援を引き継ぐにあたっての対応

児童相談所における、市町村へケースの支援を引き継ぐにあたっての対応について聞いたところ、以下のような回答があった。

#### ア 引き継ぐ時期

- ・児相での調査や支援を行い、会議で市町村への引き継ぎが適当とされた時期。
- ・深刻な虐待の再発がないと判断される状況となった時。
- ・調査終了時、児童相談所の支援終了時。
- ・個々のケースに応じて地域での支援体制が整えられた時期。
- ・調査終了後。
- ・判定会議や援助方針会議で、所内の方針を決定する前後。

#### イ 引き継ぐ方法

- ・個別支援会議、ケース協議等。
- ・対面により指導経過、現状のアセスメント及び今後の方針等を説明の上、同行訪問により顔合わせを行う。引き継ぎ後、要対協実務者会議等でフォローを行う。
- ・ケースの重症度やニーズに応じ、電話、ケース会議、児相継続中から並行支援等で引き継いでいる。

- ・ 要対協個別ケース会議を開催し、引き継ぐ。
- ・ 電話・ケース会議などで口頭により方法。
- ・ カンファレンス、電話、機関訪問等。

## VII. ヤングケアラーへの対応に関するインタビュー調査結果

### 第1章 調査概要

#### (1) 調査対象

- 公立中学校 2 箇所
- 公立全日制高等学校 2 箇所
- 定時制高等学校 1 箇所
- 通信制高等学校 1 箇所
- 居宅介護支援事業所 2 箇所
- 障害者相談支援事業所 1 箇所
- 市町村要保護児童対策地域協議会調整機関 2 箇所
- 児童相談所 1 箇所

#### (2) 調査方法

対面、電話、オンラインにより、各支援機関におけるヤングケアラーと思われる児童・生徒への対応について聞き取りを行った。

#### (3) 実施時期

令和3年12月から令和4年3月まで

### 第2章 調査結果

#### (1) 公立中学校①

対応事例	《事例の概要》 ○母の通院付添い及び家事を担う中学生女子 ・家族：父母、本児 ・本児は遅刻・欠席が多かった。 ・中学1年の後半から、家庭での食事作りや、母の通院の付き添いなどをしていった。
校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携	《発見・支援までの経過》 ・教育相談において、本児が母に対する困り感を担任教諭に伝えたことから、担任教諭はこれまでの欠席や遅刻についても家庭での問題が背景にあるのではないかと推測した。
「気づく」 「つなぐ」	《校内の情報共有体制》 ・週1回、不登校対策部会を設定。同会議には、校長、教頭、主幹、指導主事、不登校対策主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、通級担当、心の相談員（市）、SC、SSWが参加。 ・職員、参加者間において、上記体制に対する負担感は見られなかった。本児への効果的な支援につながったり、関係機関からの意見を直に聞けたりするなど、部会がポジティブに受け止められていることが要因であった。

	<p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策部会には市職員が参加することから、各機関への情報共有が円滑にできた。「気づく」と「つなぐ」が同時展開されていた。</li> </ul>
支援体制・取組 「支える」	<p>《児童本児への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の気持ちではなく、本児の気持ちを最優先に支援した。</li> <li>・学級編制上の配慮を行った。</li> <li>・家庭からの電話は、学年部で対応する者を決め、負担が集中しないようにした。</li> <li>・家庭からの情報をすぐに関係機関へ伝え、迅速対応につながった。</li> </ul> <p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SCは母親と月1回継続的に面談し、情報は不登校対策部会を通して迅速に共有され、関係機関による家庭状況の把握が進んだ。</li> <li>・SCの存在が、母親の精神的な支えとなった。</li> <li>・SSWは、市の担当部署に対するアドバイザーや、関係機関の取りまとめ役を担った。</li> </ul>
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校職員だけの支援検討では不十分である。市をはじめとした関係機関が入り、関係者で知恵を出し合うことが大切である。</li> <li>・不登校対策部会の時間を授業時間割に明確に位置付けることは、継続的な支援を行うために効果的である。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラー概念を知らないと、生徒の状況に気づくことができない。</li> <li>・ヤングケアラー概念の認知度を上げる取組が必要である。</li> </ul>
成果・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が食事づくり等家事を行う機会は、明らかに減少した。</li> <li>・家庭での家事負担が減り、本児は生き生きとした表情で過ごすことが増えた。</li> <li>・進学先の高校に配置されているSCと本児とは既知であり、高校への引継ぎ、連携は円滑に進んだ。</li> </ul>

(2) 公立中学校②

<p>対応事例</p>	<p>《事例の概要》</p> <p>○母の精神的ケア、幼い弟のケアを担う中学生男子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：父母、本児、弟</li> <li>・母に自傷行為があり、精神的なケアが必要であった。</li> <li>・弟が生まれて以降、本児が幼い弟のおむつ替えなど育児に携わっていた。</li> <li>・母子の共依存関係が見られた。</li> </ul>
<p>校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が小学生の際に市要対協による家庭支援の動きがあったが、母親の拒否感が強く、継続的な支援は実現しなかった。</li> <li>・市のSSWが関与し、組織的な支援が始まった。</li> <li>・中学校では、小学校からの引継ぎにより、入学当初から事情を把握していた。入学後まもなく、本児が家庭の状況など様々な悩みを吐露するようになり、本格的な学校の支援が始まった。</li> </ul> <p>《校内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校入学時から、SSWとの連携は始まっていた。</li> <li>・週1回、定期的に不登校全般に係る会議を開催し、校長・教頭・養護教諭、SC、若者支援相談員等による情報共有や対策会議を実施した。</li> <li>・会議で得られた情報については、全校職員で共有した。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回程度、学校と市要対協とが情報を共有し、連携されてきた。</li> <li>・SSWの意見を参考に、教育委員会を經由して、他機関と連携した。</li> </ul>
<p>支援体制・取組</p> <p>「支える」</p>	<p>《児童生徒への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では、適応指導教室で対応し、担任だけでなく、養護教諭や様々な教諭が直接生徒に対応する場面もあった。</li> <li>・学校では、本児の話や気持ちを傾聴し、共感を示すことで、本児が自分で物事を決められるように支援した。</li> <li>・市の福祉担当課が、家事負担の軽減など直接的に家庭への支援を働きかけた。</li> </ul> <p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWが本児及び母親と面談を重ね、医療機関へ受診同行するなど積極的に関与して、家庭からの信頼を得た。</li> <li>・SSWが状況をアセスメントして関係機関と共有するなど、精力的に他機関を連携させ、コーディネートを行った。</li> <li>・学校が家庭に関与できる範囲が定かでなく、不安が大きかったが、SSWの積極的な働きかけで、他機関の連携が上手くいった。</li> </ul>

ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政による支援が入ることを警戒する家庭もあるが、SSWの適切な関わりによって、家庭の信頼が得られて、支援状況が好転することがある。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけでは、対応に限界がある。他校種間での情報共有や引き継ぎだけでは、把握しきれないケースがある。</li> <li>・上級学校への進学後も、進学先で支援が得られないと、要支援者が前の学校に戻ってきてしまうことがある。校種間での引継ぎや連携の充実が必要である。</li> </ul>
成果・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が共依存関係を克服し、母親との距離感を適切に測れるようになり、結果として、学校での生活に適応できるようになった。</li> <li>・生徒が高校進学を実現し、自分の将来について主体的に考え、行動できるようになった。</li> </ul>

### (3) 全日制高等学校①

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○家事全般を担う高校生女子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：母、母のパートナー、姉、本児、弟</li> <li>・母、姉は就労していないが、家事全般を本人が担っていた。</li> <li>・本児が中学校に在学時、母のパートナーによる暴力を受け、児童相談所が支援した経過あり。</li> </ul>
<p>校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」</p> <p>「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経緯》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校からの引継ぎでは、家庭状況に関する特段の報告はなかった。入学当初、本児の様子に変わった様子はみられなかった。</li> <li>・高校1年時の秋頃、校内で泣いている本児に気づいた担任教諭が事情を聞き、学校が家庭状況を把握した。担任教諭は母と複数回面談を行ったが、保護者から家庭内の状況を確認することはできなかった。</li> </ul> <p>《校内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該ケースを把握後、校内でケース会議を適宜実施した。</li> <li>・職員会議において本児の状況を職員間で共有し、全職員体制での見守りを行った。</li> <li>・その後も定期的に、職員会議において本児の状況について情報を共有した。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が家庭状況を把握後、本児が中学校在学時に、児童相談所が支援していた経過がわかり、学校は児童相談所と情報を共有して対応した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に母親が相談に訪れた地域の子供支援センターとも情報を共有した。</li> </ul>
<p>支援体制・取組 「支える」</p>	<p>《児童生徒への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の身だしなみや昼食の有無、持ち物などに変化がないかなど、本児の様子を日々確認し、職員が声掛けを行った。</li> </ul> <p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWは、児童相談所をはじめ、市の関係機関と情報共有を行った。</li> <li>・本児はSCやSSWとの面談については消極的であった。家庭内の事情やその対応について他人に話すことを避けている様子がみられたが、SCが本人と面談を複数回行い、本人の心のケアを行った。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校としては、当該生徒の見守りを強化するとともに、教育活動にかかる費用について、なるべく家計の負担とならないよう配慮する必要がある。</li> <li>・当該生徒が相談しやすい環境づくりを行うことで、担任教諭が当該生徒と信頼を築くとともに、学校として組織的に対応し、外部機関と連絡をとりながら適切に対応と対策を講ずる必要がある。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の問題であるため、学校が家庭の内部に踏み込みにくいことが多くあった。</li> <li>・SSWの支援に加え、児童相談所等の外部機関と連携したが、保護者の了解が取れない状況の中では、対応には限界があった。</li> <li>・具体的な連携先や支援策の検討には、専門家であるSSWによる知見が不可欠であるとともに、国や県などからの更なる支援が必要だと感じた。</li> <li>・本人が支援を必要としていないと訴え、学校側からの支援や協力の申し出が拒否されることが多くあった。家庭内の問題を学校側が母親に知らせることを危惧しており、真実をどこまで話をしてきているのか疑問に思うこともあった。</li> <li>・学校が家庭と行政機関との間に入って対応するには限界があり、外部機関の支援が必要であると感じた。</li> </ul>

(4) 全日制高等学校②

<p>対応事例</p>	<p>《事例の概要》</p> <p>○父と祖父母の介護及び家事全般を担う高校生男子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：父、祖父母、本児</li> <li>・長年、父と祖父の介護と家事全般を祖母が担っていたところ、祖母が怪我により介護が必要となった結果、本児がアルバイト就労による家計のやりくりや家事全般を担うこととなった。</li> </ul>
<p>校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事を担っていた祖母が要介護となった直後、本児が学校の保健室を訪れて相談したことにより、学校は家庭の状況を把握した。</li> <li>・学校は、市が運営する相談センターに連絡したが、同センターでは主に不登校事案を中心に取り扱っていたため、ヤングケアラーとしての本事案は「管轄外」であった。学校は、関係機関との連携を模索するため、SSWの派遣を申請した。</li> </ul> <p>《校内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭や特別支援コーディネーターが把握した情報は、速やかに管理職と共有され、必要な検討が行われていた。</li> <li>・毎月、管理職や主任級の教職員で構成される学校運営会議において、生徒の情報が共有された。本事案では、経済面や介護面での家庭の詳細な情報は特定の関係職員内でのみ共有し、家庭のプライバシーに配慮した。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関が一堂に会してのケース会議は、コロナ情勢下では実現していない。</li> <li>・SSWが学校と関係機関との連携の要として、情報共有の仲介を行った。</li> </ul>
<p>支援体制・取組</p> <p>「支える」</p>	<p>《児童生徒への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、本児の心のケア、学習保障の役割に特化して対応した。</li> <li>・学校は、本児の困り感を把握し、本児の希望に寄り添うことを心掛けた。家庭の状況により、本児の登校が困難な場合には、登校を強いず、家庭環境の安静を優先して対応した。</li> </ul> <p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事例では、SCの積極的な関わりはなかった。</li> <li>・本児や家族が話しにくい家庭の状況について、SSWが直接関係機関に必要な情報を伝えた。このようなSSWの働きかけによって、本児にとって学校には知られたくない、学校が知る必要のない情報について秘密が守られたとして、本児や家族の心理的な負担は大きく軽減された。</li> </ul>

<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーの問題を含め、家庭でのプライベートな状況に関することほど、生徒は学校に相談しにくい状況がある。これらの心理的なハードルを下げるための工夫が必要である。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は、支援が必要な生徒を把握したときに、どこにつないだらよいかという点に苦心することが多く、専門家による適切な助言が必要である。</li> <li>・自治体によっても、相談先やノウハウが変わるため、短い期間での異動が多い学校の管理職が、情報や人脈をいかに引継いでいくかが課題である。</li> </ul>
<p>成果・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWの関わりにより、学校をはじめ関係機関が役割分担を明確にすることができた結果、マンパワー等学校の資源を生徒の支援に注力することができた。</li> <li>・今後、同様の事例が把握された場合、学校がどのように関係機関と連携していけばよいかという経験が得られた。</li> </ul>

(5) 定時制高等学校

<p>対応事例</p>	<p>《事例の概要》</p> <p>○家計を担う高校生男子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：父、本児の父子世帯</li> <li>・父親の出張が多く、ネグレクト傾向があった。</li> <li>・父親から本児に生活費が渡されるものの、滞りがちであり、本児はアルバイトで生計を立てていた。</li> </ul>
<p>校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児は1年次の夏以降、ほとんど欠席するようになった。</li> <li>・学校は本児の欠席状況から家庭の状況を把握し、福祉機関との連携のため、SSWの派遣を申請した。</li> </ul> <p>《校内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回、全職員が出席する出欠に係る会議において、本児の状況について情報共有していた。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が本児の状況を把握し、支援を模索したところ、本児の家庭には入学前から市町村の福祉行政が関わっていることがわかり、年3回程度実施されているケース会議に学校が加わり、関係機関との連携を開始した。</li> </ul>
<p>支援体制・取組</p> <p>「支える」</p>	<p>《児童生徒への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児や父親に連絡を取ろうとするが、なかなか実現できず、家庭訪問も空振りに終わることが多かった。</li> <li>・そのため、学習保障を含め、効果的な支援ができない状況が続いた。</li> </ul>

	<p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWは、主に学校と関係機関の橋渡しを行い、学校がケース会議とつながるきっかけとなった。</li> <li>・SCによるカウンセリングを本児が望まない状況が続き、本児への心理的ケアについては不十分だった。</li> </ul>
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児への効果的な支援は、家計に対する援助であることから、学校に可能である効果的な支援の手段を整理する必要がある。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議では、関係機関による役割分担が為されるものの、それぞれの役割の報告に終始することが多く、各機関が密接に連携し、効果的な支援が行われているとはいえなかった。</li> </ul>
成果・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の家庭環境に直接働きかけ、状況を大きく改善するには様々な困難があり、効果的な支援を模索している現状である。</li> </ul>

#### (6) 通信制高等学校

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○家計を担う高校生女子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：父母、祖父、本児</li> <li>・両親は数年前から働いておらず、祖父の年金で生計を維持していた。</li> <li>・本児は高校入学後から昼夜ともにアルバイトを始め、月10万円程の収入があったが、そのうち4万円程度を家計に提供していた。</li> <li>・本児は自分だけが働き、アルバイト代が搾取されることに不満を持っていた。</li> <li>・本児は、アルバイトが多忙なため、スクーリング参加やレポート作成の時間がないと訴えていた。</li> </ul>
校内の情報共有・連携体制、関係機関との連携  「気づく」 「つなぐ」	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の高校入学以前から、児童相談所や市の福祉担当課が見守りが必要な家庭として関与していた。</li> <li>・本児高校入学後、学校は上記機関と家庭の情報を共有していたが、本児のアルバイトに係る情報について把握していなかった。</li> <li>・本児がスクーリングで登校した際、養護教諭のもとを訪れ、自分をとりまく家計の状況と不満について述べ、学校が本児の困窮の状況を把握した。</li> </ul>
	<p>《校内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の状況については、全職員が日常的に情報共有を行っている。</li> </ul>

	<p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校入学前から、父親からの心理的虐待、ネグレクトの疑いにより、児童相談所が介入していた。高校入学後は、学校が直接児童相談所とやり取りを行っていた。</li> <li>・年数回行われたケース会議では、児童相談所、市の福祉担当課、高校が参加し、支援の方法を検討した。</li> </ul>
支援体制・取組 「支える」	<p>《児童生徒への対応・配慮していること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議では、家庭での本児に対する経済的搾取の状況に直接働きかけることが難しいため、本児が18歳になったら自立支援を働きかける方向性を確認し、本児に提案した。しかし、現在、本児にその意向はなく、計画は捗々しく進展しなかった。</li> </ul> <p>《SSW・SCの関わり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の連携が進んでいるため、SSWは関わっていなかった。</li> <li>・本児からの相談や心のケアは、主に養護教諭が担っており、SCの関わりはなかった。</li> </ul>
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の家庭環境改善によかれと考える支援が、本児、家庭に理解されないことがあり、状況の改善にはヤングケアラーの概念の周知が一層必要であると感じた。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児は両親からの経済的搾取に不満を感じる一方で、両親は子どもが家計に協力するのは当然と考えており、関係機関と家庭との話し合いが進まなかった。</li> <li>・本児、両親とも、ヤングケアラーの概念の理解が不十分であり、概念をどのように周知、理解させるかが課題である。</li> </ul>
成果・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の環境を劇的に改善するには至っていないものの、関係機関が情報を共有しながら、支援の方策を検討している。この働きかけがなければ、本児はさらに孤立を深める状況になっていると考えられることから、現状を支えていることが成果である。</li> <li>・環境の改善は、本児が成人を迎えることで大きく前進した。通信制高校では、本児の年齢や在籍年数は大きな不利益にはならないという特長があり、この点も本児を取り巻く資源のひとつだったと考えられる。</li> </ul>

### (7) 居宅介護支援事業所①

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○家事や祖父母の介護を担う中学生男子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：祖父母、父、本児の世帯。</li> <li>・家事全般を担っていた祖母が転倒により受傷、介護を要する状態となり、本児が家事や祖母の身辺の見守りを担うこととなる。</li> </ul>
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父は同時期に認知症の症状が悪化、本児が祖父の就寝介助等を担う。</li> <li>・父は洗濯や買物等を担うが、早朝から夜遅くまで仕事のため、祖父母の状態悪化を契機に本児の家事負担が増大。</li> <li>・上記に伴い、本児は部活を休むこと、眠気のため学業への支障を来した。</li> </ul>
事業所内の情報共有・連携体制、関係機関との連携	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母の介護保険申請を契機に地域包括支援センターから情報提供あり、支援を開始。</li> <li>・祖母の介護サービス支援内容として、入浴支援でヘルパー利用、介護ベッド等の福祉用具のレンタルを利用。通所系・宿泊系サービスは祖母の拒否が強く利用なし。</li> </ul>
「気づく」 「つなぐ」	<p>《事業所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内のケアマネジャーに適宜相談、担当者が抱え込まないように対応。</li> <li>・事業所内では週1回程度、情報共有を目的とした打合せがあり、支援状況について情報共有してきた。</li> </ul>
	<p>《関係機関との連携状況》</p> <p>○連携状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターの保健師にケースについて相談、教育委員会や学校との連絡調整を随時行ってもらった。教育委員会が開催する個別ケース検討会議に参加、教育と福祉の関係機関で家庭全体の支援内容を検討した。</li> </ul> <p>○連携先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、教育委員会、市町村（高齢者福祉担当）、地域包括支援センター</li> </ul>
支援体制・取組	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が直面している“困っている状況”に向き合う時間が長ければ長い程、孤立感に苛まされるであろうと考え、本児が抱え込まないように、家庭訪問時は本児の「言葉」を聴くように努めた。</li> <li>・本児も困っていることを支援者にどう発信したらよいのか、その表現の仕方がわからなかったように感じられた。その際は角度を変えて、部活や趣味、進路のことなど世間話から入るよう配慮したが、本人がどのように受け止めたかは不明。</li> <li>・家計を支える父が仕事を理由に介護・生活支援ができない場合、ヤングケアラーの状態に陥らせないようにするには、迅速な介護サービスの調整と利用が有効。</li> <li>・本事例では、身体介護の部分で、通所系・宿泊系サービスの利用に祖母の拒否が強かったが、予後予測をしていくなかで、祖父母の状況次第では、相応の介護サービス導入や医療機関へつなぐ等の動きを、協働していた地域包括支援センターの保健</li> </ul>
「支える」	

	<p>師と検討した。</p> <p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターからは、教育委員会や学校との連絡調整を随時行っていたが、学校側に伝えていた情報が個別ケース検討会議に参加された教諭に共有されていないことがあり、学校内の情報共有に課題があるのではないかと感じた。</li> </ul>
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自身がヤングケアラーについて知ること。</li> <li>・関係機関がヤングケアラーについて知ること。</li> <li>・ヤングケアラーについて、把握する体制を構築すること。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど教育関係機関の専門職の配置が充実すること。</li> <li>・学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること。</li> <li>・市町村にヤングケアラーの支援について相談できる窓口があること。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児をヤングケアラーに陥らせないために、ケアマネジャーは時として要介護状態になった祖父母と一時的でも良いからと距離をおく手立て（介護サービスの導入）を考えてしまう傾向にある。</li> <li>・一方、同じ家で生活してきた世帯員を引き離し、子どもに介護が発生しない状況を作り出すだけで果たしてよいのかと考えた。ケアマネジャー側は、要介護者の支援者側の専門職として、ヤングケアラーを支援する専門職と更に情報交換、情報共有する機会を持ち、対象家庭により良い支援、多角的な支援が提供できたらよいと考える。</li> </ul>

(8) 居宅介護支援事業所②

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○高次脳機能障害の母のケアを担う高校生女子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：祖父母、父母、本児、弟の三世代家族</li> <li>・母が高次脳機能障害を患い、本児が洗濯や掃除等の家事ケアを担い始める。</li> <li>・本児は部活動に参加を継続するが、学習面の課題について、家族は把握していない。</li> </ul>
------	---

<p>事業所内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母のケアマネジャーになったことを契機に支援開始。</li> <li>・家庭訪問を通じて、本児の家事負担を把握。</li> </ul> <p>《事業所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭状況、支援経過等について、事業所内で共有するため担当者が抱え込むことはない。</li> <li>・担当者が変更となる場合は確実な引継ぎを実施している。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事を複数人で分散して担っていること、本児が部活動など行えていることから過度な負担にはなっていないと判断し、特別に関係機関との連絡調整を図る状況は生じなかった。</li> <li>・本児に過度な負担が生じた際には、関係機関との連絡調整が必要と考えた。</li> </ul>
<p>支援体制・取組</p> <p>「支える」</p>	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母は調理する能力があるものの、自発的に調理を行うことは難しいため、ホームヘルパーとともに調理し、食事作りの役割を担っている。家族の負担軽減を図ることと、喜んで家族をみて本人にも喜びを感じてもらっている。</li> </ul> <p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーとしては直接ヤングケアラーに会ったり話を聞くことは、ヤングケアラーが主介護者であるような場合を除き、訪問時間などの関係で難しいことが多い（日中は学校に行っているため）。そのため、子どもの負担の程度や心情などを把握することが難しい。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自身がヤングケアラーについて知ること。</li> <li>・関係機関がヤングケアラーについて知ること。</li> <li>・ヤングケアラーについて、把握する体制を構築すること。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど教育関係機関の専門職の配置が充実すること。</li> <li>・学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること。</li> <li>・福祉と教育の連携を進めること。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーが介護や家事の一部を担っている状況を把握した場合にヤングケアラーの心情などまで把握することが難しい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーから困難な家庭状況が他関係者に発信され、ヤングケアラーへの支援に到達する連携のルートがあるとよい。</li> <li>・ケアマネジャーが介護や家事の一部をヤングケアラーが担っていると把握した場合、主介護者でない場合、直接ヤングケアラーと面談することは行っていない。</li> <li>・ケアマネジャーとしてはどの段階でどこに発信したらよいのか明確になるとその役割を果たすことができると思う。</li> </ul>
--	---

(9) 障害者相談支援事業所

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○弟のケア及び家事を担う高校生男子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：母子世帯、本児（軽度知的障害）、弟（軽度知的障害）</li> <li>・母は日中仕事に出ており、時々宿泊を伴う出張がある。</li> <li>・本児より弟の障害程度が重いことから、母の不在時は、本児が弟の世話や家事を担っている。</li> </ul>
事業所の情報共有・連携体制、関係機関との連携	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、児童虐待事案として多機関が関わっていたが、再発はみられず学校での見守りが継続されていた。</li> <li>・本児が弟のケアを担う等の状況から、特別支援学校から支援の依頼があり、相談支援専門員として関わりを開始。</li> <li>・世帯の状況から、母が宿泊を伴う出張時に利用できるよう、本児と弟に短期入所サービスの調整を行った。</li> </ul>
「気づく」 「つなぐ」	<p>《事業所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ケース状況を共有する機会を週1回設け、その中で必要に応じて支援検討を実施。</li> </ul>
	<p>《関係機関との連携状況》</p> <p>以下の参集者で3か月に1回のモニタリング会議を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者相談支援事業所</li> <li>・短期入所サービス事業所</li> <li>・特別支援学校（学級担任、学年主任、進路指導担当）</li> <li>・市町村要対協調整機関</li> </ul>
	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p>

支援体制・取組 「支える」	<ul style="list-style-type: none"> <li>母の精神的負担（兄弟の将来に対する不安、イライラ）に寄り添う支援を行うことで、虐待等のリスクを低減するよう配慮した。</li> </ul>
	<p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり親で働かなければならないため、どうしても家事等で頼らざるを得ない状況がある。</li> <li>支援は必要だが、母がサービス利用に消極的。</li> <li>SOSの発信ができない。</li> </ul>
ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること※県実態調査票 問 10 に関連	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関がヤングケアラーについて知ること。</li> <li>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど教育関係機関の専門職の配置が充実すること。</li> <li>福祉と教育の連携を進めること（定期的な意見交換の場を設けるなど）。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本人が家族のために「役に立っている」という充実感がある場合はそれを否定しづらい。</li> </ul>

(10) 市町村要保護児童対策地域協議会調整機関①

対応事例	<p>《事例の概要》</p> <p>○幼い弟のケアを担う中学生男児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族：父、母、本児、弟（小学生）、妹（幼児）</li> </ul> <p>ネグレクトにより要対協で支援経過のある世帯。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>諸費滞納、提出物遅延、保護者と連絡が取りづらい、乱雑な居室等の家庭状況が見られる。</li> </ul>
所内の情報共有・連携体制、関係機関との連携	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校で実施した教育アンケートに「家で妹や弟のめんどうを見させられる。怒られる、寝れない」等と記載あり。担任教諭による聞き取りでは、その間両親は寝たりゲームをしていることや叩かれること、朝食を食べていないこと等が聞か</li> </ul>

<p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の家庭状況を受けて、学校から市町村要対協への相談に至る。</li> </ul> <p>《所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月に1回の実務者会議で支援対象ケースの進捗状況について要対協構成機関（教育委員会、児相、警察等）と情報共有。</li> <li>・弟の予防接種、健診未受診があり、受診状況等について母子保健分野と随時に情報共有。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の保護者との個別面談に市町村要対協職員が同席。</li> <li>・担任が本児の家庭で担っているケアの状況等について聞き取るとともに、本児の負担が重なっていることについて注意喚起。</li> <li>・市町村要対協から、具体的な支援方法を提案。保護者の意向から、放課後学習支援、フードバンク食糧支援を利用することとなり、市町村要対協から継続的な支援を開始。学校等の関係機関と随時の情報共有を継続。</li> </ul>
<p>支援体制・取組 「支える」</p>	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や放課後学習支援が日常的な見守りのなかで、家庭の状況や困りごとはないか聞き取っている。</li> <li>・保護者と連絡の取りづらいつら状況は継続して見られるため、受容的な対応を行うよう関係機関で方針を統一してきた。</li> </ul> <p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡が取りづらく訪問日の失念も多いが、健診受診や手続き等の再確認依頼後には顕著になる傾向がある。</li> <li>・状況の改善と再発を繰り返しているため、要因である継父との面談も必要であるが、不満の矛先が児に向くことが懸念され、実施できずにいる。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児自身が保護者への承認欲求等から、自発的にケアを行う可能性もあるため、児の訴えや保護者からの聴き取り等を含め総合的にアセスメントする視点が必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児の置かれた状況には、養育負担や経済困窮等保護者の余裕のなさが影響するため、各種制度利用や相談等含め、保護者への適切な養育支援が必要。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児の訴えを元に保護者と面談する際は、保護者の不満の矛先が児に向き、状況悪化や虐待につながるリスクもあるため、伝え方及び時期には配慮が必要。</li> <li>・ 児が訴えてこない限りは、家庭内の状況把握が困難であるが、児が訴えた場合でも保護者への指導や助言について児が拒否すると状況の改善が困難。</li> </ul>

(11) 市町村要保護児童対策地域協議会調整機関②

<p>対応事例</p>	<p>《事例の概要》</p> <p>○祖母の介護を担う高校生女兒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族：父子世帯。父、本児、次女(中学生)、祖母</li> <li>・ 祖母は脳梗塞により生活全般に介護を要する。</li> <li>・ 父は経済的な事情を理由に祖母の施設入所を拒否、介護は子どもが担うことがあたりまえとの認識で介護には関わらない。</li> <li>・ 学校生活への不安等から、本児の相談先として市町村要対協での支援を開始した事例。</li> </ul>
<p>所内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 父母の離婚により、父方祖母と同居を開始。</li> <li>・ 本児は家庭及び学校生活への不安等から家出を繰り返す。高校を休学する。</li> <li>・ 祖母が脳梗塞により入院。生活全般に介護を要し、認知症もある状態で自宅へ退院。</li> <li>・ 本児が祖母の介護を担う生活が始まる。</li> <li>・ 市町村要対協として支援を開始。介護部門関係者との調整により、祖母のデイサービス、ヘルパー利用を開始。</li> <li>・ 市町村要対協としては、本児の休学中の精神面等に関して相談支援を継続。祖母への介護支援について関係機関と情報共有しながら家庭状況を把握してきた。</li> </ul> <p>《所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況変化があった際に、係内での週1回のケース管理会議で報告及び共有、支援方針を確認してきた。</li> </ul>

	<p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父が介護に関わらない、祖母を怒鳴るなどの状況から、高齢者虐待の視点も含めて、介護部門関係者等とケース会議を実施、定期的にモニタリングを継続。</li> </ul>
<p>支援体制・取組 「支える」</p>	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が担っている役割の軽減を図る支援だけではなく、その状況に至っている背景や家族機能、家族との関係等を把握した上で、将来的な子どもの自立を目指し、子どものニーズを確認して、必要な関係機関と連絡を取り合い役割を確認して支援を実施してきた。</li> </ul> <p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象家庭では、子どもがケアを担う状況が長期にわたり、ケアを担う理由が複合的な場合も少なくない。</li> <li>・家族が責められていると感じないように、家族の人権・ニーズにも配慮して、家族全体を支えるために既存の要対協のネットワークを活用して、多職種連携を意識した支援が必要と考える。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ち、望んでいることが聞き取れるよう、ヤングケアラー支援に関わらず、子どもと関わる支援者が関係構築ができていくこと。</li> <li>・関係機関との円滑なネットワークを構築し、それぞれの立場や役割を理解した連携が求められる。</li> </ul> <p>《支援上の課題》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 早期に発見するために <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの潜在ニーズの客観的な把握</li> <li>・関係機関への啓発(福祉・介護・医療・教育等)</li> </ul> </li> <li>② 支援につなげるための体制整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・要対協でのヤングケアラーについての進捗管理の位置づけや支援体制のマニュアル化</li> </ul> </li> <li>③ 支援策の開拓 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーに至っている家庭背景や子どものニーズに合わせた支援策の構築</li> </ul> </li> </ol>

(12) 児童相談所

<p>対応事例</p>	<p>《事例の概要》</p> <p>○幼いきょうだいのケアを担う中学生女子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族：母子家庭、多子世帯の長姉。</li> <li>・生活保護受給中。学校諸経費等の滞納がみられる。</li> <li>・児童福祉司指導措置を採り、児童相談所が継続的に支援している事例。</li> </ul>
<p>所内の情報共有・連携体制、関係機関との連携</p> <p>「気づく」 「つなぐ」</p>	<p>《発見・支援までの経過》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母からの身体的虐待、きょうだいの世話を担わされていることについて本児から訴えが聞かれ、学校が市町村へ虐待通告。市町村から母に対し児相への相談を勧める。</li> <li>・学校、市町村要対協、市町村福祉担当課等の連携により継続的な支援及び見守りを継続する。</li> <li>・母の体調不良を契機に、養育負担軽減のため、本児を含むきょうだいを一時保護。</li> <li>・本児からは、母からの身体的虐待の他、きょうだいの世話で疲れること等の訴えがある。</li> <li>・虐待の再発防止及び生活全般に支援を必要とすることから、家庭生活再開に際して児童福祉司指導措置を採る。</li> </ul> <p>《所内の情報共有体制》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会議において、月1回、ケースの進捗状況等について所内で情報共有し、援助方針を検討している。</li> <li>・この他、ケースの進捗状況に応じて、タイムリーに所内でケース協議を実施。管理職の他、児童福祉司、児童心理司、法務嘱託員、児童指導員等の他職種が連携して支援にあたっている。</li> </ul> <p>《関係機関との連携状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村要対協のネットワークにより、支援対象児童等については、定期の情報共有及び支援方針の検討（月1回）が行われている。</li> <li>・学校、市町村要対協、市町村福祉担当課等とは、対象児童及び家庭の状況変化及び支援方針について、タイムリーな情報共有により連携を図っている。</li> </ul>
<p>支援体制・取組</p> <p>「支える」</p>	<p>《対象家庭への対応・配慮していること（ヤングケアラーと思われる子どもへの対応を含む）》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母による身体的虐待を契機に児相の支援を開始した家庭だが、家庭調査、心理判定、医学判定等のアセスメントを経て、本児が家庭内できょうだいの世話や母の精神的支援を担うなどの状況が確認されたもの。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が家庭内でケア役割を担うこと、母の身体的虐待の背景には、母の養育負担及び精神的不調、家計の逼迫などがあり、生活全般に支援を必要とする状況。</li> <li>・母の心身の不調に関して医療機関受診を調整。体罰によらないしつけに関して母への指導を実施。定期的な家庭訪問により、家庭状況の確認及び母への助言を実施してきた。</li> </ul>
	<p>《対象家庭への支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母の養育負担の軽減。</li> <li>・母の急病等の際、他に頼ることのできる親族等がおらず、養育者が不在となること。</li> <li>・金銭管理、各種手続き等の生活全般への支援が必要であること。</li> </ul>
<p>ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと、課題と感ずること</p>	<p>《支援上、求められること》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育支援（養育支援訪問事業、ファミリーサポート等）の充実。</li> <li>・子育て短期支援事業等の充実。</li> </ul>
	<p>《支援上の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養育支援に関する制度が実際に活用できるよう、人材や財源の確保が必要。</li> <li>・各種制度の利用には手続きが必要なことも多く、緊急時に利用できるサービスが少ない。</li> <li>・現状利用できるサービスを利用しても、夜間の年少の児童の世話など支援しきれない家事や育児がある。</li> </ul>

## VIII. まとめ

---

本調査では、新潟県におけるヤングケアラーの実態について、様々な角度から多角的に把握し、支援等の検討の基礎資料とすることを目的にアンケート調査とインタビュー調査を実施した。それにより県内の中高生の現在の学校生活の状況、困りごとや家族等の世話の状況について把握することができ、小学校、中学校、高校や市町村等関係機関におけるヤングケアラーに対する認知度や対応の状況についても確認することができた。

中高生アンケートでは、世話をしている家族が「いる」と回答した中学2年生は5.9%（全国調査では5.7%）、全日制高校2年生では2.8%（全国調査では4.1%）、定時制高校2年生では5.2%（全国調査では8.5%）であった。「世話をしているためにやりたくてもできないこと」については、約8割が「特にない」と回答しているが、「自分の時間が取れない」や「宿題や勉強をする時間が取れない」などの回答も約2割程度見られ、支援を必要としている子どもの存在が明らかとなった。

要対協アンケートでは、ヤングケアラーの実態を「把握している」と回答した要対協は46.7%であり、全国調査の30.6%を上回っていた。しかし、ヤングケアラーである可能性を早期に確認する上での課題として、「家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの状況把握が難しい」「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識していない」と回答した割合が全国同様に高く、早期発見の難しさを感じていることが見受けられた。

学校アンケートでは、ヤングケアラーと思われる子どもを要対協につないだ割合は、中学校で42.3%（全国調査では19.4%）、全日制高校で40.0%（全国調査では8.1%）であり全国調査の結果を大きく上回っていた。ヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、学校だけでは対応が難しいことが多いため、要対協との連携をさらに推進し必要な支援につなげていくことが重要である。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについて、学校では全国同様に「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」「教職員がヤングケアラーについて知ること」「子どもが教職員に相談しやすい環境をつくること」などの割合が高かった。居宅介護支援事業所等では、「関係機関がヤングケアラーについて知ること」「ヤングケアラーについて把握する体制を構築すること」「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」の割合が高かった。

インタビュー調査では、各関係機関が実際にヤングケアラーと思われる子どもの支援で感じている課題等を確認することができた。学校からの意見としては、学校だけの対応では限界があり、関係機関と連携して支援していくことの重要性が多く挙げられた。生徒が相談しやすいように関わり方を工夫しながら支援している様子もうかがえた。また、要対協や居宅介護支援事業所等の関係機関からは、子ども自身や関係機関がヤングケアラーについて知ることの重要性、相談窓口や専門職配置の充実を求める意見が挙げられた。子どもや家族のアセスメントを行いつつ、当事者のニーズにも配慮した相談関係を築き、他機関と連携していくという支援の難しさも聞かれた。

ヤングケアラーの概念を理解し、社会全体で支えていくことは、子どもの権利を守る上でとても重要である。ヤングケアラーの社会的認知度を向上させ、この認識を社会通念上一般的かつ普遍的な考え方として定着させることにより、悩みを抱える子ども自身や周囲の大人が、より早期に困難な状況にあることに気づき、相談に繋がりがやすくすることが必要である。

また、ヤングケアラー及び家族にとって、より身近な地域で相談することや支援を受けることが基本であり、市町村単位で既存の枠組みを活用することにより、ヤングケアラーの現状把握に努めるとともに、情報共有や支援方針の検討、及び適切な支援の提供など、多機関連携による相談支援体制の構築を図ることが必要である。

ヤングケアラー支援については福祉や教育等様々な分野が連携した取組が重要であり、既に個々の事案においては多機関が連携した支援を行っている事例もあるが、効果的な支援方法の共有やヤングケアラーに特化した支援策の推進を図る取組が必要である。

<調査票様式>

中学生の生活実態に関するアンケート調査

※実際は携帯電話またはパソコン等からのインターネット回答

I. 基本情報

問1 あなたの学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1. 中学2年(中等教育学校2年を含む)    | 4. 通信制高校2年    |
| 2. 全日制高校2年(中等教育学校5年を含む) | 5. あてはまるものはない |
| 3. 定時制高校2年              |               |

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |        |
|--------|
| 1. 男性  |
| 2. 女性  |
| 3. その他 |

問3 現在住んでいる市町村を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※30市町村の選択肢より回答

問4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- |       |               |
|-------|---------------|
| 1. 母親 | 5. 兄・姉 ⇒ ( )人 |
| 2. 父親 | 6. 弟・妹 ⇒ ( )人 |
| 3. 祖母 | 7. その他 ( )    |
| 4. 祖父 |               |

問5 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. よい   | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない    |
| 3. ふうつう |            |

II. ふだんの生活についてお伺いします。

問6 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

①出席状況		
1. ほとんど欠席しない	2. たまに欠席する	3. よく欠席する
②遅刻や早退の状況		
1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

問7 部活動(学校外での活動を含む)に参加したり、習い事をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 部活動に参加している                   |
| 2. 学校外での活動に参加している(習い事を含む)       |
| 3. 部活にも学校外での活動にも参加している(習い事を含む)  |
| 4. 部活にも学校外での活動にも参加していない(習い事を含む) |

問8 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる全てに○)

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1. 授業中に居眠りすることが多い              | 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する(予定を含む)  |
| 2. 宿題や課題ができていないことが多い           | 7. 保健室で過ごすことが多い             |
| 3. 持ち物の忘れが多い                   | 8. 学校では1人で過ごすことが多い          |
| 4. 部活動や習い事を休むことが多い             | 9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない |
| 5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い | 10. 特にな                     |

問9 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 友人との関係                 | 8. 自分と家族との関係のこと             |
| 2. 学業成績のこと                | 9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど) |
| 3. 進路のこと                  | 10. 病気や障がいのある家族のこと          |
| 4. 部活動のこと                 | 11. 自分のために使える時間が少ない         |
| 5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと | 12. その他( )                  |
| 6. 塾(通信含む)や習い事ができない       | 13. 特にな                     |
| 7. 家庭の経済的状況のこと            |                             |

問10 問9で「特にな」以外を回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

- |                       |
|-----------------------|
| 1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる  |
| 2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない |
| 3. 相談や話はしたくない         |

**Ⅲ. 家族や家庭のことについてお伺いします。**

問11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。)(あてはまる番号1つに○)

1. いる
2. いない ⇒問20へ

問12 <問11で「1. いる」と回答した方に>お世話の状況について

(1) あなたがお世話をしている方はどなたですか？(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親    2. 父親    3. 祖母    4. 祖父    5. きょうだい    6. その他

(2) ① 問12(1)で、「母親のお世話をしている」と答えた方にお聞きします。  
(それ以外の方は、問12(2)②に進んでください)

- a) 「母親」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
- |               |               |                     |
|---------------|---------------|---------------------|
| 1. 高齢(65歳以上)  | 4. 認知症        | 8. 依存症(アルコール依存症、    |
| 2. 若い         | 5. 身体障がい      | ギャンブル依存症など)(疑       |
| 3. 要介護(介護が必要な | 6. 知的障がい      | い含む)                |
| 状態)           | 7. 精神疾患(疑い含む) | 9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 |
|               |               | 10. その他( )          |

- b) 「母親」に対して、あなたがやっているお世話の内容を教えてください。  
(あてはまる番号全てに○)
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)   | 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し |
| 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 | 相手になるなど)             |
| など                   | 7. 見守り               |
| 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 | 8. 通訳(日本語や手話など)      |
| など)                  | 9. 金銭管理              |
| 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)   | 10. 薬の管理             |
| 5. 通院の付き添い           | 11. その他( )           |

(2) ② 問12(1)で、「父親のお世話をしている」と答えた方にお聞きします。  
(それ以外の方は、問12(2)③に進んでください)

- a) 「父親」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
- |               |               |                     |
|---------------|---------------|---------------------|
| 1. 高齢(65歳以上)  | 4. 認知症        | 8. 依存症(アルコール依存症、    |
| 2. 若い         | 5. 身体障がい      | ギャンブル依存症など)(疑       |
| 3. 要介護(介護が必要な | 6. 知的障がい      | い含む)                |
| 状態)           | 7. 精神疾患(疑い含む) | 9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 |
|               |               | 10. その他( )          |

- b) 「父親」に対して、あなたがやっているお世話の内容を教えてください。  
(あてはまる番号全てに○)
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)   | 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し |
| 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 | 相手になるなど)             |
| など                   | 7. 見守り               |
| 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 | 8. 通訳(日本語や手話など)      |
| など)                  | 9. 金銭管理              |
| 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)   | 10. 薬の管理             |
| 5. 通院の付き添い           | 11. その他( )           |

(2) ③ 問12(1)で、「祖母のお世話をしている」と答えた方にお聞きします。  
(それ以外の方は、問12(2)④に進んでください)

- a) 「祖母」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
- |               |               |                     |
|---------------|---------------|---------------------|
| 1. 高齢(65歳以上)  | 4. 認知症        | 8. 依存症(アルコール依存症、    |
| 2. 若い         | 5. 身体障がい      | ギャンブル依存症など)(疑       |
| 3. 要介護(介護が必要な | 6. 知的障がい      | い含む)                |
| 状態)           | 7. 精神疾患(疑い含む) | 9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 |
|               |               | 10. その他( )          |

- b) 「祖母」に対して、あなたがやっているお世話の内容を教えてください。  
(あてはまる番号全てに○)
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)   | 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し |
| 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 | 相手になるなど)             |
| など                   | 7. 見守り               |
| 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 | 8. 通訳(日本語や手話など)      |
| など)                  | 9. 金銭管理              |
| 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)   | 10. 薬の管理             |
| 5. 通院の付き添い           | 11. その他( )           |

(2) ④ 問12(1)で、「祖父のお世話をしている」と答えた方にお聞きします。  
(それ以外の方は、問12(2)⑤に進んでください)

- a) 「祖父」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
- |               |               |                     |
|---------------|---------------|---------------------|
| 1. 高齢(65歳以上)  | 4. 認知症        | 8. 依存症(アルコール依存症、    |
| 2. 若い         | 5. 身体障がい      | ギャンブル依存症など)(疑       |
| 3. 要介護(介護が必要な | 6. 知的障がい      | い含む)                |
| 状態)           | 7. 精神疾患(疑い含む) | 9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 |
|               |               | 10. その他( )          |

- b) 「祖父」に対して、あなたがやっているお世話の内容を教えてください。  
(あてはまる番号全てに○)
- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)   | 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し |
| 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 | 相手になるなど)             |
| など                   | 7. 見守り               |
| 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 | 8. 通訳(日本語や手話など)      |
| など)                  | 9. 金銭管理              |
| 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)   | 10. 薬の管理             |
| 5. 通院の付き添い           | 11. その他( )           |

<p>(2) ⑤ 問12(1)で、「きょうだいのお世話をしている」と答えた方にお聞きします。 お世話している「きょうだい」が複数おられる場合、一括でお答えください。 (それ以外の方は、問12(2)⑥に進んでください)</p>	
<p>a) 「きょうだい」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)</p> <p>1. 高齢(65歳以上)      4. 認知症      8. 依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑 2. 若い      5. 身体障がい      含む) 3. 要介護(介護が必要な 状態)      6. 知的障がい      9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 7. 精神疾患(疑い含む)      10. その他( )</p>	<p>b) 「きょうだい」に対して、あなたが行っているお世話の内容を教えてください。 (あてはまる番号全てに○)</p> <p>1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)      6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し 相手になるなど) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 など      7. 見守り 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 など)      8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)      10. 薬の管理 5. 通院の付き添い      11. その他( )</p>
<p>(2) ⑥ 問12(1)で、「その他のお世話をしている」と答えた方にお聞きします。 お世話している「その他の方」が複数おられる場合、一括でお答えください。</p>	
<p>a) 「その他の方」の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)</p> <p>1. 高齢(65歳以上)      4. 認知症      8. 依存症(アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑 2. 若い      5. 身体障がい      含む) 3. 要介護(介護が必要な 状態)      6. 知的障がい      9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気 7. 精神疾患(疑い含む)      10. その他( )</p>	<p>b) 「その他の方」に対して、あなたが行っているお世話の内容を教えてください。 (あてはまる番号全てに○)</p> <p>1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)      6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し 相手になるなど) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎 など      7. 見守り 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話 など)      8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 4. 外出の付き添い(買い物、散歩)      10. 薬の管理 5. 通院の付き添い      11. その他( )</p>

<p>★以下は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。</p>		
<p>問12(3) お世話は誰と行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)</p>		
1. 母親	4. 祖父	7. 自分のみ
2. 父親	5. きょうだい	8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
3. 祖母	6. 親戚の人	9. その他
<p>問12(4) お世話はいつから行っていますか。お世話を始めたときのあなたの年齢をお答えください。 (はっきりと分からない場合はだいたいの年齢でかまいません)</p> <p>( ) 歳から</p>		
<p>問12(5) お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)</p>		
1. ほぼ毎日	3. 週1~2日	5. その他( )
2. 週3~5日	4. 1か月に数日	
<p>問12(6) 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。 (日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)</p> <p>1日( ) 時間程度</p>		

問13 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                        |                               |
|------------------------|-------------------------------|
| 1. 学校に行きたくても行けない       | 6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった |
| 2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう  | 7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した |
| 3. 宿題をする時間や勉強する時間がとれない | 8. 自分の時間が取れない                 |
| 4. 睡眠が十分に取れない          | 9. その他 ( )                    |
| 5. 友人と遊ぶことができない        | 10. 特にない                      |

問14 お世話をすることによってきつさを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |            |                |
|------------|----------------|
| 1. 身体的にきつい | 3. 時間的余裕がない    |
| 2. 精神的にきつい | 4. 特にきつさは感じてない |

問15 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに話したり相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- |             |
|-------------|
| 1. ある ⇒問16へ |
| 2. ない ⇒問17へ |

問16 <問15で「1. ある」と回答した方にお聞きします。>

話したり相談した相手は誰ですか。あてはまるものを、すべて選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1. 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい) | 8. 医師や看護師、その他病院の人      |
| 2. 親戚(おじ、おばなど)         | 9. ヘルパーやケアマネ、福祉のサービスの人 |
| 3. 友人                  | 10. 役所の人               |
| 4. 学校の先生(保健室の先生以外)     | 11. 近所の人               |
| 5. 保健室の先生              | 12. SNS上での知り合い         |
| 6. スクール・カウンセラー         | 13. その他 ( )            |
| 7. スクールソーシャルワーカー       |                        |

問17 <問15で「2. ない」と回答した方にお聞きします。>

次の相談していないそれぞれの理由について、あなたの考えに一番近いものを選んでください。

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
①誰かに相談するほどの悩みではない	1	2	3	4
②家族外の人に相談するような悩みではない	1	2	3	4
③誰に相談するのがよいかわからない	1	2	3	4
④相談できる人が身近にいない	1	2	3	4
⑤家族のここのため話しにくい	1	2	3	4
⑥家族のことを知られたくない	1	2	3	4
⑦家族に対して偏見を持たれたくない	1	2	3	4
⑧相談しても状況が変わるとは思わない	1	2	3	4

その他に相談していない理由がある方は、具体的に教えてください。

--

問18 <問15で「2. ない」と回答した方にお聞きします。>

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- |        |
|--------|
| 1. いる  |
| 2. いない |

問19 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としているそれぞれの支援について、あなたの考えに一番近いものを選んでください。

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
①自分のいまの状況について話を聞いてほしい	1	2	3	4
②家族のお世話について相談にのってほしい	1	2	3	4
③家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	1	2	3	4
④自分が行っているお世話のすべてを代わりにやってくれる人やサービスがほしい	1	2	3	4
⑤自分が行っているお世話の一部を代わりにやってくれる人やサービスがほしい	1	2	3	4
⑥自由に使える時間がほしい	1	2	3	4
⑦進路や就職など将来の相談にのってほしい	1	2	3	4
⑧学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	1	2	3	4
⑨家庭への経済的な支援	1	2	3	4

その他に学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援がある方は、具体的に教えてください。

--

IV. ヤングケアラーについて

このページの説明・図をご覧ください、以降のページの質問にお答えください。

障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、障がいや病気のケアをしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている

目を離せない家族の留守りや薬かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族の世話をしている

家族を養育するために働き、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブル問題を困る家族に配慮している

老人、障害、精神疾患など様々な障がいのある家族の世話をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / Illustration : Isure Shiga

**なぜ、ヤングケアラーへの支援が必要か**

■ヤングケアラーとは  
ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと見られる子ども」です。  
一般社団法人日本ケアラー連盟のヤングケアラープロジェクトのウェブページでは、ヤングケアラーの具体例が上記のように紹介されています。

★ヤングケアラーはこんな子どもたちです  
家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。

■ヤングケアラーは、本来守られるべき子ども自身の権利が守られていない可能性があります  
家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、日常生活で困ることがある場合は、本来守られるべき子ども自身の権利が守られていないかもしれません。  
みなさんやみなさんの周りの友達が「ヤングケアラー」にあてはまる場合には、たとえば、家族のケアをしながらであっても、子どもらしく生きる権利が守られるようにしていく必要があります。  
そのためにも、子ども自身がそのような状況に気づくことや、不安や不満を言える大人がいることが大切です。  
そして、そういう子どもの状況や気持ちにまわりの大人が早く気づき、子どもの思いに応じて、子どもや家族の状況を改善し、子どもが子どもらしく過ごせるようにしていくことが重要です。

問20 あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. あてはまる         | 4. あてはまらない |
| 2. どちらかというにあてはまる | 5. わからない   |
| 3. あまりあてはまらない    |            |

問21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |                      |
|----------------------|
| 1. 聞いたことがあり、内容も知っている |
| 2. 聞いたことはあるが、よく知らない  |
| 3. 聞いたことはない          |

問22 <問21で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。>

「ヤングケアラー」という言葉をどこで聞きましたか。(あてはまる番号1つに○)

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. テレビや新聞、ラジオ  | 5. イベントや交流会   |
| 2. 雑誌や本        | 6. 学校         |
| 3. SNSやインターネット | 7. 友人・知人から聞いた |
| 4. 広報やチラシ、掲示物  | 8. その他 ( )    |

問23 ヤングケアラーを支援し権利を守っていくために必要だと思うことや、要望等なんでもご自由にお聞かせください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

※実際はインターネット回答

I. 基本調査

問1 ご回答された方の役職を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 校長 2. 副校長・教頭

問2 貴校の学校区分を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 小学校 5. 高等学校(通信制)  
2. 中学校、義務教育学校 6. 中等教育学校  
3. 高等学校(全日制) 7. 特別支援学校  
4. 高等学校(定時制) 8. その他

問3 貴校の所在地を教えてください。

※30市町村の選択肢より回答

問4 中学校については中学2年生、高等学校については高校2年生の人数を教えてください。

(令和3年8月1日時点)

中学2年生(中等教育学校2年を含む)( )人 高校2年生(中等教育学校5年を含む)( )人

II. 支援が必要と思われる子どもの対応についてお伺いします。

問5 SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

(1)SSWの派遣・配置状況(あてはまる番号1つに○)

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される  
2. 週に1回程度派遣・配置されている 5. その他( )  
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 6. 派遣・配置されていない

(2)SCの派遣・配置状況(あてはまる番号1つに○)

1. 週に2～3回以上派遣・配置されている 4. 要請に応じて派遣される  
2. 週に1回程度派遣・配置されている 5. その他( )  
3. 月に数回以下で派遣・配置されている 6. 派遣・配置されていない

問6 下記の子どものついて校内で共有しているケースはありますか。

1. ある 2. 特に共有しているケースはない☑

(1)校内で共有しているのは、どのようなケースですか。あてはまるものを、すべて選んでください。

1. 学校を休みがちである 8. 保護者の承諾の必要な書類等の提出が遅れることが多い  
2. 遅刻や早退が多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない  
3. 保健室で過ごすことが多い 10. 部活動を途中でやめてしまった  
4. 精神的な不安定さがある 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する  
5. 身だしなみが整っていない 12. 学校納付金が遅れる、未払い  
6. 学力が低下している 13. その他( )  
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い

問7 問6のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多いケースでご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 不登校の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している 一問8へ  
2. 不登校以外の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している 一問8へ  
3. 個別に対応している(決まった検討体制はない) 一問9へ

問8 <問7で「1. 不登校の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している」、「2. 不登校以外の子どものケースに関し、校内の分掌・委員会等で検討している」と回答した方にお伺いします。>

校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

(1)情報共有・対応の検討の方法等(あてはまる番号すべて○)

1. スクリーニング会議(※) 5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童  
2. ケース会議 生徒の抱える課題の解決に向けて調整役と  
3. 生徒指導部・委員会など して活動する教職員の配置・指名  
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有 6. その他( )

※スクリーニング会議：全ての子どもの対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援が必要な子どもや家族を適切な支援につなぐための迅速な認識を行う会議。Q-Uの実施、情報共有など。

(2)<(1)で「1. スクリーニング会議」「2. ケース会議」「3. 生徒指導部・委員会など」、「6. その他」と回答した方にお伺いします。>

どの教職員が参加していますか。また、会議の頻度はどれくらいですか(あてはまる欄に番号を記入)

①. スクリーニング会議の「参加者」

1. 校長 7. SSW  
2. 副校長・教頭 8. SC  
3. 学年主任 9. 外部の関係機関  
4. 担任教諭 ( )  
5. 生徒指導教諭 10. その他  
6. 養護教諭 ( )

①. スクリーニング会議の「頻度」

1. 2週間に1回以上  
2. 月に1回程度  
3. 学期に1回程度  
4. 半年に1回程度  
5. 年に1回程度

②. ケース会議の「参加者」

1. 校長 7. SSW  
2. 副校長・教頭 8. SC  
3. 学年主任 9. 外部の関係機関  
4. 担任教諭 ( )  
5. 生徒指導教諭 10. その他  
6. 養護教諭 ( )

②. ケース会議の「頻度」

1. 2週間に1回以上  
2. 月に1回程度  
3. 学期に1回程度  
4. 半年に1回程度  
5. 年に1回程度

③. 生徒指導部・委員会などの「参加者」

1. 校長	7. SSW
2. 副校長・教頭	8. SC
3. 学年主任	9. 外部の関係機関
4. 担任教諭	( )
5. 生徒指導教諭	10. その他
6. 養護教諭	( )

④. その他の「参加者」

1. 校長	7. SSW
2. 副校長・教頭	8. SC
3. 学年主任	9. 外部の関係機関
4. 担任教諭	( )
5. 生徒指導教諭	10. その他
6. 養護教諭	( )

③. 生徒指導部・委員会などの「頻度」

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 学期に1回程度
4. 半年に1回程度
5. 年に1回程度

④. その他の「頻度」

1. 2週間に1回以上
2. 月に1回程度
3. 学期に1回程度
4. 半年に1回程度
5. 年に1回程度

問9 <問7で「3. 個別に対応している」と回答した方にお伺いします。>

問6のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。  
関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的にご回答ください。

--

問10 問6のケースについて、学校外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行う

ための体制がありますか。それぞれのケースについて、お答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

①要保護児童対策地域協議会の登録ケース(あてはまる番号1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

「ある」場合、連携する関係機関をお聞かせください。(あてはまる番号すべて○)

1. 県市区町村教育委員会	6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
2. 市区町村名の福祉部門 <small>(要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門)</small>	7. 児童相談所
3. 市区町村名の保健部門	8. 民生委員
4. 市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	9. 病院
5. 教育支援センター(適応指導教室)	10. 警察や刑事司法関係機関
	11. その他( )

②①以外のケースで児童虐待、貧困、暴力、家出く犯、非行等のケース(あてはまる番号1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

「ある」場合、連携する関係機関をお聞かせください。(あてはまる番号すべて○)

1. 県市区町村教育委員会	6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
2. 市区町村名の福祉部門 <small>(要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門)</small>	7. 児童相談所
3. 市区町村名の保健部門	8. 民生委員
4. 市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	9. 病院
5. 教育支援センター(適応指導教室)	10. 警察や刑事司法関係機関
	11. その他( )

③不登校、欠席が多いケース

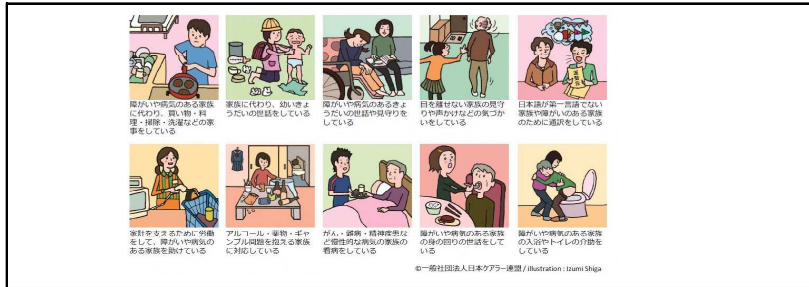
1. ある	2. ない
-------	-------

「ある」場合、連携する関係機関をお聞かせください。(あてはまる番号すべて○)

1. 県市区町村教育委員会	6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
2. 市区町村名の福祉部門 <small>(要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門)</small>	7. 児童相談所
3. 市区町村名の保健部門	8. 民生委員
4. 市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	9. 病院
5. 教育支援センター(適応指導教室)	10. 警察や刑事司法関係機関
	11. その他( )

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。



- 問 1 1 貴校では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。(あてはまる番号 1 つに○)
1. 言葉を知らない →問 1 4 へ
  2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問 1 4 へ
  3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない →問 1 4 へ
  4. 言葉を知っており、学校として特別に対応している →問 1 2 へ

- 問 1 2 <問 1 1 で、「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。>  
「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握に努めていますか。(あてはまる番号 1 つに○)
1. 把握に努めている →問 1 3 へ
  2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問 1 4 へ
  3. 現在、該当する子どもはいないと思われる →問 1 4 へ

- 問 1 3 <問 1 2 で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。>  
「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。(当てはまる番号すべてに○)
1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
  2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
  3. その他( )

- 問 1 4 全員にお伺いします。  
現在、貴校にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。(あてはまる番号 1 つに○)
1. いる →問 1 5 へ
  2. いない →問 1 7 へ
  3. 分からない →問 1 6 へ

- 問 1 5 <問 1 4 で「1. いる」と回答した方にお伺いします。>  
(1)ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。(あてはまる番号すべてに○)
1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている
  2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
  3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
  4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
  5. 家族の通訳をしている(日本語通訳や手話通訳など)
  6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている
  7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
  8. 病気の家族の看病をしている
  9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
  10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
  11. その他( )

- (2)ヤングケアラーと思われる子どもについて、これまでに具体的に学校以外の関係機関(教育委員会、行政、要保護児童対策地域協議会など)の支援につないだケースはありますか。(あてはまる番号すべてに○)
1. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケースがある →(3)へ
  2. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある →(3)へ
  3. 「要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース」もある→(3)へ
  4. 外部の支援につないでいない(学校内で対応している) →(4)へ

<上記で「2. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ」、「3. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談する」と回答した方は>、つないだ関係機関を選択肢の中から選んでください。(あてはまる番号すべてに○)  
(関係機関:選択肢)

1. 市区町村教育委員会
2. 市区町村名の福祉部門(要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門を除く)
3. 市区町村名の保健部門
4. 市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門
5. 教育支援センター(適応指導教室)
6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設
7. 児童相談所
8. 民生委員
9. 病院
10. 警察や刑事司法関係機関
11. その他( )

(3) <(2)で「1. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケースがある」、「3. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談する」と回答した方に伺います。>それぞれの該当する直近のケースに付いて、1件ずつお教えてください。

①要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ直近のケースの子どもについて、教えてください。

性別(1つに○)	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年(1つに○)	1. 小学1～6年	4. 中学3年	7. 高校3年
	2. 中学1年	5. 高校1年	
	3. 中学2年	6. 高校2年	
学校生活の状況(すべてに○)	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れが多い		
	8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出が遅れることが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活動を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 学校納付金が遅れる、未払い 13. その他( )		
家族構成(すべてに○)	1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
	2. 父親	4. 祖父	6. その他( )
家族でのケアの状況(すべてに○)	①学校はケアの状況を把握しているか → はい ・ いいえ		
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a)ケアを必要としている人	b)ケアを必要としている人の状況	
	1. 母親	1. 高齢(65歳以上)	7. 精神疾患(疑い含む)
	2. 父親	2. 若い	8. 依存症(疑い含む)
	3. 祖母	3. 要介護(介護が必要な状態)	9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気
	4. 祖父	4. 認知症	
	5. きょうだい	5. 身体障がい	10. その他( )
	6. その他( )	6. 知的障がい	11. わからない
	c)ケアの内容		
	1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り	
	2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳(日本語や手話など)	
	3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9. 金銭管理	
	4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	10. 薬の管理	
	5. 通院の付き添い	11. その他( )	
	6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12. わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
要保護児童対策地域協議会への通告ルート	1. 市区町村教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. その他( )		
学校で行った支援(要対協との連携も含めて)			
支援した結果、子どもの変化			

(3) <(2)で「2. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ」「3. 要保護児童対策地域協議会に報告、相談したケース」もあり、「要保護児童対策地域協議会に報告、相談する」と回答した方に伺います。>それぞれの該当する直近のケースに付いて、1件ずつお教えてください。

学年(1つに○)	1. 中学( )年	2. 高校( )年
学校生活の状況(すべてに○)	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れが多い	
	8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出が遅れることが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活動を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 学校納付金が遅れる、未払い 13. その他( )	
家族構成(すべてに○)	1. 母親	3. 祖母
	2. 父親	4. 祖父
		5. きょうだい
		6. その他( )
家族でのケアの状況(すべてに○)	①学校はケアの状況を把握しているか → はい ・ いいえ	
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容	
	a)ケアを必要としている人	b)ケアを必要としている人の状況
	1. 母親	1. 高齢(65歳以上)
	2. 父親	2. 若い
	3. 祖母	3. 要介護(介護が必要な状態)
	4. 祖父	4. 認知症
	5. きょうだい	5. 身体障がい
	6. その他( )	6. 知的障がい
	c)ケアの内容	
	1. 家事食事の準備や掃除、洗濯	7. 見守り
	2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳(日本語や手話など)
	3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9. 金銭管理
	4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	10. 薬の管理
	5. 通院の付き添い	11. その他( )
	6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12. わからない
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ		
つないだ関係機関	1. 市区町村教育委員会 2. 市区町村名の福祉部門(要保護児童対策地域協議会の調整機関/患 3. 市区町村名の保健部門 4. 市区町村名の要保護児童対策地域協議会の調整 5. 教育支援センター(適応指導教室)	
	6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設 7. 児童相談所 8. 民生委員 9. 病院 10. 警察や刑事司法関係機関 11. その他( )	
外部機関へのつなぎ方	1. 市区町村教育委員会 2. 学校から直接連絡 3. その他( )	
学校で行った支援等(要対協との連携も含めて)		
支援した結果、子どもの変化		

(4) (2)で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答にお伺いします。

外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのようにに対応しているのかお教えてください。

理由	
対応方法	

(5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。

具体的にお答えください。

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

(7) 問6の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したものです。追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

ご意見	
改善案	

〈参考:問6の選択肢〉

<input type="checkbox"/> 学校を休みがちである	<input type="checkbox"/> 保護者の承諾が必要な書類等の提出が遅れることが多い
<input type="checkbox"/> 遅刻や早退が多い	<input type="checkbox"/> 学校に必要なものを用意してもらえない
<input type="checkbox"/> 保健室で過ごしていることが多い	<input type="checkbox"/> 部活動をやめてしまった
<input type="checkbox"/> 身だしなみが整っていない	<input type="checkbox"/> 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
<input type="checkbox"/> 学力が低下している	<input type="checkbox"/> 学校納付金が遅れる
<input type="checkbox"/> 宿題や持ち物の忘れ物が多い	

問16 < 問14で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。 >

その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が低いと捉え、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
3. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
5. その他( )

問17 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること
5. 子どもが教職員に相談しやすい環境をつくること
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
9. ヤングケアラーを支援するNPO法人などの団体が増えること
10. 福祉と教育の連携を進めること(具体的に: )
11. その他( )
12. 持たない

問18 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・障害者相談支援事業所・  
障害者基幹相談支援センターにおけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

※実際は携帯電話またはパソコン等からのインターネット回答

I. 基本調査

問1 貴事業所の区分を教えてください。

1. 居宅介護支援事業所
2. 地域包括支援センター
3. 障害者相談支援事業所
4. 障害者基幹相談支援センター

問2 貴事業所の所在地を教えてください。

※30市町村の選択肢より回答

II. ヤングケアラーについてお伺いします。

※地域包括支援センターは、居宅介護支援事業所が関わっていないケースについてご回答ください。

※障害者基幹相談支援センターは、障害者相談支援事業所が関わっていないケースについてご回答ください。

問3 支援に関わっている世帯のうち、下記の子ども（18歳未満）について事業所内で共有しているケースはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 家族の身体的な介護をしている     | 8. 家族の通院や外出時の同行を手伝っている  |
| 2. 家族の情緒的な支援をしている     | 9. 家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている |
| 3. きょうだいの世話をしている      | 10. 家族の服薬管理や投与を手伝っている   |
| 4. 家事をしている            | 11. 精神的な不安定さがある         |
| 5. 家族の通訳をしている（日本語・手話） | 12. その他                 |
| 6. 学力が低下している          | 13. 特になし                |
| 7. 生活費の援助をしている        |                         |

問4 貴事業所では「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

1. 言葉を知らない →問7へ
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない →問7へ
3. 言葉は知っているが、事業所としては特別な対応をしていない →問7へ
4. 言葉を知っており、事業所として意識して対応している →問5へ

問5 <問4で、「4. 言葉を知っており、事業所として意識して対応している」と回答した事業所にお伺いします。>  
「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 把握している →問6へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない →問7へ
3. 該当する子どもはいる →問7へ

問6 <問5で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。>

「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している
3. その他( )

問7 ヤングケアラーを把握していない事業所も含め、全員にお伺いします。

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。



ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴事業所が支援している世帯にヤングケアラーと思われる(可能性も含めて)子どもはいますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. いる →問8へ
2. いない →問10へ
3. 分からない →問9へ

問8 <問7で「1. いる」と回答した方にお伺いします。>

(1)貴事業所が把握しているヤングケアラーの世帯数についてお教えてください。(令和3年8月1日時点)

( ) 世帯

(2)ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている  
 2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている  
 3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている  
 4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている  
 5. 家族の通訳をしている(日本語や手話など)  
 6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている  
 7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している  
 8. 病気の家族の看病をしている  
 9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている  
 10. 高齢の家族の身の回りの世話をしている  
 11. その他( )

(3)ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に外部機関の支援につないだケースはありますか。

1. 外部機関につないだケースがある  
 2. 外部の支援につないでいない →(5)へ

①具体的にどこに繋がりましたか?(あてはまる番号すべてに○)

1. 要保護児童対策地域協議会  
 2. 学校  
 3. 教育委員会  
 4. 児童相談所  
 5. 市町村(児童福祉担当)  
 6. 市町村(高齢者福祉担当)  
 7. 市町村(障害者福祉担当)  
 8. 地域包括支援センター  
 9. 障害者基幹相談支援センター  
 10. その他( )

→(4)へ

(4) <(3)で「1. 外部機関につないだケースがある」とお答えした事業所にお伺いします。>

該当する直近のケースについて、教えてください。

性別(1つに○)	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年(1つに○)	1. 中学1年	4. 高校1年	7. その他( )歳
	2. 中学2年	5. 高校2年	
	3. 中学3年	6. 高校3年	
家庭での状況(すべてに○)	1. 家族の身体的な介護をしている	7. 生活費の援助をしている	
	2. 家族の情緒的な支援をしている	8. 家族の通院や外出時の同行を手伝っている	
	3. きょうだいの世話をしている	9. 家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている	
	4. 家事をしている	10. 家族の服薬管理や投与を手伝っている	
	5. 家族の通訳をしている(日本語・手話)	11. 精神的な不安定さがある	
	6. 学力が低下している	12. その他( )	
家族構成(すべてに○)	1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
	2. 父親	4. 祖父	6. その他( )
子どもが担っているケアの状況(すべてに○)	①子どもが担っているケアの状況を把握していますか → はい ・ いいえ		
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容		
	a)子どもがケアをしている人	b)子どもがケアをしている人の状況	
	1. 母親	1. 高齢(65歳以上)	7. 精神疾患(疑い含む)
	2. 父親	2. 幼い	8. 依存症(疑い含む)
	3. 祖母	3. 要介護(介護が必要な状態)	9. 「精神疾患」「依存症」以外の病気
	4. 祖父	4. 認知症	10. その他( )
	5. きょうだい	5. 身体障がい	11. わからない
	6. その他( )	6. 知的障がい	
	c)子どもがケアをしている内容		
	1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り	
	2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳(日本語や手話など)	
	3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9. 金銭管理	
	4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	10. 薬の管理	
	5. 通院の付き添い	11. 家計援助(アルバイトなど)	
	6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12. その他( )	
		13. わからない	
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ			
子どもにケアを手伝ってもらわなければならない理由として考えられることは何ですか?(すべてに○)	1. 介護は家族で行うものだと思っている 2. 他人に家に入ってほしくないと思っている 3. 介護保険サービスを限度額いっぱい使っているが更に介護が必要だから 4. 子どもが家の役に立つことにやりがいを感じている 5. お金がかかるのが困るから 6. その他( )		
つないだ機関	1. 要保護児童対策地域協議会 2. 学校 3. 教育委員会 4. 児童相談所 5. 市町村(児童福祉担当) 6. 市町村(高齢者福祉担当) 7. 市町村(障害者福祉担当) 8. 地域包括支援センター 9. 障害者基幹相談支援センター 10. その他( )		
外部機関につないだ結果、ケアの状況に変化がありましたか?(子どもの立場からの変化について)(ひとつに○)	1. 改善された 2. 改善中 3. 支援を検討中 4. 改善されていない 5. 不明 6. その他( )		

(5) < (3)で「2. 外部の支援にはつないでいないと回答した事業所にお伺いします。」>

外部の支援につながらなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

※(3)で「1. 外部機関につないだケースがある」と回答した場合も、外部の支援につないでいないケースがある場合は回答を求めらる。

理由	
対応方法	

(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

(7) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

(8) 問3の選択肢は、「ヤングケアラー」と思われる子どもを把握するためのチェック項目として作成したものです。追加すべき項目や分かりにくい点や案があればお書きください。

ご意見	
変更項目案	
追加項目案	

<参考:問3の選択肢>

<input type="checkbox"/> 家族の身体的な介護をしている	<input type="checkbox"/> 生活費の援助をしている
<input type="checkbox"/> 家族の情緒的な支援をしている	<input type="checkbox"/> 家族の通院や外出時の同行を手伝っている
<input type="checkbox"/> きょうだいの世話をしている	<input type="checkbox"/> 家族の金銭管理や事務手続きを手伝っている
<input type="checkbox"/> 家事をしている	<input type="checkbox"/> 家族の服薬管理や投与を手伝っている
<input type="checkbox"/> 家族の通訳をしている(日本語・手話)	<input type="checkbox"/> 精神的な不安定さがある
<input type="checkbox"/> 学力が低下している	

問9 < 問7で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。>

その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 事業所において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している

2. 児童虐待などに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる

3. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい

4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない

5. その他( )

問10 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること

2. 関係機関がヤングケアラーについて知ること

3. ヤングケアラーについて、把握する体制を構築すること

4. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど教育関係機関の専門職の配置が充実すること

5. 市町村などの役所に専門職の配置を充実すること

6. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること

7. 市町村にヤングケアラーの支援について相談できる窓口があること

8. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること

9. 福祉と教育の連携を進めること(具体的に: )

10. その他 ( )

11. 特にない

問11 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

★2021年9月以降に、事業所での取り組みについてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける事業所は、事業所名をご記入ください。

事業所名:

郵便番号:

住所:

電話番号:

メールアドレス:

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

要保護児童対策地域協議会における  
ヤングケアラーへの対応に関する実態調査

市区町村名		課室名	
電話番号		メール	

貴地域協議会の活動状況や「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応についておたずねします

問1 令和3年8月1日時点の貴地域協議会におけるケース登録数について教えてください。

※登録種別ごとのヤングケアラーの内訳がわからない場合は、要保護・要支援児童ケース登録数全体の中で「ヤングケアラー」と思われる子どもの総数だけでも回答ください。

	登録件数 (令和3年8月1日時点)	うち「ヤングケアラー」と 思われる子どもの件数 (令和3年8月1日時点)	※総数
要保護児童ケース登録数	件	件	件
要支援児童ケース登録数	件	件	
特定妊婦ケース登録数	件	件	

問2 貴地域協議会では、「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 認識している
2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった
3. 認識していない ⇒ 問6へ

問3 問2で「1. 認識している」「2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」と回答された地域協議会におうかがいします。貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまるもの1つに○)

※貴協議会において相談受理したケースについて、実態を把握しているかどうかおうかがいします。

1. 把握している ⇒ 問4へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒ 問5へ
3. 該当する子どもがいない ⇒ 問6へ

問4 問3で「1. 把握している」と回答された地域協議会におうかがいします。貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態をどのように把握していますか。また、いつ確認をすることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している →確認を行う時期 ( )
3. 関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している
4. その他 ( )

問5 問3で「2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」と回答した地域協議会におうかがいします。その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 既存のアセスメント項目では該当する子どもを見つけにくい
3. 虐待などに比べ緊急度が不高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
4. 学校などでの様子を迅速に確認、把握することが難しい
5. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している
6. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
7. ケアマネやCW、学校の先生などに「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
9. その他 ( )

全ての要保護児童対策地域協議会にお伺いします

問6 貴地域協議会において、要保護(要支援)登録児童への対応方針の検討や進捗管理はどのように実施されていますか。

要保護(要支援)児童への具体的な対応方針の検討の場	1. 実務者会議で検討 2. 個別ケース検討会議で検討 3. その他(具体的に ( ))
要保護(要支援)児童への対応に関する進捗管理の場	1. 実務者会議で検討 2. 個別ケース検討会議で検討 3. その他(具体的に ( ))

問7 貴地域協議会では、要保護(要支援)児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、  
下記のようなことについてどのように対応されていますか(対応することを決めていますか。)

<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針 (あてはまるもの1つに○) ※ここでは進行管理の責任主体のことを指します</p>	<p>1. 他の要保護(要支援)児童と同じ対応 2. 他の要保護(要支援)児童とは別に決めている →(具体的に： ) 3. その他( ) 4. 特に決まっていない</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して、今後の対応等に関して意向把握をする人(部署・機関)※ (あてはまるもの1つに○) ※ここでは必要な支援を主に 行う機関のことを指します</p>	<p>1. 他の要保護(要支援)児童と同じ対応 2. 他の要保護(要支援)児童とは別に決めている →(具体的に： ) 3. その他( ) 4. 特に決まっていない</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫されていることがありますか。 (あてはまるもの1つに○)</p>	<p>1. ある →(具体的に： ) 2. 特にない 3. その他(具体的に： )</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、医療機関(※)との連携で工夫されていることがありますか。 (あてはまるもの1つに○) ※ここでの医療機関とは、ケアの対象者が、医療的ケアが必要(精神疾患、依存症)などで、ケア対象者自身が通っている医療機関のことを指し、子ども本人が通っている医療機関ではありません</p>	<p>1. ある →(具体的に： ) 2. 特にない 3. その他(具体的に： )</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫されていることがありますか。 (あてはまるもの1つに○)</p>	<p>1. ある →(具体的に： ) 2. 特にない 3. その他(具体的に： )</p>

貴地域協議会や自治体におけるヤングケアラーに対する取組についておたずねします

問8 「ヤングケアラー」と思われる子どもの有無にかかわらず、貴地域協議会を設置している市区町村名で、ヤングケアラーに関する取組を行っていますか。あてはまるものすべてに○

ヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査  
あればお答えください。

<p>1. 広報紙やパンフレット、ポスターなどによる啓発 2. 一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催 3. 教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査 4. 関係機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化 5. 関係機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修の実施 6. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)への相談支援の実施 7. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供 8. その他( ) 9. 特にしていない</p>
---

【選択肢1～8を回答された方】

選択肢番号	具体的内容

うち、今年度から実施している取組があれば、お答えください。

回答				
----	--	--	--	--

貴地域協議会におけるヤングケアラーの早期発見や支援などについておたずねします

問9 貴地域協議会において、相談、通告のあった子どもや登録されている子どもが「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上で、課題に感じることはなんですか。(あてはまるもの)

1. 地域協議会の構成職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない
3. 既存のアセスメント項目では、日常生活の様子について踏み込んだ確認ができない
4. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している
5. 虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
6. 家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい
7. ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
9. その他( )

問10 貴地域協議会において、「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して支援をする際に、課題として考えられることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない
2. 家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない
3. 保護者が子どもへの支援に同意しない
4. 要保護児童対策地域協議会の関係機関・団体において、ヤングケアラーに関する知識が不足している
5. 学校など関係機関との情報共有などネットワークの構築が不十分
6. 福祉分野や教育分野など複数の機関またがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートをできる人材が地域協議会にいない
7. 既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方策を検討しにくい
8. その他( )

問11 貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、学校やケアが必要な家族の関係機関等に期待することは何ですか。自由に記載ください。

ヤングケア	<p>〈学校、教育委員会に対して期待すること〉</p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div>
ヤングケア	<p>〈児童相談所に対して期待すること〉</p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div>
ヤングケア	<p>〈ケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待すること〉</p> <p><u>うち、保育所・幼稚園などに対して期待すること(きょうだいの世話をしているヤングケアラー等の支援)</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div> <p><u>うち、保健センターに対して期待すること(きょうだいの世話、精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div> <p><u>うち、ケアマネなどに対して期待すること(高齢や認知症の家族介護等をしているヤングケアラー等の支援)</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div> <p><u>うち、相談支援事業所などに対して期待すること(精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div> <p><u>うち、医療機関などに対して期待すること(精神疾患等の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)</u></p> <div style="border: 1px dashed black; height: 80px; margin-top: 5px;"></div>

問12 貴地域協議会では、「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、次年度(令和4年度)に折り組む予定のものはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。1～8を回答された場合は、可能であれば下表に選択肢番号とその具体内容をわかる範囲でお教えください。

- 2. 一般市民向けのヤングケアラーに関する講演会の開催
- 3. 教育委員会等でのヤングケアラーの実態把握・調査
- 4. 医療機関・団体とのネットワーク・連携体制の強化
- 5. 医療機関・団体とのヤングケアラーに関する勉強会や研修を実施
- 6. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)への相談支援の実施
- 7. ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供
- 8. その他( )
- 9. 現時点では、予定していない

【選択肢1～8を回答された方】

選択肢番号	具体的内容

同封の『「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート』についておたずねします

問13 現在、貴地域協議会において、「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシートを使用されていますか。(あてはまるもの1つに○)

- b. 貴相談所の状況に合わせて項目をアレンジして使用している  
⇒具体的に( )
- 2. 使用していない
- 3. アセスメントシートを把握していない

※「1. 使用している」を回答された協議会のうち、「b. 貴協議会の状況に合わせて項目をアレンジして使用している」と回答された地域協議会のみなさま  
貴地域協議会にて使用されているアセスメントシートをいただくことが可能でしたら、様式1部を添付していただけますと幸いです。

～調査は以上です～  
～御協力ありがとうございました～

児童相談所における  
 ヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

児童相談所名	課名
電話番号	

貴児童相談所の活動状況や「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応についておたずねします

問1 令和3年8月1日時点の貴児童相談所におけるケース登録数について教えてください。

	登録件数 (令和3年8月1日時点)		うち「ヤングケアラー」と 思われる子どもの件数 (令和3年8月1日時点)
児童福祉司指導措置ケース登録数	件		件
継続指導ケース登録数	件		件
調査中ケース登録数	件		件

問2 貴児童相談所では、「ヤングケアラー」という概念を認識していますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 認識している
2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった
3. 認識していない ⇒ 問6へ

問3 問2で「1. 認識している」「2. 昨年までは認識していなかったが、認識するようになった」と回答された児童相談所におうかがいします。貴児童相談所では、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。(あてはまるもの1つに○)

※貴児童相談所において相談受理したケースについて、実態を把握しているかどうかおうかがいします。

1. 把握している ⇒ 問4へ
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒ 問5へ
3. 該当する子どもがいない ⇒ 問6へ

問4 問3で「1. 把握している」と回答された児童相談所におうかがいします。貴児童相談所では、「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態をどのように把握していますか。また、いつ確認をすることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている  
→確認を行う時期 ( )
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している  
→確認を行う時期 ( )
3. 関係機関や関係団体からの報告・指摘があった際に、「ヤングケアラー」として対応している
4. その他 ( )

問5 問3で「2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」と回答した児童相談所におうかがいします。その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 児童相談所の職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
2. 既存のアセスメント項目では該当する子どもを見つけにくい
3. 虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態に把握が後回しになる
4. 学校などでの様子を迅速に確認、把握することが難しい
5. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している
6. 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
7. ケアマネやCW、学校の先生などに「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
9. その他 ( )

全ての児童相談所にお伺いします

問6 貴児童相談所では、要保護(要支援)児童の中に「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた場合、下記のようなことについてどのように対応されていますか(対応することを決めていますか。)

<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応方針を決定するプロセス。(あてはまるもの1つに○)</p>	<p>1. 他の要保護(要支援)児童と同じ対応 2. 他の要保護(要支援)児童とは別に決めている →(具体的に: ) 3. その他( ) 4. 特に決まっていない</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、学校との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまるもの1つに○)</p>	<p>1. ある →(具体的に: ) 2. 特にない 3. その他(具体的に: )</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、市区町村(※)との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまるもの1つに○) ※ここでの市区町村とは、要対協、教育委員会、子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点などを指します</p>	<p>1. ある →(具体的に: ) 2. 特にない 3. その他(具体的に: )</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、医療機関(※)との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまるもの1つに○) ※ここでの医療機関とは、ケアの対象者が、医療的ケアが必要(精神疾患、依存症)などで、ケア対象者自身が通っている医療機関のことを指し、子ども本人が通っている医療機関ではありません</p>	<p>1. ある →(具体的に: ) 2. 特にない 3. その他(具体的に: )</p>
<p>「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応のため、通訳など日本語ができない保護者等への支援を行う関係機関との連携で工夫されていることがありますか。(あてはまるもの1つに○)</p>	<p>1. ある →(具体的に: ) 2. 特にない 3. その他(具体的に: )</p>

貴児童相談所におけるヤングケアラーの早期発見や支援などについておたずねします

問7 貴児童相談所において、相談、通告のあった子どもや支援している子どもが「ヤングケアラー」である可能性を早期に確認する上で、課題に感じることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<p>1. 児童相談所の職員において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している 2. 既存のアセスメント項目では、学校での様子について踏み込んだ把握ができない 3. 既存のアセスメント項目では、日常生活の様子について踏み込んだ確認ができない 4. 介護や障害等の課題に関して、各関係機関や団体などの情報共有が不足している 5. 虐待などに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる 6. 家族内のことで問題が表に出にくく、子どもの「ヤングケアラー」としての状況の把握が難しい 7. ケアマネやCW、学校の先生など関係機関や団体の職員等において「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している 8. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない 9. その他( )</p>
---

問8 貴児童相談所において、「ヤングケアラー」と思われる子どもに対して支援をする際に、課題として考えられることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<p>1. 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない 2. 家族や周囲の大人に子どもが「ヤングケアラー」である認識がない 3. 保護者が子どもへの支援に同意しない 4. 要保護児童対策地域協議会の関係機関・団体において、ヤングケアラーに関する知識が不足している 5. 学校など関係機関との情報共有などネットワークの構築が不十分 6. 福祉分野や教育分野など複数の機関またがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートをできる人材が地域協議会にいない 7. 既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方策を検討しにくい 8. その他( )</p>
---

問9 貴児童相談所では、「ヤングケアラー」と思われる子どもへの対応として、学校やケアが必要な家族の関係機関等に期待することは何ですか。自由に記載ください。

〈学校、教育委員会に対して期待すること〉

〈市区町村に対して期待すること〉 ※要対協、教育委員会、子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点など

〈ケアが必要な家族に関わっている機関に対して期待すること〉

うち、保育所・幼稚園などに対して期待すること(きょうだいの世話をしているヤングケアラー等の支援)

うち、保健センターに対して期待すること(きょうだいの世話、精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)

うち、ケアマネなどに対して期待すること(高齢や認知症の家族介護等をしているヤングケアラー等の支援)

うち、相談支援事業所などに対して期待すること(精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)

うち、医療機関などに対して期待すること(精神疾患の家族の世話をしているヤングケアラー等の支援)

同封の『「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシート』についておたずねします

問10 現在、貴児童相談所において、「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシートを使用されていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 使用している → a. そのまま使用している  
b. 貴相談所の状況に合わせて項目をアレンジして使用している  
⇒具体的に( )

2. 使用していない

3. アセスメントシートを把握していない

※「1. 使用している」を回答された相談所のうち、「b. 貴相談所の状況に合わせて項目をアレンジして使用している」と回答された児童相談所のみなさま

貴児童相談所にて使用されているアセスメントシートをいただくことが可能でしたら、様式1部を添付していただけますと幸いです。

問11 現在、貴児童相談所において、市区町村へケースの支援を引き継ぐにあたっての対応についておうかがいします。

1. 引き継ぐ時期

2. 引継ぐ方法

～調査は以上です～  
～ご協力ありがとうございました～